

令和8年度

医学部医学科講義概要

(2年次生)

(3年次生)

(4年次生)

新潟大学医学部医学科

医学部医学科の教育理念

医学を通して人類の幸福に貢献する

医学部医学科が求める学生像

- ・ 良き医療人・医学者になるための強い学習意欲と科学的探究心を有する人
- ・ 協調性に富み、豊かな教養と人間性、社会に貢献するために必要な倫理観を有する人
- ・ 広い視野を有し、積極的に行動できる人

医学部医学科の教育目標

1. 豊かな人間性と高い倫理性を備え、全人的医療に貢献できる人材の育成
2. 高度の専門性を持つ医療チームの一員として貢献できる人材の育成
3. 広い視野と高い向学心を有する医学研究者・教育者となり得る人材の育成
4. 保健、医療、福祉、厚生行政に貢献できる人材の育成
5. 地域の医療に貢献するとともに、国際的に活躍できる人材の育成
6. 探求心、研究心、自ら学ぶ態度を生涯持ちつづける人材の育成

医学部医学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

医学科では、所定の年限在学し、医学科の教育理念「医学を通して人類の幸福に貢献する」に基づき定められた全科目に合格し、科学的姿勢、コミュニケーション能力、人間性、社会性などの医に求められるプロフェッショナリズムを十分に身につけた学生に学士（医学）の学位を授与する。

新潟大学医学部医学科のアウトカム

I コミュニケーション

卒業生は：
患者・家族及び医療従事者間で適切なコミュニケーションをとることができる。

1. 患者・家族、医師及び他医療職種間と良好な関係を形成し、正確な情報の収集・伝達ができる。
2. 患者・家族に傾聴、共感、支持的態度を示し、適切な診療ができる。
3. 英語を用いて患者と基本的なコミュニケーションをとることができる。

II 医学の専門的な知識

卒業生は：
以下の医学に関する知識を有し実践に応用できる。

1. 各臓器の構造と機能
2. 心理・行動
3. 病態生理
4. 診断と治療
5. 疫学
6. 医薬品と薬理作用
7. 医療機器
8. 医療行政
(予防/保健/福祉/医療)
9. 医療経済

III 倫理観と人間性

卒業生は：
患者・利用者の価値観や背景を理解し、個性を尊重できる。プロフェッショナルにふさわしい倫理観をもち、礼節ある態度を示すことができる。

1. 法的責任・規則を遵守できる。
2. 患者中心の視点を持ち、利他的、共感的に対応できる。
3. 多様な価値観や文化的背景を理解し患者・利用者の個性に配慮できる。
4. 患者・利用者に対して正直、誠実であり、礼儀正しく振る舞うことができる。
5. 研究・医療倫理、医療安全、守秘義務、説明責任を理解し実践できる。

IV 診療の実践

卒業生は：
基本的な診療を指導医の監督下で実践できる。

1. 基本的診療と手技ができる。
2. 診断と治療に必要な検査を選択し、データを解釈できる。
3. 適切な診断ができる。
4. 適切な治療計画が立てられる。
5. 診療記録を適切に記載し、プレゼンテーションできる。
6. チーム医療の重要性を理解し、安全な医療を実践できる。

V 保健・医療・福祉への貢献

卒業生は：
保健・医療・福祉に関する制度や業務を理解し、その改善に貢献できる。

1. 疾病の予防に貢献できる。
2. 患者への健康教育を実践できる。
3. 地域の保健指導を実践できる。
4. 検診、スクリーニングの重要性を理解し実践ができる。
5. 厚生・行政の概要を理解し役割を果たすことができる。
6. 社会福祉、保険制度を理解し実践できる。

VI 地域医療と国際性

卒業生は：
国際的な視野をもちつつ、地域の実情に合った医療を実践できる。

1. 地域の実情（伝統や風習）を踏まえた地域医療を実践できる。
2. 語学に堪能で国際的な視野をもって行動できる。
3. 国際保健に関心をよせ情報収集し、課題解決に取り組める。
4. 海外の学生と積極的に交流できる。

VII リサーチマインド

卒業生は：
基礎・臨床研究に興味をもち、自ら問題を発見し、論理的思考で問題解決をはかることができる。

1. 基礎・臨床研究に興味をもち、研究に取り組むことができる。
2. 自ら未知・未解決な問題を発見し、論理的思考により研究を推進し、問題解決できる。
3. 研究についてプレゼンテーションができ、新しい知見を発信できる。

VIII 自己研鑽・生涯学習

卒業生は：
生涯にわたり自ら学ぶ態度をもち、自己研鑽を続けることができる。

1. 自己主導型学習により課題を設定し、その解決のために正しく情報を検索し、課題解決できる。
2. 自己評価と振り返りを通して生涯学習を継続できる。
3. 現場での実践を通して自己の向上を図ることができる。
4. 探究心、向学心、向上心をもち続けられる。

目 次

	授業暦	1
	学年別時間割表	2
	講義室使用計画	17

(2年次生)

M1201	人体の構造と機能 I	概要 18 生理学 19 解剖総論 22 肉眼解剖学 24 組織学総論 28 生体内物質と代謝 30	18
M1202	生理学実習		32
M1203	人体の構造と機能 II	概要 34 神経解剖学 35 生理学 38 組織学各論 41 発生学 43 生化学実習 45	34
M1204	臨床基礎医学 I	概要 47 病気と遺伝学 48 薬理学 50	47
M1205	社会医学 I	概要 52 疫学 53 医療情報学 (基礎) 55	52
M1206	研究室配属見学		57
M1207	早期地域医療体験実習 (EME) II		58
M1208	倫理観と人間性 I		61
M1209	基礎臨床統合		63
M1210	医学英語 I		65

(3年次生)

M1301	薬物による生体調節		67
M1302	アドバンス基礎医学		71
M1303	早期地域医療体験実習 (EME) III		73
M1304	病理総論		77
M1305	生体防御と感染 (細菌学)		79
M1306	生体防御と感染 (免疫学)		83
M1307	生体防御と感染 (ウイルス学)		86
M1308	生体防御と感染 (医動物学)		89

M1309	生体防御と感染（総合）	92
M1310	環境医学	95
M1313	医学研究実習	98

(4年次生)

M1401	法医学	99
M1402	医学情報学（応用）	102
M1403	公衆衛生学	104
M1409	医学英語Ⅱ	107
M1410	多職種連携	109

令和8年度新潟大学医学部医学科 授業暦 (2026.4～2027.3)

／は、休業（講）日を示す。

第1学期

第2学期

第1学期								第2学期								
日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土		
			1	2	3	4	4/1 学年開始					1	2	3	10/7, 14, 21 卒業試験(6年次)	
4月	5	6	7	8	9	10	4/1 (2～6年次) 第1学期授業開始	10月	4	5	6	7	8	9	10	10/20～10/23 EME(2年次) 10/15, 16 CBT(4年次)
	12	13	14	15	16	17	4/3 入学式		11	12	13	14	15	16	17	
	19	20	21	22	23	24	4/3 旭町医療系学部合同 ガイダンス (2年次)		18	19	20	21	22	23	24	
	26	27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	
					1	2										11/16 医学研究実習発表会(3年次)
5月	3	4	5	6	7	8	5/8 解剖体慰霊祭(2年次) 掃墓追悼式(3年次)	11月	8	9	10	11	12	13	14	
	10	11	12	13	14	15			15	16	17	18	19	20	21	11/19, 20 OSCE(4年次)
	17	18	19	20	21	22			22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29			29	30						
	31															
		1	2	3	4	5	6/1 開学記念日				1	2	3	4	5	12月下旬 白衣式(4年次)
6月	7	8	9	10	11	12		12月	6	7	8	9	10	11	12	
	14	15	16	17	18	19			13	14	15	16	17	18	19	冬期休業 12/27～1/3(2～5年次)
	21	22	23	24	25	26			20	21	22	23	24	25	26	
	28	29	30						27	28	29	30	31			
			1	2	3	4								1	2	
7月	5	6	7	8	9	10	7/24 授業終了(2年次) 7/24 授業終了(5年次) 7/27 授業終了(3年次) 7/31 授業終了(4年次)	1月	3	4	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	17			10	11	12	13	14	15	16	1/16, 17大学入学共通テ スト
	19	20	21	22	23	24			17	18	19	20	21	22	23	
	26	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	
									31							
						1				1	2	3	4	5	6	2/5 授業終了(2年次)
8月	2	3	4	5	6	7	8/3 授業終了(6年次)	2月	7	8	9	10	11	12	13	
	9	10	11	12	13	14			14	15	16	17	18	19	20	
	16	17	18	19	20	21	8/21, 8/24～8/27 EME(1年次)		21	22	23	24	25	26	27	2/25, 26, 27 入学試験(前期日程)
	23	24	25	26	27	28			28							
	30	31					8/31 授業再開(5年次)									
			1	2	3	4										
9月	6	7	8	9	10	11	9/1, 2 Post-CC-OSCE (6 年次) 9/3授業再開 (4年次) 9/7 授業再開(3年次) 9/7～10/30医学研究実習 (3年次) 9/14 授業再開 (2年次) 9/8～10/2臨床医学講義 (集中)(6年次)	3月		1	2	3	4	5	6	3/1 授業終了 (3年次) 3/5 実習終了 (5年次)
	13	14	15	16	17	18			7	8	9	10	11	12	13	
	20	21	22	23	24	25			14	15	16	17	18	19	20	
	27	28	29	30					21	22	23	24	25	26	27	3/23 卒業式
									28	29	30	31				3/26 実習終了 (4年次)

<p>補講(予備)日 2年次 2026年7月27日～8月7日 3年次 2026年7月28日～8月7日 4年次 2026年8月3日～8月7日 5年次 2026年8月3日～8月7日 6年次 2026年8月4日～8月7日</p> <p>夏期休業 2年次 2026年8月11日～9月13日 3年次 2026年8月11日～9月6日 4年次 2026年8月11日～9月2日 5年次 2026年8月11日～8月30日 6年次 2026年8月11日～8月31日</p>	<p>冬期休業 2～5年次 2026年12月27日～2027年1月3日</p> <p>補講(予備)日 2年次 2027年2月8日～3月10日 3年次 2027年3月2日～3月10日</p> <p>春期休業 2, 3, 5年次 2027年3月11日～3月31日 4年次 2027年3月27日～3月31日</p>
--	--

<p>参考 (1年次) 第1ターム 2026年4月8日～6月8日 第2ターム 2026年6月10日～8月5日</p>	<p>第3ターム 2026年10月2日～12月1日 第4ターム 2026年12月3日～2027年2月12日</p>
--	---

第 1 週 (2026. 4. 1-4. 3)

時間	曜日	3月30日(月)	3月31日(火)	4月1日(水)	4月2日(木)	4月3日(金)
8:30 ~ 9:30				倫理観と人間性 学年ガイダンス	人体の構造と機能 I (解剖総論)	旭町医療系学部 合同ガイダンス
9:40 ~ 10:40				キャリアパス説明会		
10:50 ~ 11:50				人体の構造と機能 I (組織学総論)	●人体の構造と機能 I (組織学総論)	入学式のため休講
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

※旭町医療系学部合同ガイダンスの詳細なスケジュール等は別途通知する。

第 2 週 (2026. 4. 6-4. 10)

時間	曜日	4月6日(月)	4月7日(火)	4月8日(水)	4月9日(木)	4月10日(金)
8:30 ~ 9:30		人体の構造と機能 I (生化)	人体の構造と機能 I (生化)	補講 (健康診断)	人体の構造と機能 I (解剖総論)	人体の構造と機能 I (生理)
9:40 ~ 10:40				09:00-11:30 女子		
10:50 ~ 11:50				13:00-15:30 男子		
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 I (生理)	人体の構造と機能 I (解剖総論)		●人体の構造と機能 I (解剖総論)	人体の構造と機能 I (解剖総論)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第 3 週 (2026. 4. 13-4. 17)

時間	曜日	4月13日(月)	4月14日(火)	4月15日(水)	4月16日(木)	4月17日(金)
8:30 ~ 9:30		人体の構造と機能 I (生化)	人体の構造と機能 I (生化)	人体の構造と機能 I (解剖総論)	人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (解剖総論)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		●人体の構造と機能 I (解剖総論)	●人体の構造と機能 I (解剖総論)	●人体の構造と機能 I (組織学総論)	人体の構造と機能 I (組織学総論)	●人体の構造と機能 I (解剖総論)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第 4 週 (2026. 4. 20-4. 24)

時間	曜日	4月20日(月)	4月21日(火)	4月22日(水)	4月23日(木)	4月24日(金)
8:30 ~ 9:30		人体の構造と機能 I (生化)	人体の構造と機能 I (生化)	人体の構造と機能 I (生理)	人体の構造と機能 I (解剖総論) ※試験	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 I (生理)	人体の構造と機能 I (生理)	人体の構造と機能 I (生化)	人体の構造と機能 I (組織学総論)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
14:10 ~ 15:10					医学英語	
15:20 ~ 16:20						

第 5 週 (2026. 4. 27-5. 1)

時間	曜日	4月27日(月)	4月28日(火)	4月29日(水)	4月30日(木)	5月1日(金)
8:30 ~ 9:30		人体の構造と機能 I (生化)	人体の構造と機能 I (生化)	昭和の日	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 I (生理)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)		●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第 6 週 (2026. 5. 4-5. 8)

時間	曜日	5月4日(月)	5月5日(火)	5月6日(水)	5月7日(木)	5月8日(金)
8:30 ~ 9:30		みどりの日	こどもの日	振替休日	人体の構造と機能 I (生化)	倫理観と人間性 解剖体慰霊祭 (予定)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00					人体の構造と機能 I (生理)	帰還追悼式のため 休講
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第 7 週 (2026. 5. 11-5. 15)

時間	曜日	5月11日(月)	5月12日(火)	5月13日(水)	5月14日(木)	5月15日(金)
8:30 ~ 9:30		人体の構造と機能 I (生化)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	人体の構造と機能 I (生理)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 I (生理)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (組織学総論)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第 8 週 (2026. 5. 18-5. 22)

時間	曜日	5月18日(月)	5月19日(火)	5月20日(水)	5月21日(木)	5月22日(金)
8:30 ~ 9:30		人体の構造と機能 I (生化)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	人体の構造と機能 I (生理)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	人体の構造と機能 I (生理)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 I (生理)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (組織学総論)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	人体の構造と機能 I (生化)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第 9 週 (2026. 5. 25-5. 29)

時間	曜日	5月25日(月)	5月26日(火)	5月27日(水)	5月28日(木)	5月29日(金)
8:30 ~ 9:30		人体の構造と機能 I (生化)	人体の構造と機能 I (生化)	人体の構造と機能 I (生理)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 I (生理)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	人体の構造と機能 I (組織学総論)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	人体の構造と機能 I (組織学総論)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第 10 週 (2026. 6. 1-6. 5)

時間	曜日	6月1日(月)	6月2日(火)	6月3日(水)	6月4日(木)	6月5日(金)
8:30 ~ 9:30		人体の構造と機能 I (生化)	補講 (ワクチン接種)	人体の構造と機能 I (生理)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 I (生化)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
14:10 ~ 15:10		人体の構造と機能 I (生理)				
15:20 ~ 16:20						

第11週(2026.6.8-6.12)

時間	曜日	6月8日(月)	6月9日(火)	6月10日(水)	6月11日(木)	6月12日(金)
8:30 ~ 9:30		人体の構造と機能 I (生化)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	人体の構造と機能 I (生理)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		●人体の構造と機能 I (組織学総論)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (組織学総論)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第12週(2026.6.15-6.19)

時間	曜日	6月15日(月)	6月16日(火)	6月17日(水)	6月18日(木)	6月19日(金)
8:30 ~ 9:30			●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	人体の構造と機能 I (組織学総論)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
9:40 ~ 10:40	医学英語					
10:50 ~ 11:50				基礎臨床統合		
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 I (組織学総論)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (組織学総論)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第13週(2026.6.22-6.26)

時間	曜日	6月22日(月)	6月23日(火)	6月24日(水)	6月25日(木)	6月26日(金)
8:30 ~ 9:30		医学英語	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		●人体の構造と機能 I (組織学総論)	●生理学実習 ガイダンス	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	●人体の構造と機能 I (肉眼解剖学)	倫理観と人間性 ※大講義室で実施
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第14週(2026.6.29-7.3)

時間	曜日	6月29日(月)	6月30日(火)	7月1日(水)	7月2日(木)	7月3日(金)
8:30 ~ 9:30		●生理学実習 ガイダンス	●生理学実習	補講 (ワクチン接種)	●生理学実習	●生理学実習
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 I (組織学総論) *試験	●生理学実習	基礎臨床統合	●生理学実習	●生理学実習
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第15週(2026.7.6-7.10)

時間	曜日	7月6日(月)	7月7日(火)	7月8日(水)	7月9日(木)	7月10日(金)
8:30 ~ 9:30		●生理学実習	●生理学実習	●生理学実習	●生理学実習	●生理学実習
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		●生理学実習	●生理学実習	●生理学実習	●生理学実習	●生理学実習
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第16週(2026.7.13-7.17)

時間	曜日	7月13日(月)	7月14日(火)	7月15日(水)	7月16日(木)	7月17日(金)
8:30 ~ 9:30		●生理学実習	●生理学実習 自己学習	●生理学実習 発表指導	●生理学実習 発表会	人体の構造と機能 I (肉眼解剖学) *試験
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		●生理学実習	●生理学実習 自己学習	●生理学実習 自己学習	基礎臨床統合	倫理観と人間性
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第17週(2026.7.20-7.24)

時間	曜日	7月20日(月)	7月21日(火)	7月22日(水)	7月23日(木)	7月24日(金)
8:30 ~ 9:30		海の日	人体の構造と機能 I (生理) *試験			人体の構造と機能 I (生化) *試験
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第18週(2026.7.27-7.31)

時間	曜日	7月27日(月)	7月28日(火)	7月29日(水)	7月30日(木)	7月31日(金)
8:30 ~ 9:30						
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

時間	曜日	8月31日(月)	9月1日(火)	9月2日(水)	9月3日(木)	9月4日(金)
8:30 ~ 9:30						
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第2週(2026.9.7-9.11)

時間	曜日	9月7日(月)	9月8日(火)	9月9日(水)	9月10日(木)	9月11日(金)
8:30 ~ 9:30						
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50		*再試験 実施期間	*再試験 実施期間	*再試験 実施期間	*再試験 実施期間	*再試験 実施期間
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第3週(2026.9.14-9.18)

時間	曜日	9月14日(月)	9月15日(火)	9月16日(水)	9月17日(木)	9月18日(金)
8:30 ~ 9:30		社会医学 I (医学情報学(基礎))	社会医学 I (医学情報学(基礎))	人体の構造と機能 II (発生学)	人体の構造と機能 II (生理)	人体の構造と機能 II (神経解剖学)
9:40 ~ 10:40	基礎臨床統合					
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 II (生理)	人体の構造と機能 II (生理)	人体の構造と機能 II (組織学各論)	人体の構造と機能 II (組織学各論)	●人体の構造と機能 II (組織学各論)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第4週(2026.9.21-9.25)

時間	曜日	9月21日(月)	9月22日(火)	9月23日(水)	9月24日(木)	9月25日(金)
8:30 ~ 9:30		敬老の日	国民の祝日	秋分の日	人体の構造と機能 II (生理)	人体の構造と機能 II (神経解剖学)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00					人体の構造と機能 II (組織学各論)	●人体の構造と機能 II (組織学各論)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第5週(2026.9.28-10.2)

時間	曜日	9月28日(月)	9月29日(火)	9月30日(水)	10月1日(木)	10月2日(金)
8:30 ~ 9:30		EME2 ガイダンス	人体の構造と機能 II (生理)	人体の構造と機能 II (発生学)	人体の構造と機能 II (生理)	人体の構造と機能 II (神経解剖学)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 II (生理)	人体の構造と機能 II (生理)	人体の構造と機能 II (組織学各論)	●人体の構造と機能 II (組織学各論)	●人体の構造と機能 II (組織学各論)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第6週(2026.10.5-10.9)

時間	曜日	10月5日(月)	10月6日(火)	10月7日(水)	10月8日(木)	10月9日(金)
8:30 ~ 9:30		社会医学 I (医学情報学(基礎))	人体の構造と機能 II (生理)	人体の構造と機能 II (発生学)	人体の構造と機能 II (発生学)	人体の構造と機能 II (神経解剖学)
9:40 ~ 10:40					基礎臨床統合	
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		●人体の構造と機能 II (組織学各論)	●人体の構造と機能 II (組織学各論)	●人体の構造と機能 II (組織学各論)	人体の構造と機能 II (組織学各論)	人体の構造と機能 II (組織学各論)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第7週(2026.10.12-10.16)

時間	曜日	10月12日(月)	10月13日(火)	10月14日(水)	10月15日(木)	10月16日(金)
8:30 ~ 9:30		スポーツの日		研究室配属シャドウイング実習		
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第8週(2026.10.19-10.23)

時間	曜日	10月19日(月)	10月20日(火)	10月21日(水)	10月22日(木)	10月23日(金)
8:30 ~ 9:30		社会医学 I (医学情報学(基礎))			EME2	
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第9週(2026.10.26-10.30)

時間	曜日	10月26日(月)	10月27日(火)	10月28日(水)	10月29日(木)	10月30日(金)
8:30 ~ 9:30		社会医学 I (医学情報学(基礎))	社会医学 I (医学情報学(基礎))	人体の構造と機能 II (生理)	社会医学 I (疫学)	人体の構造と機能 II (神経解剖学)
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能 II (生理)	●人体の構造と機能 II (組織学各論)	人体の構造と機能 II (組織学各論)	●人体の構造と機能 II (組織学各論)	●人体の構造と機能 II (組織学各論)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第10週(2026.11.2-11.6)

時間	曜日	11月2日(月)	11月3日(火)	11月4日(水)	11月5日(木)	11月6日(金)
8:30 ~ 9:30		臨床基礎医学 I (病気と遺伝学)	文化の日	社会医学 I (疫学)	医学英語	臨床基礎医学 I (病気と遺伝学)
9:40 ~ 10:40					基礎臨床統合	
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00		社会医学 I (疫学)		人体の構造と機能 II (組織学各論)	●人体の構造と機能 II (組織学各論)	人体の構造と機能 II (組織学各論)
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第11週 (2026.11.9-11.13)

時間	曜日	11月9日(月)	11月10日(火)	11月11日(水)	11月12日(木)	11月13日(金)			
8:30 ~ 9:30		人体の構造と機能Ⅱ (発生学)	臨床基礎医学Ⅰ (病気と遺伝学)	人体の構造と機能Ⅱ (生理)	人体の構造と機能Ⅱ (発生学) *試験	人体の構造と機能Ⅱ (神経解剖学)			
9:40 ~ 10:40									
10:50 ~ 11:50									
13:00 ~ 14:00		社会医学Ⅰ(疫学)	医学英語	●人体の構造と機能Ⅱ (組織学各論)	●人体の構造と機能Ⅱ (組織学各論)	人体の構造と機能Ⅱ (組織学各論)			
14:10 ~ 15:10									
15:20 ~ 16:20							基礎臨床統合		

第12週 (2026.11.16-11.20)

時間	曜日	11月16日(月)	11月17日(火)	11月18日(水)	11月19日(木)	11月20日(金)			
8:30 ~ 9:30		医学研究実習(3年) 発表会参加	社会医学Ⅰ(疫学)	倫理観と人間性		人体の構造と機能Ⅱ (神経解剖) *試験			
9:40 ~ 10:40									
10:50 ~ 11:50									
13:00 ~ 14:00									
14:10 ~ 15:10									
15:20 ~ 16:20		●人体の構造と機能Ⅱ (組織学各論)	●人体の構造と機能Ⅱ (組織学各論)	●人体の構造と機能Ⅱ (組織学各論)	●人体の構造と機能Ⅱ (組織学各論)				

第13週 (2026.11.23-11.27)

時間	曜日	11月23日(月)	11月24日(火)	11月25日(水)	11月26日(木)	11月27日(金)				
8:30 ~ 9:30		勤労感謝の日	人体の構造と機能Ⅱ (生理)	人体の構造と機能Ⅱ (生理)	人体の構造と機能Ⅱ (生理)	人体の構造と機能Ⅱ (生理)				
9:40 ~ 10:40										
10:50 ~ 11:50							基礎臨床統合			
13:00 ~ 14:00							臨床基礎医学Ⅰ (病気と遺伝学)	●人体の構造と機能Ⅱ (神経解剖実習)	●人体の構造と機能Ⅱ (神経解剖実習)	
14:10 ~ 15:10							基礎臨床統合			
15:20 ~ 16:20										

第14週 (2026.11.30-12.4)

時間	曜日	11月30日(月)	12月1日(火)	12月2日(水)	12月3日(木)	12月4日(金)			
8:30 ~ 9:30		臨床基礎医学Ⅰ (病気と遺伝学)	補講 (ワクチン接種)	社会医学Ⅰ(疫学)	人体の構造と機能Ⅱ (組織学各論) *試験				
9:40 ~ 10:40									
10:50 ~ 11:50									
13:00 ~ 14:00		人体の構造と機能Ⅱ (生理)	人体の構造と機能Ⅱ (生理)						
14:10 ~ 15:10									
15:20 ~ 16:20									

第15週 (2026.12.7-12.11)

時間	曜日	12月7日(月)	12月8日(火)	12月9日(水)	12月10日(木)	12月11日(金)			
8:30 ~ 9:30		臨床基礎医学Ⅰ (病気と遺伝学) *試験	●人体の構造と機能Ⅱ (神経解剖実習)		人体の構造と機能Ⅱ (生理)*試験				
9:40 ~ 10:40									
10:50 ~ 11:50									
13:00 ~ 14:00		●人体の構造と機能Ⅱ (神経解剖実習)	●人体の構造と機能Ⅱ (神経解剖実習)		●人体の構造と機能Ⅱ (神経解剖実習)				
14:10 ~ 15:10									
15:20 ~ 16:20									

第16週 (2026.12.14-12.18)

時間	曜日	12月14日(月)	12月15日(火)	12月16日(水)	12月17日(木)	12月18日(金)			
8:30 ~ 9:30		社会医学Ⅰ(疫学) *試験							
9:40 ~ 10:40									
10:50 ~ 11:50									
13:00 ~ 14:00									
14:10 ~ 15:10							●人体の構造と機能Ⅱ (神経解剖実習)		
15:20 ~ 16:20									

第17週 (2026.12.21-12.25)

時間	曜日	12月21日(月)	12月22日(火)	12月23日(水)	12月24日(木)	12月25日(金)
8:30 ~ 9:30						
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第18週 (2027.1.4-1.8)

時間	曜日	1月4日(月)	1月5日(火)	1月6日(水)	1月7日(木)	1月8日(金)
8:30 ~ 9:30						
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第19週 (2027.1.11-1.15)

時間	曜日	1月11日(月)	1月12日(火)	1月13日(水)	1月14日(木)	1月15日(金)				
8:30 ~ 9:30		成人の日				倫理観と人間性				
9:40 ~ 10:40										
10:50 ~ 11:50										
13:00 ~ 14:00								臨床基礎医学Ⅰ (基礎薬理)	臨床基礎医学Ⅰ (基礎薬理)	医学英語
14:10 ~ 15:10										基礎臨床統合
15:20 ~ 16:20										

第20週 (2027.1.18-1.22)

時間	曜日	1月18日(月)	1月19日(火)	1月20日(水)	1月21日(木)	1月22日(金)			
8:30 ~ 9:30		倫理観と人間性	●分子生物学 (生化学実習)	●分子生物学 (生化学実習)	●分子生物学 (生化学実習)	●分子生物学 (生化学実習)			
9:40 ~ 10:40									
10:50 ~ 11:50									
13:00 ~ 14:00									
14:10 ~ 15:10	臨床基礎医学Ⅰ (基礎薬理)						●分子生物学 (生化学実習)	●分子生物学 (生化学実習)	●分子生物学 (生化学実習)
15:20 ~ 16:20									

時間 \ 曜日	1月25日(月)	1月26日(火)	1月27日(水)	1月28日(木)	1月29日(金)
8:30 ~ 9:30	●分子生物学 (生化学実習)	●分子生物学 (生化学実習)	●分子生物学 (生化学実習)	●分子生物学 (生化学実習)	補講 (ワクチン接種)
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00	●分子生物学 (生化学実習)	●分子生物学 (生化学実習)	●分子生物学 (生化学実習)	●分子生物学 (生化学実習)	臨床基礎医学 I (基礎薬理)
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第 22 週 (2027. 2. 1 - 2. 5)

時間 \ 曜日	2月1日(月)	2月2日(火)	2月3日(水)	2月4日(木)	2月5日(金)
8:30 ~ 9:30					臨床基礎医学 I (基礎薬理) *試験
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00					倫理観と人間性
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第 23 週 (2027. 2. 8 - 2. 12)

時間 \ 曜日	2月8日(月)	2月9日(火)	2月10日(水)	2月11日(木)	2月12日(金)
8:30 ~ 9:30					
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第 24 週 (2027. 2. 15 - 2. 19)

時間 \ 曜日	2月15日(月)	2月16日(火)	2月17日(水)	2月18日(木)	2月19日(金)
8:30 ~ 9:30					
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

時間	曜日	3月30日(月)	3月31日(火)	4月1日(水)	4月2日(木)	4月3日(金)
8:30 ~ 9:30		/	/	統合臨床医学(学年ガイダンス、医学研究実習配属先決定)	統合臨床医学	入学式のため休講
9:40 ~ 10:40	生体防御と感染(免疫学)					
10:50 ~ 11:50				生体防御と感染(ウイルス学)	生体防御と感染(免疫学)	
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第2週 (2026.4.6-4.10)

時間	曜日	4月6日(月)	4月7日(火)	4月8日(水)	4月9日(木)	4月10日(金)			
8:30 ~ 9:30		病理総論	生体防御と感染(ウイルス学)	生体防御と感染(細菌学)	病理総論	補講(健康診断) 9:00~11:30 女子 13:00~15:30 男子			
9:40 ~ 10:40									
10:50 ~ 11:50									
13:00 ~ 14:00	薬物による生体調節(薬理学実習)						生体防御と感染(細菌学)	生体防御と感染(ウイルス学)	生体防御と感染(免疫学)
14:10 ~ 15:10									
15:20 ~ 16:20									

第3週 (2026.4.13-4.17)

時間	曜日	4月13日(月)	4月14日(火)	4月15日(水)	4月16日(木)	4月17日(金)				
8:30 ~ 9:30		統合臨床医学	生体防御と感染(免疫学)	生体防御と感染(細菌学)	補講	生体防御と感染(ウイルス学)				
9:40 ~ 10:40										
10:50 ~ 11:50										
13:00 ~ 14:00	薬物による生体調節(薬理学実習)						薬物による生体調節(薬理学実習)	生体防御と感染(ウイルス学)	生体防御と感染(免疫学)	生体防御と感染(細菌学)
14:10 ~ 15:10										
15:20 ~ 16:20										

第4週 (2026.4.20-4.24)

時間	曜日	4月20日(月)	4月21日(火)	4月22日(水)	4月23日(木)	4月24日(金)				
8:30 ~ 9:30		統合臨床医学	生体防御と感染(免疫学)	生体防御と感染(細菌学)	病理総論	生体防御と感染(ウイルス学)				
9:40 ~ 10:40										
10:50 ~ 11:50										
13:00 ~ 14:00	薬物による生体調節(薬理学実習)						薬物による生体調節(薬理学実習)	生体防御と感染(ウイルス学)	生体防御と感染(免疫学)	生体防御と感染(細菌学)
14:10 ~ 15:10										
15:20 ~ 16:20										

第5週 (2026.4.27-5.1)

時間	曜日	4月27日(月)	4月28日(火)	4月29日(水)	4月30日(木)	5月1日(金)		
8:30 ~ 9:30		統合臨床医学	生体防御と感染(免疫学)	昭和の日	病理総論	生体防御と感染(ウイルス学)		
9:40 ~ 10:40	生体防御と感染(免疫学)							
10:50 ~ 11:50	生体防御と感染(免疫学)							
13:00 ~ 14:00	薬物による生体調節(薬理学実習)		薬物による生体調節(薬理学実習)				生体防御と感染(免疫学)	生体防御と感染(細菌学)
14:10 ~ 15:10								
15:20 ~ 16:20								

第6週 (2026.5.4-5.8)

時間	曜日	5月4日(月)	5月5日(火)	5月6日(水)	5月7日(木)	5月8日(金)	
8:30 ~ 9:30		みどりの日	こどもの日	振替休日	病理総論	生体防御と感染(ウイルス学)	
9:40 ~ 10:40							
10:50 ~ 11:50							
13:00 ~ 14:00	生体防御と感染(免疫学)						生体防御と感染(細菌学)
14:10 ~ 15:10							
15:20 ~ 16:20							

第7週 (2026.5.11-5.15)

時間	曜日	5月11日(月)	5月12日(火)	5月13日(水)	5月14日(木)	5月15日(金)			
8:30 ~ 9:30		統合臨床医学(看護オリエン)	生体防御と感染(免疫学)	生体防御と感染(細菌学)	病理総論	病理総論			
9:40 ~ 10:40									
10:50 ~ 11:50									
13:00 ~ 14:00	統合臨床医学(EME3オリエン)						生体防御と感染(ウイルス学)	生体防御と感染(免疫学)	生体防御と感染(細菌学)
14:10 ~ 15:10	統合臨床医学								
15:20 ~ 16:20									

第8週 (2026.5.18-5.22)

時間	曜日	5月18日(月)	5月19日(火)	5月20日(水)	5月21日(木)	5月22日(金)			
8:30 ~ 9:30		生体防御と感染(ウイルス学)*試験	統合臨床医学(看護/EME3)	統合臨床医学(看護/EME3)	統合臨床医学(看護/EME3)	統合臨床医学(看護/EME3)			
9:40 ~ 10:40									
10:50 ~ 11:50									
13:00 ~ 14:00	統合臨床医学						統合臨床医学(看護/EME3)	統合臨床医学(看護/EME3)	統合臨床医学(看護/EME3)
14:10 ~ 15:10									
15:20 ~ 16:20									

第9週 (2026.5.25-5.29)

時間	曜日	5月25日(月)	5月26日(火)	5月27日(水)	5月28日(木)	5月29日(金)
8:30 ~ 9:30		統合臨床医学(看護/EME3)	統合臨床医学(看護/EME3)	統合臨床医学(看護/EME3)	統合臨床医学(看護/EME3)	統合臨床医学(看護/EME3) 振返り
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						
15:20 ~ 16:20						

第10週 (2026.6.1-6.5)

時間	曜日	6月1日(月)	6月2日(火)	6月3日(水)	6月4日(木)	6月5日(金)		
8:30 ~ 9:30		統合臨床医学	統合臨床医学	統合臨床医学	病理総論	統合臨床医学		
9:40 ~ 10:40								
10:50 ~ 11:50								
13:00 ~ 14:00	薬物による生体調節						薬物による生体調節	生体防御と感染(免疫学実習)
14:10 ~ 15:10								
15:20 ~ 16:20								

第11週 (2026.6. 8-6.12)

時間 \ 曜日	6月8日(月)	6月9日(火)	6月10日(水)	6月11日(木)	6月12日(金)
8:30 ~ 9:30	生体防御と感染(免疫学・医動物学)*試験			病理総論	統合臨床医学
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00	統合臨床医学		環境医学	生体防御と感染(細菌学)	生体防御と感染(細菌学)
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第12週 (2026.6.15-6.19)

時間 \ 曜日	6月15日(月)	6月16日(火)	6月17日(水)	6月18日(木)	6月19日(金)
8:30 ~ 9:30	統合臨床医学	環境医学	環境医学	統合臨床医学(医学英語)	統合臨床医学
9:40 ~ 10:40				統合臨床医学	
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00	薬物による生体調節	薬物による生体調節	生体防御と感染(細菌学実習)	生体防御と感染(細菌学実習)	生体防御と感染(細菌学実習)
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第13週 (2026.6.22-6.26)

時間 \ 曜日	6月22日(月)	6月23日(火)	6月24日(水)	6月25日(木)	6月26日(金)
8:30 ~ 9:30	統合臨床医学	環境医学	環境医学	病理総論*試験	統合臨床医学
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00	薬物による生体調節	薬物による生体調節	生体防御と感染(細菌学実習)	生体防御と感染(細菌学実習)	生体防御と感染(細菌学実習)
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第14週 (2026.6.29-7. 3)

時間 \ 曜日	6月29日(月)	6月30日(火)	7月1日(水)	7月2日(木)	7月3日(金)
8:30 ~ 9:30	薬物による生体調節	環境医学	環境医学		統合臨床医学
9:40 ~ 10:40				統合臨床医学	
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00	統合臨床医学	統合臨床医学(医学英語)	生体防御と感染(細菌学実習)	生体防御と感染(細菌学実習)	生体防御と感染(細菌学実習)
14:10 ~ 15:10		統合臨床医学			
15:20 ~ 16:20					

第15週 (2026.7. 6-7.10)

時間 \ 曜日	7月6日(月)	7月7日(火)	7月8日(水)	7月9日(木)	7月10日(金)
8:30 ~ 9:30	統合臨床医学	薬物による生体調節		生体防御と感染(細菌学)*試験	統合臨床医学
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50				統合臨床医学	
13:00 ~ 14:00	統合臨床医学	統合臨床医学		統合臨床医学	
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第16週 (2026.7.13-7.17)

時間 \ 曜日	7月13日(月)	7月14日(火)	7月15日(水)	7月16日(木)	7月17日(金)
8:30 ~ 9:30	環境医学	統合臨床医学(医学英語)	統合臨床医学		薬物による生体調節*試験
9:40 ~ 10:40	環境医学*試験				
10:50 ~ 11:50		統合臨床医学			
13:00 ~ 14:00	統合臨床医学	統合臨床医学			医学研究実習 導入講義
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

時間 \ 曜日	7月20日(月)	7月21日(火)	7月22日(水)	7月23日(木)	7月24日(金)
8:30 ~ 9:30	海の日	生体防御と感染(総合)	生体防御と感染(総合)	生体防御と感染(総合)	生体防御と感染(総合)
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50		生体防御と感染(総合)	生体防御と感染(総合)	生体防御と感染(総合)	生体防御と感染(総合)
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

時間 \ 曜日	7月27日(月)	7月28日(火)	7月29日(水)	7月30日(木)	7月31日(金)
8:30 ~ 9:30	生体防御と感染(総合)				
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00	生体防御と感染(総合)				
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第1週 (2026.9.1-9.4)

	8月31日(月)	9月1日(火)	9月2日(水)	9月3日(木)	9月4日(金)
8:30 ~ 9:30	*再試験 実施期間	*再試験 実施期間	*再試験 実施期間	*再試験 実施期間	*再試験 実施期間
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第2週 (2026.9.7-9.11)

	9月7日(月)	9月8日(火)	9月9日(水)	9月10日(木)	9月11日(金)
8:30 ~ 9:30	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	アドバンス基礎医学	医学研究実習
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第3週 (2026.9.14-9.18)

	9月14日(月)	9月15日(火)	9月16日(水)	9月17日(木)	9月18日(金)
8:30 ~ 9:30	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	アドバンス基礎医学	医学研究実習
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第4週 (2026.9.21-9.25)

	9月21日(月)	9月22日(火)	9月23日(水)	9月24日(木)	9月25日(金)
8:30 ~ 9:30	敬老の日	国民の休日	秋分の日	アドバンス基礎医学	医学研究実習
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50				医学研究実習	医学研究実習
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第5週 (2026.9.28-10.2)

	9月28日(月)	9月29日(火)	9月30日(水)	10月1日(木)	10月2日(金)
8:30 ~ 9:30	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	アドバンス基礎医学	医学研究実習
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第6週 (2026.10.5-10.9)

	10月5日(月)	10月6日(火)	10月7日(水)	10月8日(木)	10月9日(金)
8:30 ~ 9:30	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	アドバンス基礎医学	医学研究実習
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第7週 (2026.10.12-10.16)

	10月12日(月)	10月13日(火)	10月14日(水)	10月15日(木)	10月16日(金)
8:30 ~ 9:30	スポーツの日	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50		医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第8週 (2026.10.19-10.23)

	10月19日(月)	10月20日(火)	10月21日(水)	10月22日(木)	10月23日(金)
8:30 ~ 9:30	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	アドバンス基礎医学	医学研究実習
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第9週 (2026.10.26-10.30)

	10月26日(月)	10月27日(火)	10月28日(水)	10月29日(木)	10月30日(金)
8:30 ~ 9:30	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習	医学研究実習
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第10週 (2026.11.2-11.6)

	11月2日(月)	11月3日(火)	11月4日(水)	11月5日(木)	11月6日(金)
8:30 ~ 9:30	血液・腫瘍緩和系	文化の日	血液・腫瘍緩和系	血液・腫瘍緩和系	血液・腫瘍緩和系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	血液・腫瘍緩和系		血液・腫瘍緩和系	血液・腫瘍緩和系	
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

時間	11月9日(月)	11月10日(火)	11月11日(水)	11月12日(木)	11月13日(金)
8:30 ~ 9:30	血液・腫瘍緩和系	病理各論 I	血液・腫瘍緩和系	血液・腫瘍緩和系	血液・腫瘍緩和系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	血液・腫瘍緩和系	血液・腫瘍緩和系	血液・腫瘍緩和系	血液・腫瘍緩和系	血液・腫瘍緩和系
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第12週(2026.11.16-11.20)

時間	11月16日(月)	11月17日(火)	11月18日(水)	11月19日(木)	11月20日(金)
8:30 ~ 9:30	医学研究実習発表会	病理各論 I	呼吸器系	呼吸器系	呼吸器系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50		呼吸器系	呼吸器系	呼吸器系	呼吸器系
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第13週(2026.11.23-11.27)

時間	11月23日(月)	11月24日(火)	11月25日(水)	11月26日(木)	11月27日(金)
8:30 ~ 9:30	勤労感謝の日	病理各論 I	呼吸器系	呼吸器系	呼吸器系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50		呼吸器系	呼吸器系	呼吸器系	呼吸器系 * 試験
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第14週(2026.11.30-12.4)

時間	11月30日(月)	12月1日(火)	12月2日(水)	12月3日(木)	12月4日(金)
8:30 ~ 9:30	脳・神経系	病理各論 I	脳・神経系	脳・神経系	脳・神経系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	脳・神経系	脳・神経系	脳・神経系	脳・神経系	脳・神経系
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第15週(2026.12.7-12.11)

時間	12月7日(月)	12月8日(火)	12月9日(水)	12月10日(木)	12月11日(金)
8:30 ~ 9:30	脳・神経系	病理各論 I	脳・神経系	脳・神経系	脳・神経系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	脳・神経系	脳・神経系	脳・神経系	脳・神経系	脳・神経系
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第16週(2026.12.14-12.18)

時間	12月14日(月)	12月15日(火)	12月16日(水)	12月17日(木)	12月18日(金)
8:30 ~ 9:30	脳・神経系	病理各論 I	脳・神経系	耳鼻頭頸	耳鼻頭頸
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	脳・神経系	脳・神経系	脳・神経系	耳鼻頭頸	耳鼻頭頸
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10			脳・神経系 * 試験		
15:20 ~ 16:20					

第17週(2026.12.21-12.25)

時間	12月21日(月)	12月22日(火)	12月23日(水)	12月24日(木)	12月25日(金)
8:30 ~ 9:30	耳鼻頭頸	耳鼻頭頸	耳鼻頭頸 * 試験	検査医学	検査医学
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	耳鼻頭頸	耳鼻頭頸	病理各論 I	検査医学	
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第18週(2027.1.4-1.8)

時間	1月4日(月)	1月5日(火)	1月6日(水)	1月7日(木)	1月8日(金)
8:30 ~ 9:30	循環器系	病理各論 I	循環器系	循環器系	循環器系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	循環器系	循環器系	循環器系	循環器系	循環器系
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第19週(2027.1.11-1.15)

時間	1月11日(月)	1月12日(火)	1月13日(水)	1月14日(木)	1月15日(金)
8:30 ~ 9:30	成人の日	病理各論 I	循環器系	循環器系	精神神経系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50		循環器系	循環器系	循環器系 * 試験	精神神経系
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20	検査医学 * 試験				

第20週(2027.1.18-1.22)

時間	1月18日(月)	1月19日(火)	1月20日(水)	1月21日(木)	1月22日(金)
8:30 ~ 9:30	精神神経系	病理各論 I	精神神経系	精神神経系	精神神経系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	精神神経系	精神神経系	精神神経系	精神神経系	精神神経系
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

時間 \ 曜日	1月25日(月)	1月26日(火)	1月27日(水)	1月28日(木)	1月29日(金)
8:30 ~ 9:30	精神神経系	病理各論 I	内分泌・代謝系	内分泌・代謝系	内分泌・代謝系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	精神神経系	精神神経系 * 試験	内分泌・代謝系	内分泌・代謝系	内分泌・代謝系
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第 22 週 (2027. 2. 1 - 2. 5)

時間 \ 曜日	2月1日(月)	2月2日(火)	2月3日(水)	2月4日(木)	2月5日(金)
8:30 ~ 9:30	内分泌・代謝系	内分泌・代謝系	内分泌・代謝系	内分泌・代謝系 * 試験	病理各論 I * 試験
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	内分泌・代謝系	内分泌・代謝系	内分泌・代謝系		皮膚・形成系
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第 23 週 (2027. 2. 8 - 2. 12)

時間 \ 曜日	2月8日(月)	2月9日(火)	2月10日(水)	2月11日(木)	2月12日(金)	
8:30 ~ 9:30	皮膚・形成系	皮膚・形成系	皮膚・形成系	建国記念の日	皮膚・形成系	
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10	皮膚・形成系	皮膚・形成系	皮膚・形成系		皮膚・形成系	
15:20 ~ 16:20						
8:30 ~ 9:30	皮膚・形成系 * 試験					
9:40 ~ 10:40						
10:50 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:00						
14:10 ~ 15:10						

第 24 週 (2027. 2. 15 - 2. 19)

時間 \ 曜日	2月15日(月)	2月16日(火)	2月17日(水)	2月18日(木)	2月19日(金)
8:30 ~ 9:30	消化器系	消化器系	消化器系	消化器系	消化器系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第 25 週 (2027. 2. 22 - 2. 26)

時間 \ 曜日	2月22日(月)	2月23日(火)	2月24日(水)	2月25日(木)	2月26日(金)
8:30 ~ 9:30	消化器系	天皇誕生日	消化器系	消化器系	消化器系
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50	消化器系		消化器系	消化器系	
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20					

第 26 週 (2027. 3. 1 - 3. 5)

時間 \ 曜日	3月1日(月)	3月2日(火)	3月3日(水)	3月4日(木)	3月5日(金)
8:30 ~ 9:30	消化器系				
9:40 ~ 10:40					
10:50 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:00					
14:10 ~ 15:10					
15:20 ~ 16:20	消化器系 * 試験				

4年次生・第1学期

令和8年度 新潟大学医学部医学科 授業時間割表

(第3講義室)

第1週(2026.4.1-4.3)

時間	曜日	3月30日(月)	3月31日(火)	4月1日(水)	4月2日(木)	4月3日(金)
8:30 ~ 10:00		X	X	学年ガイダンス キャリアパス説明会	皮膚・形成	入学式のため休講
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30				皮膚・形成	皮膚・形成	
14:50 ~ 16:20						

第2週(2026.4.6-4.10)

時間	曜日	4月6日(月)	4月7日(火)	4月8日(水)	4月9日(木)	4月10日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	皮膚・形成	補講(健康診断) 09:00-11:30 男子 13:00-15:30 女子	皮膚・形成
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	皮膚・形成	皮膚・形成	法医学	皮膚・形成
14:50 ~ 16:20						皮膚・形成

第3週(2026.4.13-4.17)

時間	曜日	4月13日(月)	4月14日(火)	4月15日(水)	4月16日(木)	4月17日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	皮膚・形成	皮膚・形成*試験	消化器系
10:20 ~ 11:50					消化器系	
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	皮膚・形成	皮膚・形成	消化器系	消化器系
14:50 ~ 16:20						

第4週(2026.4.20-4.24)

時間	曜日	4月20日(月)	4月21日(火)	4月22日(水)	4月23日(木)	4月24日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	消化器系	消化器系	消化器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	消化器系	消化器系	消化器系	消化器系
14:50 ~ 16:20						

第5週(2026.4.27-5.1)

時間	曜日	4月27日(月)	4月28日(火)	4月29日(水)	4月30日(木)	5月1日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	消化器系	昭和の日	消化器系	消化器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	消化器系		消化器系	消化器系
14:50 ~ 16:20						

第6週(2026.5.4-5.8)

時間	曜日	5月4日(月)	5月5日(火)	5月6日(水)	5月7日(木)	5月8日(金)
8:30 ~ 10:00		みどりの日	こどもの日	振替休日	消化器系	消化器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30					消化器系	消化器系
14:50 ~ 16:20						

第7週(2026.5.11-5.15)

時間	曜日	5月11日(月)	5月12日(火)	5月13日(水)	5月14日(木)	5月15日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	消化器系	消化器系*試験	腎・泌尿器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	消化器系	消化器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系
14:50 ~ 16:20						

第8週(2026.5.18-5.22)

時間	曜日	5月18日(月)	5月19日(火)	5月20日(水)	5月21日(木)	5月22日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系
14:50 ~ 16:20						

第9週(2026.5.25-5.29)

時間	曜日	5月25日(月)	5月26日(火)	5月27日(水)	5月28日(木)	5月29日(金)
8:30 ~ 10:00		病理各論Ⅱ	多職種連携	腎・泌尿器系	法医学	腎・泌尿器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系
14:50 ~ 16:20						

第10週 (2026.6. 1-6. 5)

時間	曜日	6月1日(月)	6月2日(火)	6月3日(水)	6月4日(木)	6月5日(金)
8:30 ~ 10:00		病理各論Ⅱ	多職種連携	腎・泌尿器系	法医学	腎・泌尿器系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系
14:50 ~ 16:20						

第11週 (2026.6. 8-6. 12)

時間	曜日	6月8日(月)	6月9日(火)	6月10日(水)	6月11日(木)	6月12日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	腎・泌尿器系*試験	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
14:50 ~ 16:20			生殖・発達系			

第12週 (2026.6. 15-6. 19)

時間	曜日	6月15日(月)	6月16日(火)	6月17日(水)	6月18日(木)	6月19日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	医療情報学(応用)	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
14:50 ~ 16:20						

第13週 (2026.6. 22-6. 26)

時間	曜日	6月22日(月)	6月23日(火)	6月24日(水)	6月25日(木)	6月26日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	医療情報学(応用)	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
14:50 ~ 16:20						

第14週 (2026.6. 29-7. 3)

時間	曜日	6月29日(月)	6月30日(火)	7月1日(水)	7月2日(木)	7月3日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	医療情報学(応用)	生殖・発達系	生殖・発達系	生殖・発達系
14:50 ~ 16:20						

第15週 (2026.7. 6-7. 10)

時間	曜日	7月6日(月)	7月7日(火)	7月8日(水)	7月9日(木)	7月10日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学	病理各論Ⅱ	生殖・発達系	視覚器	生殖・発達系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学	生殖・発達系	生殖・発達系	視覚器	生殖・発達系*試験
14:50 ~ 16:20				視覚器		

第16週 (2026.7. 13-7. 17)

時間	曜日	7月13日(月)	7月14日(火)	7月15日(水)	7月16日(木)	7月17日(金)
8:30 ~ 10:00		公衆衛生学	病理各論Ⅱ	視覚器	視覚器	視覚器
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		公衆衛生学*試験	医療情報学(応用)	視覚器	視覚器	視覚器*試験
14:50 ~ 16:20						

第17週 (2026.7. 20-7. 24)

時間	曜日	7月20日(月)	7月21日(火)	7月22日(水)	7月23日(木)	7月24日(金)
8:30 ~ 10:00		海の日	病理各論Ⅱ*試験	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30			麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系
14:50 ~ 16:20						

第18週 (2026.7. 27-7. 31)

時間	曜日	7月27日(月)	7月28日(火)	7月29日(水)	7月30日(木)	7月31日(金)
8:30 ~ 10:00		法医学*試験	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系*試験
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30		麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系	麻酔・救急蘇生系*試験
14:50 ~ 16:20						

第1週(2026.9.1-9.4)

(第3講義室)

時間	曜日	8月31日(月)	9月1日(火)	9月2日(水)	9月3日(木)	9月4日(金)
8:30 ~ 10:00					耳鼻頭頸	耳鼻頭頸
10:20 ~ 11:50					耳鼻頭頸	耳鼻頭頸
13:00 ~ 14:30					耳鼻頭頸	耳鼻頭頸
14:50 ~ 16:20					耳鼻頭頸	耳鼻頭頸

(6年 Post-CC OSCE) (6年 Post-CC OSCE)

第2週(2026.9.7-9.11)

時間	曜日	9月7日(月)	9月8日(火)	9月9日(水)	9月10日(木)	9月11日(金)
8:30 ~ 10:00		耳鼻頭頸	耳鼻頭頸	耳鼻頭頸 *試験	補講	運動器系
10:20 ~ 11:50		耳鼻頭頸	耳鼻頭頸	耳鼻頭頸 *試験	運動器系	運動器系
13:00 ~ 14:30		耳鼻頭頸	耳鼻頭頸	運動器系	運動器系	運動器系
14:50 ~ 16:20		耳鼻頭頸	耳鼻頭頸	運動器系	運動器系	運動器系

第3週(2026.9.14-9.18)

時間	曜日	9月14日(月)	9月15日(火)	9月16日(水)	9月17日(木)	9月18日(金)
8:30 ~ 10:00		運動器系	運動器系	運動器系	運動器系	運動器系 *試験
10:20 ~ 11:50		運動器系	運動器系	運動器系	運動器系	運動器系 *試験
13:00 ~ 14:30		運動器系	運動器系	運動器系	運動器系	免疫系
14:50 ~ 16:20		運動器系	運動器系	運動器系	運動器系	免疫系

第4週(2026.9.21-9.25)

時間	曜日	9月21日(月)	9月22日(火)	9月23日(水)	9月24日(木)	9月25日(金)
8:30 ~ 10:00		敬老の日	国民の祝日	秋分の日	免疫系	免疫系
10:20 ~ 11:50	免疫系				免疫系	
13:00 ~ 14:30	免疫系				免疫系	
14:50 ~ 16:20	免疫系				免疫系	

第5週(2026.9.28-10.2)

時間	曜日	9月28日(月)	9月29日(火)	9月30日(水)	10月1日(木)	10月2日(金)
8:30 ~ 10:00		免疫系	免疫系	免疫系	放射線各論	放射線各論
10:20 ~ 11:50		免疫系	免疫系	免疫系	放射線各論	放射線各論
13:00 ~ 14:30		免疫系	免疫系	免疫系 *試験	放射線各論	放射線各論
14:50 ~ 16:20		免疫系	免疫系	免疫系 *試験	放射線各論	放射線各論

第6週(2026.10.5-10.9)

時間	曜日	10月5日(月)	10月6日(火)	10月7日(水)	10月8日(木)	10月9日(金)
8:30 ~ 10:00		放射線各論	放射線各論	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学
10:20 ~ 11:50		放射線各論	放射線各論	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学
13:00 ~ 14:30		放射線各論	補講	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学
14:50 ~ 16:20		放射線各論	放射線各論*試験	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学	腫瘍緩和学

第7週(2026.10.12-10.16)

時間	曜日	10月12日(月)	10月13日(火)	10月14日(水)	10月15日(木)	10月16日(金)
8:30 ~ 10:00		スポーツの日		CBT トライアル	CBT 試験日	CBT 試験日
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第8週(2026.10.19-10.23)

時間	曜日	10月19日(月)	10月20日(火)	10月21日(水)	10月22日(木)	10月23日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門 (CBT試験予備日)	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
10:20 ~ 11:50	臨床実習入門		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	
13:00 ~ 14:30	臨床実習入門		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	
14:50 ~ 16:20	臨床実習入門		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	

※臨床実習入門の詳細なスケジュール等は別途通知します。

第9週(2026.10.26-10.30)

時間	曜日	10月26日(月)	10月27日(火)	10月28日(水)	10月29日(木)	10月30日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
10:20 ~ 11:50		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
13:00 ~ 14:30		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
14:50 ~ 16:20		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門

第10週(2026.11.2-11.6)

時間	曜日	11月2日(月)	11月3日(火)	11月4日(水)	11月5日(木)	11月6日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	文化の日	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
10:20 ~ 11:50		臨床実習入門		臨床実習入門	臨床実習入門	
13:00 ~ 14:30		臨床実習入門		臨床実習入門	臨床実習入門	
14:50 ~ 16:20		臨床実習入門		臨床実習入門	臨床実習入門	

第11週(2026.11.9-11.13)

時間	曜日	11月9日(月)	11月10日(火)	11月11日(水)	11月12日(木)	11月13日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	OSCE 試験日	シミュレーター自己学習
10:20 ~ 11:50	シミュレーター自己学習					
13:00 ~ 14:30	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	シミュレーター自己学習		
14:50 ~ 16:20						

第12週(2026.11.16-11.20)

時間	曜日	11月16日(月)	11月17日(火)	11月18日(水)	11月19日(木)	11月20日(金)
8:30 ~ 10:00		シミュレーター自己学習			OSCE 試験日	OSCE 試験日
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30	シミュレーター自己学習					
14:50 ~ 16:20						

第13週(2026.11.23-11.27)

時間	曜日	11月23日(月)	11月24日(火)	11月25日(水)	11月26日(木)	11月27日(金)
8:30 ~ 10:00		勤労感謝の日	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30			臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
14:50 ~ 16:20						

第14週(2026.11.30-12.4)

時間	曜日	11月30日(月)	12月1日(火)	12月2日(水)	12月3日(木)	12月4日(金)			
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門			
10:20 ~ 11:50									
13:00 ~ 14:30									
14:50 ~ 16:20									

第15週(2026.12.7-12.11)

時間	曜日	12月7日(月)	12月8日(火)	12月9日(水)	12月10日(木)	12月11日(金)	
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	CBT 再試験日	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	
10:20 ~ 11:50							
13:00 ~ 14:30	臨床実習入門			臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門	臨床実習入門
14:50 ~ 16:20							

第16週(2026.12.14-12.18)

時間	曜日	12月14日(月)	12月15日(火)	12月16日(水)	12月17日(木)	12月18日(金)	
8:30 ~ 10:00		医学英語Ⅱ	医学英語Ⅱ	臨床実習入門	臨床実習入門	医学英語Ⅱ	
10:20 ~ 11:50							
13:00 ~ 14:30	医学英語Ⅱ			医学英語Ⅱ	臨床実習入門		臨床実習入門
14:50 ~ 16:20							

※12月13日(日)医療系大学間共用試験実施評価機構実施によるOSCE再試験実施予定

第17週(2026.12.21-12.25)

時間	曜日	12月21日(月)	12月22日(火)	12月23日(水)	12月24日(木)	12月25日(金)	
8:30 ~ 10:00		臨床実習入門	白衣 臨床実習ガイダンス (予定)				
10:20 ~ 11:50							
13:00 ~ 14:30	臨床実習入門			臨床実習入門			
14:50 ~ 16:20							

※医学英語Ⅱ、白衣、臨床実習ガイダンスの日程について変更する可能性があります。

第18週(2027.1.4-1.8)

時間	曜日	1月4日(月)	1月5日(火)	1月6日(水)	1月7日(木)	1月8日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習Ⅰ ①				
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第19週(2027.1.11-1.15)

時間	曜日	1月11日(月)	1月12日(火)	1月13日(水)	1月14日(木)	1月15日(金)
8:30 ~ 10:00		成人の日	臨床実習Ⅰ ①			
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第20週(2027.1.18-1.22)

時間	曜日	1月18日(月)	1月19日(火)	1月20日(水)	1月21日(木)	1月22日(金)
8:30 ~ 10:00		臨床実習Ⅰ ①				
10:20 ~ 11:50						
13:00 ~ 14:30						
14:50 ~ 16:20						

第 21 週 (2027. 1. 25 - 1. 29)

時間 \ 曜日	1月25日(月)	1月26日(火)	1月27日(水)	1月28日(木)	1月29日(金)
8:30 ~ 10:00	臨床実習 I ②				
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30					
14:50 ~ 16:20					

第 22 週 (2027. 2. 1 - 2. 5)

時間 \ 曜日	2月1日(月)	2月2日(火)	2月3日(水)	2月4日(木)	2月5日(金)
8:30 ~ 10:00	臨床実習 I ②				
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30					
14:50 ~ 16:20					

第 23 週 (2027. 2. 8 - 2. 12)

時間 \ 曜日	2月8日(月)	2月9日(火)	2月10日(水)	2月11日(木)	2月12日(金)
8:30 ~ 10:00	臨床実習 I ②			建国記念の日	臨床実習 I ②
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30					
14:50 ~ 16:20					

第 24 週 (2027. 2. 15 - 2. 19)

時間 \ 曜日	2月15日(月)	2月16日(火)	2月17日(水)	2月18日(木)	2月19日(金)
8:30 ~ 10:00	臨床実習 I ③				
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30					
14:50 ~ 16:20					

第 25 週 (2027. 2. 22 - 2. 26)

時間 \ 曜日	2月22日(月)	2月23日(火)	2月24日(水)	2月25日(木)	2月26日(金)
8:30 ~ 10:00	臨床実習 I ③	天皇誕生日	臨床実習 I ③		
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30					
14:50 ~ 16:20					

第 26 週 (2027. 3. 1 - 3. 5)

時間 \ 曜日	3月1日(月)	3月2日(火)	3月3日(水)	3月4日(木)	3月5日(金)
8:30 ~ 10:00	臨床実習 I ③				
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30					
14:50 ~ 16:20					

第 27 週 (2027. 3. 8 - 3. 12)

時間 \ 曜日	3月8日(月)	3月9日(火)	3月10日(水)	3月11日(木)	3月12日(金)
8:30 ~ 10:00	臨床実習 I ④				
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30					
14:50 ~ 16:20					

第 28 週 (2027. 3. 15 - 3. 19)

時間 \ 曜日	3月15日(月)	3月16日(火)	3月17日(水)	3月18日(木)	3月19日(金)
8:30 ~ 10:00	臨床実習 I ④				
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30					
14:50 ~ 16:20					

第 29 週 (2027. 3. 22 - 3. 26)

時間 \ 曜日	3月22日(月)	3月23日(火)	3月24日(水)	3月25日(木)	3月26日(金)
8:30 ~ 10:00	振替休日	臨床実習 I ④			
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30					
14:50 ~ 16:20					

令和8年度医学部医学科 学年別の主な使用講義室について（予定）

学年	学期	
	第1学期	第2学期
第2年次	第1講義室	
第3年次	大講義室	医学研究実習 9月～10月
第4年次	第3講義室	
第5年次	第2講義室	
第6年次	第4講義室	大講義室 卒試本試期間中 8月末～10月

令和8年度

医学部医学科講義概要

(2年次生)

新潟大学医学部医学科

2年次生

3年次生

4年次生

人体の構造と機能 I

講義番号 M1201 単位数 13.5 開講期 第1期 定員 140
コース 生理学, 解剖総論, 肉眼解剖学, 組織学総論, 生体内物質と代謝

科目の概要

医学を修める上で基本となる人体の構造と機能について様々な角度から学ぶ

科目のねらい

正常な人体の構造と機能について、解剖学、生理学、生化学を通して学修を進め、更に相互の関連性について理解を深める

学習の到達目標

人体の構造と機能について様々な角度から説明できる

授業実施形態について

講義及び実習

成績評価の方法と基準

別途配布する各ユニットのシラバスを参照。

ユニットごとに評価を行い、全てのユニットで合格することで本科目を修得する。

生理学

担当教員 杉山清佳、侯旭濱、内許玉楓、山口賢一、学外講師
科目英文名 Physiology I (Structure and Function of the Human Body I)
聴講指定等 医学部 (医学科)

<概要>

- ✓ 体液血液、循環、呼吸（換気）、泌尿排泄、消化吸收機能、内分泌生殖機能などの他、これら器官系の相互機能連関、相互作用、調節機能について解説する。
- ✓ 臓器生理学と臨床生理学の側面、生体制御と調節学の観点（神経調節と体液的、内分泌的調節、およびこの二大調節系の接点、連関、協関）からの人体機能の詳細とその調節システムについて解説する。
- ✓ 各臓器の機能、生理ばかりでなく、中枢神経系（ことに大脳辺縁系、視床下部下垂体系、自律神経（生命神経系））、胃腸神経系などの統合系と内分泌系についても解説する。
- ✓ 各研究分野の第一人者を学外から招き、特別講義を介して、最先端の研究や臨床医学と生理学との関連を示す。

<科目のねらい>

人体機能の常態とその調節システムの詳細を理解することで、病態を診断し、解説できる基礎的な力を養う。

<学習の達成目標>

1) 内分泌、神経内分泌（生殖機能、自律神経機能を含む）

- ホルモンを構造と作用機序から説明できる。
- ホルモン分泌の調節機序、ネガティブフィードバックを説明できる。
- 視床下部、下垂体門脈系の構造、機能（神経内分泌連関）を説明できる。
- 視床下部ホルモン、下垂体ホルモンの名称、作用、相互作用を説明できる。
- 内部環境の調節機構（液性調節、神経性調節）の概念について説明できる。
- 基礎代謝、体液調節機構、体温調節機構の概念について説明できる。
- 甲状腺ホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。
- 副甲状腺ホルモンとカルシウム代謝（ビタミンD₃、カルシトニンを含む）を説明できる。
- 副腎皮質ホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。
- 副腎髄質ホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。
- 男性、女性ホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。
- 性周期の内分泌機序、性周期変化について説明できる。
- オータコイドの作用について説明できる。
- 血糖調節について説明できる。

2) 腎臓

- 一日の水分出納を説明できる。
- 腎機能の全体像、ネフロン各部の構造と機能を概説できる。
- 腎糸球体における濾過の機序を説明できる。
- 尿細管各部における再吸収、分泌機構、尿の濃縮機能を説明できる。
- 体液と電解質、酸塩基平衡（に対する腎）の調節機構を概説できる。
- 腎クリアランスの概念、その臨床応用を概説できる。
- 腎に作用する神経、ホルモン、血管作動性物質の作用を説明できる。
- 排尿のメカニズムを説明できる。

3) 血液

- 血液の組成を説明できる。
- 赤血球、ヘモグロビン、酸素、二酸化炭素運搬について説明できる。
- 白血球の種類と免疫系の基本的事項を説明できる。
- 凝固、止血、線溶の関連を知る。

4) 循環

心筋（固有筋、刺激伝導系）、骨格筋、平滑筋の構造と機能の比較説明ができる。
 固有筋、刺激伝導系の構造、電気現象、その特徴を説明できる。
 心電図の原理を説明できる。
 心周期に伴う、血圧、血行動態を説明できる。
 心拍出量の測定、その調節、主要臓器の循環調節を説明できる。
 血圧調節の要素と機序を説明できる。
 血流の全身調節、局所調節、静脈還流の機序を説明できる。
 運動時の循環応答とその調節機序を説明できる。

5) 消化と吸収

口腔（歯・舌・唾液腺など）の構造と機能を説明できる。
 咀嚼、嚥下、食道の構造と機能を説明できる。
 胃の運動、胃液の分泌、作用、消化およびその調節機構を説明できる。
 胆汁の組成、分泌と作用を説明できる。
 膵液の分泌と作用を説明できる。
 小腸の運動、物質（栄養素、水、電解質など）の消化吸収を説明できる。
 大腸の運動、機能、排便機構を説明できる。
 消化管運動の仕組み、機序を説明できる。
 消化管への自律神経の作用を説明できる。
 消化管ホルモンの作用を説明できる。
 （食欲中枢=中枢神経系、内分泌学。歯=歯学部。消化管の免疫、防御機構=免疫学。腸内細菌=細菌学。肝臓機能=生化学であつかう。）

6) 呼吸

呼吸（換気）運動、肺内圧変化の機序を説明できる。
 呼吸筋の神経支配、呼吸調節を説明できる。
 肺気量区分を知り、肺気量を、肺、胸郭系の圧-容量関係から説明できる。
 気道抵抗の概念を説明できる。
 有効換気、肺胞換気比、死腔、換気血流比を説明できる。
 肺胞構造とガス交換機能を関連づけて説明できる。
 ガス交換、酸素、炭酸ガスの交換、運搬機構を説明できる。
 呼吸と酸塩基平衡の関連を説明できる。
 運動時の換気応答とその機序を説明できる。
 呼吸（換気）運動の体液性、神経性調節を説明できる。
 呼吸機能検査法の概略を知る。
 血液ガスと換気（呼吸）の関係を説明できる。
 酸塩基平衡における、体液、腎、呼吸の役割を説明できる。

〈登録のための条件（注意）〉

医学部医学科で単位未修得の学生

〈授業実施形態について〉

スライドを用いた対面授業で実施する。講義には積極的に参加する態度を示し、質問、疑問などはその講義時間内に解決する意欲を持つこと。

〈成績評価の方法と基準〉

成績の評価は期末試験の点数を以っておこなう。期末試験は対面の筆記試験として実施する（100点満点）。また、全期間にわたり学修到達度（小テスト、質問・疑問解決のための積極的参加など）を以って評価を行う場合がある（～10点）。各学習項目の合計点として60点以上の取得を以ってユニットの合格を認める。

〈使用テキスト〉

指定しない。

<授業計画>

授業日程表を参照。なお、シラバス作成時の予定から変更される場合には、学務情報システムから通知する。

月日	曜	時間	講義内容	担当教員	
				所属	氏名
4月6日	月	4,5,6	ガイダンス・自律神経・内分泌総論	発達生理	杉山清佳
4月10日	金	1,2,3	内分泌各論(視床下部)	同上	同上
4月20日	月	4,5,6	内分泌各論(下垂体後葉)	同上	同上
4月21日	火	4,5,6	内分泌各論(下垂体前葉/副腎)	同上	同上
4月22日	水	1,2,3	内分泌各論(甲状腺/副甲状腺)	同上	同上
4月27日	月	4,5,6	内分泌各論(生殖器系)	同上	同上
5月7日	木	4,5,6	内分泌各論(オタコイド/血糖調節)	同上	同上
5月11日	月	4,5,6	血液総論	同上	同上
5月13日	水	1,2,3	腎・泌尿器各論	腎分子病態	内許玉楓
5月18日	月	4,5,6	腎・泌尿器各論	同上	同上
5月20日	水	1,2,3	循環器各論	元第二生理	山口賢一
5月22日	金	1,2,3	循環器各論	同上	同上
5月25日	月	4,5,6	特別講義		
5月27日	水	1,2,3	呼吸器各論	発達生理	侯旭濱
6月1日	月	5,6	呼吸器各論	同上	同上
6月3日	水	1,2,3	消化器各論	同上	同上
6月10日	水	1,2,3	消化器各論	同上	同上
7月21日	火	1,2,3	期末試験		

<参考文献>

「標準生理学」医学書院(本間監修) 初版は少々詳しくすぎるところもあったが、現行版では最新のデータも記載され、なおかつバランスが良くなった。

「リップスコットシリーズ イラストレイテッド生理学」丸善出版(鯉淵、栗原編) 図が多く、解りやすい。2年生用として優れた書。

「生理学テキスト」文光堂(大地編) 全般的に詳しいが、シンプルにまとまっており解りやすい。2年生用として優れた書。

「ガイトン生理学」エルゼビア(Hall編) Textbook of Medical Physiology の翻訳。

「ギャノン生理学」丸善出版(Barret編) Ganong's Review of Medical Physiology の翻訳。

「臨床生理学シリーズ1、2、3、4、5」南江堂、心臓、肺、腎、胃、腸の病態生理学、臨床も記述されていて、上級生向きではあるが、将来も役に立つ。

<準備学習の内容>

常に予習・復習を行い、前回までの講義内容については理解して講義に臨むこと。特に解剖学、組織学、生化学の関連項目の復習は必須である。

<担当教員(分野等 メールアドレス)>

杉山 清佳(発達生理学分野 sugiyama@med.niigata-u.ac.jp)

解剖総論

担当教員 佐藤 昇、長島 寛など

科目英文名 Introduction to Anatomy (Structure and Function of the Human Body I)

聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要>

医学の基礎知識として人体の構造の概要および骨格系の構造を学ぶ。

<科目のねらい>

解剖学全体の導入部として、解剖学用語の使用法や人体の構造の概要を学ぶ。人骨標本を用いた実習を通して、自ら学習する態度を身に付ける。

<学習の到達目標>

- (1) 人体構造の概要を理解し説明できる。
- (2) 解剖学用語を理解し使用できる。
- (3) 骨格系の構造を理解し説明できる。

<登録のための条件 (注意) >

医学部医学科 2 年次生で、当該単位を未修の者に限る。学務情報システムにアクセスし、マイクロソフト Office を使用できる環境であること。脊椎動物の基本的構造について前提知識を有していることが望ましい。

<授業実施形態について>

講義と実習により実施する。

講義については開始時に小テスト等を実施する場合もあり、準備学習に努めること。

骨学実習は数名ごとのグループで行う。実習終了時に確認テスト等を実施する予定のため、準備学習と実習に努めること。実習では白衣を着用すること。

<成績評価の方法と基準>

取り組みが可となれば、成績が付与される。

- (1) 講義・実習への取り組み (出席、学修姿勢・態度、小テストなど) が可であれば成績評価を行う。不可であれば試験の結果にかかわらず不合格とする。
- (2) 成績は試験 (確認テストを含む、100%) で判定する。

<使用テキスト>

教科書は定めないがラテン語または英語で記載されているものを必ず一冊は用意すること (下記参考文献を参照)。骨学実習ではプリントを配布する。解剖学用語については「図解解剖学事典、Feneis 著 医学書院」を参照すること。

<関連リンク>

<参考文献>

- (1) 人体解剖学 藤田恒太郎著 南江堂 (ラテン語)
- (2) 解剖学講義 伊藤隆著 高野廣子改訂 南山堂 (英語)
- (3) Gray's Anatomy for Students Richard Drake 他 洋書 (英語)
- (4) 日本人体解剖学 (上) (下) 金子丑乃助著 南山堂 (英語)
- (5) 分担解剖学 (1) (2) (3) 森富他 金原出版 (ラテン語)
- (6) Gray's Anatomy Susan Standring 他編集 洋書 (英語)

<キーワード>

解剖学 解剖用語 骨学

<備考>

学務情報システムにアクセスできる情報機器端末およびインターネット環境が必要。

<授業計画>

- 第1回 (4月2日 1・2・3限) ガイダンスと序論 (人体の構造のあらまし・解剖用語)
- 第2回 (4月7日 4・5・6限) 序論・運動器系 (解剖用語、運動器系の構成とその要素、骨)
- 第3回 (4月9日 1・2・3限) 運動器系 (筋、関節など)
- 第4回 (4月9日 4・5・6限) 骨学実習 (1) 体幹骨 (脊柱、胸郭など)
- 第5回 (4月10日 4・5・6限) 循環系 (心臓、動脈系、静脈系など)
- 第6回 (4月13日 4・5・6限) 骨学実習 (2) 上肢骨 (上肢帯、自由上肢など)
- 第7回 (4月14日 4・5・6限) 骨学実習 (3) 下肢骨 (骨盤、自由下肢など)
- 第8回 (4月15日 1・2・3限) 神経系 (中枢神経、末梢神経、体性神経、自律神経など)
- 第9回 (4月17日 1・2・3限) 骨学実習 (4) 頭蓋骨1 (脳頭蓋)
- 第10回 (4月17日 4・5・6限) 骨学実習 (5) 頭蓋骨2 (顔面頭蓋)
- 第11回 (4月23日 1・2・3限) 解剖総論試験

<授業時間外の学修>

- 第1回 解剖学で学ぶ内容、解剖用語などについて成書を参考にまとめる。
- 第2回 運動器系の構成とその要素、骨格、筋、関節の概要について成書を参考にまとめる。
- 第3回 筋、関節などについて成書を参考にまとめる。
- 第4回 体幹を構成する骨格について配布プリントを中心にまとめる。
- 第5回 心臓、動脈系、静脈系などについて成書でまとめる
- 第6回 上肢を構成する骨格について配布プリントを中心にまとめる。
- 第7回 骨盤、自由下肢などについて配布プリントを中心にまとめる。
- 第8回 中枢神経、末梢神経、体性神経、自律神経などについて成書でまとめる。
- 第9回 脳頭蓋について配布プリントを中心にまとめる。
- 第10回 顔面頭蓋について配布プリントを中心にまとめる。

<担当教員 (分野等 メールアドレス) >

佐藤 昇 (解剖学分野 nsato@med.niigata-u.ac.jp)

肉眼解剖学

担当教員 佐藤 昇、長島 寛、三上 剛和など
科目英文名 Human Dissection (Structure and Function of the Human Body I)
聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要>

人体の構造について系統的（機能単位としての器官系）かつ局所的（部位毎の3次元構造）な観点から学ぶ。

<科目のねらい>

人体の肉眼的構造について主体的準備学修と実習を通して学んでいく。グループでの共同作業を通して、協調性を身に付け、自らの責任を果たす態度やコミュニケーション能力を高める。献体やご遺体の遺志について思いを巡らせ、礼節ある態度と医師としてふさわしい人格を身に付ける。

<学習の到達目標>

1. 故人の遺志や献体の意味を想起し、常に礼節を持って行動することができる。
2. 指示された観察対象をグループで協力して正確に剖出できる。
3. 観察対象を正確に記載することができる。
4. 基本的な解剖学用語を英語またはラテン語で理解・表現することができる。
5. 脊髄の構造と伝導路ならびに神経根との連絡を説明できる。
6. 脊髄の被膜と髄液、動静脈などの形態学的な特徴と機能を説明できる。
7. 脊髄神経系の種類と構成を説明できる。
8. 脊髄神経と各神経叢の構成を理解し、骨格筋支配と皮膚分布を総合的に説明できる。
9. 脳神経についてその種類と起始、走行、分布領域など説明できる。
10. 脳神経の構成を理解し、その機能（運動性、知覚性、分泌性）を説明できる。
11. 自律神経（交感神経と副交感神経）の形態と機能を説明できる。
12. 皮膚の組織学的構造と肉眼解剖学的所見とを対比して説明できる。
13. 乳腺の形態学的特徴と機能について説明できる。
14. 骨、軟骨、関節、靭帯などの構造と機能を理解し、説明できる。
15. 姿勢と体幹の運動にかかわる筋群とその運動、神経支配を理解して説明できる。
16. 四肢の骨ならびに筋肉と支配神経を理解し、機能的に説明できる。
17. 単径部の形態学的構造と局所解剖学的特徴を分析して、統合的に説明できる。
18. 心臓の位置と局所解剖学的特徴を理解して説明できる。
19. 心臓の構造と分布する血管、神経を理解して説明できる。
20. 心臓の刺激伝導系の構造と機能を説明できる。
21. 体循環、肺循環、胎生期循環を形態的ならびに機能的に理解して説明できる。
22. 動脈を系統的に列挙して、その起始、走行、分布を図示して説明できる。
23. 静脈を系統的に列挙して、その起始、走行、分布を図示して説明できる。
24. 体静脈系と門脈系静脈の相違点を理解して説明できる。
25. 主なリンパ管とリンパ節を理解し、リンパの流れを説明できる。
26. 気道の構造を図示して説明できる。
27. 肺葉区分と肺門の構造を理解し説明できる。
28. 縦隔を構成する要素と相互位置関係を説明できる。
29. 胸壁、胸膜、胸膜腔についての構造、配置、機能について理解し説明できる。
30. 呼吸運動のメカニズム（筋肉、神経）について理解し説明できる。
31. 各消化器官の位置、形態、神経血管分布などの特徴を理解し、図示して説明できる。
32. 腹壁、腹膜と腹膜腔、腹部臓器との関係を理解して説明できる。
33. 歯、舌、口腔、唾液腺の構造と機能を説明できる。
34. 腎臓、尿路系の位置、形態と血管分布、神経支配を説明できる。
35. 尿管、膀胱、尿道の局所解剖学的特徴、性差について理解し説明できる。
36. 男性生殖器の構造を説明できる。

37. 女性生殖器の構造を説明できる。
38. 骨盤内臓の局所解剖を図示して説明できる。
39. 骨盤底の構造について説明できる。
40. 内分泌器官の種類、位置、働きについて説明できる。
41. 眼球と付属器の標準的構造と機能を理解し説明できる。
42. 眼球運動に関わる筋とその神経支配を説明できる。
43. 外耳，中耳，内耳の構造を図示して説明できる。
44. 口腔，鼻腔，咽頭，喉頭の構造を図示して説明できる。
45. 咀嚼と嚥下の解剖学的基盤を説明できる。
46. 舌の知覚、味覚、運動の神経支配とその経路について説明できる。
47. 声帯の機能と神経支配を説明できる

<登録のための条件（注意）>

医学部医学科 2 年次生で、当該ユニットを未修の者に限る。学務情報システムにアクセスし、マイクロソフト Office を使用できる環境であること。

<授業実施形態について>

講義と実習により実施する。

解剖実習は解剖衣を着用すること。グループごとに解剖を進めるので協調して責任を果たすこと。

<成績評価の方法と基準>

取り組みが可となれば、成績が付与される。

- (1) 実習への取り組み（出席、姿勢・態度、内容、レポートなど）が可であれば成績評価を行う。不可であれば定期試験の結果にかかわらず不合格とする。また解剖総論の合格見込みがない場合は、肉眼解剖学の成績は付与しない。
- (2) 成績は実習への取り組み（25%）、試験（小テスト含む、75%）で判定する。

<使用テキスト>

実習ではプリントを配布する。肉眼解剖学実習に必要なテキストは、(1) 教科書、及び(2) 図譜（アトラス）、が挙げられる。教科書はラテン語あるいは英語で用語が記載されているものを選択すること（解剖総論の項を参照）。

<関連リンク>

<参考文献>

- (1) 「グラント解剖学図譜 第五版」 Agur・Dalley 著 医学書院
- (2) 「ネッター解剖学アトラス 原著第4版」 Netter 著 南江堂
- (3) 「解剖学アトラス」 Kahle 他著 分光堂
- (4) 「図解 解剖学事典」 Feneis 著 医学書院
- (5) 「プロメテウス解剖学コア・アトラス」 Gilroy・MacPherson・Ross 著 医学書院

<キーワード>

解剖学 解剖実習

<備考>

学務情報システムにアクセスできる情報機器端末およびインターネット環境が必要。

<授業計画>

- 第1回目 実習のガイダンスなど
- 第2回目 背部浅層、臀部・大腿後面浅層
- 第3回目 浅背筋、臀部・大腿後面深層
- 第4回目 討論・まとめ
- 第5回目 頸胸部浅層、大腿前面浅層

- 第6回目 頸部やや深層、大腿前面
- 第7回目 討論・まとめ
- 第8回目 腋窩と鎖骨下動静脈、大腿前面深層・膝関節
解剖体慰霊祭
追悼式（自習可）
- 第9回目 上腕浅層、膝窩・下腿後面
- 第10回目 討論・まとめ
- 第11回目 上腕・腕神経叢、下腿前面・足背
- 第12回目 上腕伸側・肩関節、足底
- 第13回目 討論・まとめ
- 第14回目 前腕伸側・手背、深背筋・後頭下三角
- 第15回目 前腕屈側・手掌浅側、脊髓・胸壁
- 第16回目 討論・まとめ
- 第17回目 討論・まとめ 解剖学特別講義（黒瀬先生）
- 第18回目 手掌、胸腹壁・胸腔
- 第19回目 顔面、頸部深層・縦隔
- 第20回目 討論・まとめ
- 第21回目 下顎後隙・下部、縦隔
- 第22回目 頭部離断・咽頭（Ⅰ）、肺・心臓
- 第23回目 討論・まとめ
- 第24回目 頭部離断・咽頭（Ⅱ）、腹膜と腹膜腔
- 第25回目 討論・まとめ 解剖学特別講義（伊藤先生）
- 第26回目 内頭蓋底・口腔、腹部内臓の血管（Ⅰ）
- 第27回目 討論・まとめ
- 第28回目 喉頭、腹部内臓の血管（Ⅱ）
- 第29回目 討論・まとめ
- 第30回目 鼻腔・咀嚼筋、腹部内臓
- 第31回目 側頭下窩、泌尿器と横隔膜
- 第32回目 討論・まとめ 解剖学特別講義（谷口先生）
- 第33回目 討論・まとめ
- 第34回目 口蓋・副鼻腔、後胸腹壁・腰神経叢
- 第35回目 眼窩、外陰部
- 第36回目 討論・まとめ
- 第37回目 眼球・上顎、会陰
- 第38回目 討論・まとめ
- 第39回目 頸静脈孔・中耳、骨盤
- 第40回目 討論・まとめ
- 第41回目 内耳・翼突管、骨盤内臓・骨盤壁
- 第42回目 最終確認
- 第43回目 最終確認
- 第44回目 お別れ・片付け
- 第45回目 まとめ レポート
- 第46回目 試験

*学外の講師による特別講義が予定されており、上記も含めて詳細な授業計画は初回講義時に提示する予定である。変更等によって補講時間を使用する必要があるため、補講時間についても確保するように注意すること。

<授業時間外の学修>

- 第1回 解剖総論で学んだ内容についてまとめる
- 第2回 背部浅層、臀部・大腿後面浅層についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第3回 浅背筋、臀部・大腿後面深層についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第4回 頸部から大腿後面までの背面の構造について体系的にまとめる
- 第5回 頸胸部浅層、大腿前面浅層についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる

- 第6回 頸部やや深層、大腿前面についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第7回 頸胸部浅層から、大腿前面までの構造について体系的にまとめる
- 第8回 腋窩と鎖骨下動静脈、大腿前面深層・膝関節についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第9回 上腕浅層、膝窩・下腿後面についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第10回 上腕浅層、膝窩・下腿後面について体系的にまとめる
- 第11回 上腕・腕神経叢、下腿前面・足背についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第12回 上腕伸側・肩関節、足底についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第13回 肩関節、上腕、腕神経叢、下腿前面から足背・足底について体系的にまとめる
- 第14回 前腕伸側・手背、深背筋・後頭下三角についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第15回 前腕屈側・手掌浅側、脊髓・胸壁についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第16回 前腕屈側・手掌浅側、脊髓・胸壁について体系的にまとめる
- 第17回 前腕伸側・手背、深背筋・後頭下三角について体系的にまとめる
- 第18回 手掌、胸腹壁・胸腔についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第19回 顔面、頸部深層・縦隔についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第20回 これまでの学修内容について確認しておく
- 第21回 下顎後部・下部、縦隔についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第22回 頭部離断・咽頭（Ⅰ）、肺・心臓についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第23回 下顎後部・下部、縦隔、肺・心臓について体系的にまとめる
- 第24回 頭部離断・咽頭（Ⅱ）、腹膜と腹膜腔についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第25回 頭部離断・咽頭（Ⅱ）、腹膜と腹膜腔について体系的にまとめる
- 第26回 内頭蓋底・口腔、腹部内臓の血管（Ⅰ）についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第27回 内頭蓋底・口腔、腹部内臓の血管（Ⅰ）について体系的にまとめる
- 第28回 喉頭、腹部内臓の血管（Ⅱ）についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第29回 喉頭、腹部内臓の血管（Ⅱ）について体系的にまとめる
- 第30回 鼻腔・咀嚼筋、腹部内臓についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第31回 側頭下窩、泌尿器と横隔膜についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第32回 側頭下窩、泌尿器と横隔膜について体系的にまとめる
- 第33回 口蓋・副鼻腔、後胸腹壁・腰神経叢についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第34回 眼窩、外陰部についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第35回 眼窩、外陰部について体系的にまとめる
- 第36回 眼球・上顎、会陰についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第37回 眼球・上顎、会陰について体系的にまとめる
- 第38回 頸静脈孔・中耳、骨盤についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第39回 頸静脈孔・中耳、骨盤について体系的にまとめる
- 第40回 内耳・翼突管、骨盤内臓・骨盤壁についてプリントを中心に教科書・図譜などでまとめる
- 第41回 内耳・翼突管、骨盤内臓・骨盤壁について体系的にまとめる
- 第42回 篤志献体の意味や生命の尊厳、医療者としての立ち振る舞いについて考察する
- 第43回 篤志献体の意味や生命の尊厳、医療者としての立ち振る舞いについて考察する
- 第44回 人体の構造について、局所的・体系的にまとめる
- 第45回 人体の構造について、局所的・体系的にまとめる

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

佐藤 昇（解剖学分野 nsato@med.niigata-u.ac.jp）

組織学総論

担当教員 芝田 晋介、三上 剛和、早津 学、奥山 健太郎
科目英文名 Histology -cells and tissues-(Structure and Function of the Human Body I)
聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

人体の構造と機能に関する知識は、医学を学ぶ上の基本である。ここでは人体の正常な機能を理解するために、人体を構成する細胞と組織の微細構造を講義と実習を通して学ぶ。

<科目のねらい>

細胞と組織の基本構造を概説する。また、これに関した顕微鏡実習を行うことにより、医学の基礎知識と考え方を身につける。

<学習の達成目標>

1. 人体を構成する細胞および細胞集団としての組織の構造と機能分化を理解し、説明できる。
2. 顕微鏡による細胞と組織の観察により、科学的な観察力と理解力を身につけ、そこから洞察し機能を説明できる。
3. 顕微鏡実習を通して、記録する習慣を身につける。

<登録のための条件（注意）>

- ・ 医学部医学科では必修科目である。
- ・ 高校生物の前提知識があることが望ましい。

<授業実施形態について>

- ・ 対面型講義と、講義の内容をより深く理解することを目的とする顕微鏡を使った組織切片の観察とスケッチの対面型実習を行う。予備的に Zoom 会議システムを用いたリアルタイム型オンライン講義も用意する。
- ・ 講義開始前に学務情報システムの授業連絡通知を介して実施形態や Zoom アクセス情報を通知する。
- ・ 講義はスライドプレゼンテーションの形式をとり、PDF を講義資料として配布する。
- ・ 実習は実習室 3-A で行う。詳細については初回講義で実施方法を説明する。
- ・ 実習は顕微鏡で観察した内容を自らの手でスケッチして記録することを主眼とする。そのため、B5 サイズのノート（無地）と 12 色程度の色鉛筆が必要。
- ・ 実習は重要で、知識の系統的な蓄積を必要とすることから、遅刻・欠席をしないこと。毎回の講義は実習に関する内容を解説するため、講義に出席することで実習を効率よく進めることができる。知識の定着度を確認するための小テストを講義・実習で実施する場合があります。

<成績評価の方法と基準>

1. 実習を 3 分の 1 以上欠席すると学則に従い本試験の受験資格を喪失する。実習遅刻 2 回で半日分（3 コマ分）の欠席として扱う。
 2. 実習試料の情報、スケッチ、観察内容が記述された実習ノートを提出してもらい、正確性、科学的な説明が記載されているかを評価する（10%程度）。
 3. 細胞および組織構造と機能を説明できるかを問う筆記試験による評価を実施する（90%程度）。
- これら 1～3 を総合評価した結果、合格点に満たない場合は、再試験を一度のみ行う。

<準備学習の内容>

各回前に該当内容をテキストや参考文献で一読しておくこと。

<使用テキスト><参考文献>

教科書は指定しないが、何らかの組織学書を最低1冊は通読することを強く薦める。おもな組織学書として以下に示す。

(和書)

- 牛木辰男著「入門組織学(改訂第2版)」南江堂(入門～中級書)
- 阿部和厚・牛木辰男著「組織学(改訂20版)」南山堂(中級の教科書)
- 藤田尚男・藤田恒夫著「標準組織学総論(第6版)」医学書院(きわめて詳しい組織学書)などがある。

(洋書)

- Junqueira & Carneiro 著「basic histology. Text & atlas」MacGrawHill
(翻訳書は坂井建雄・川上速人監訳「ジュンケイラ組織学(第6版)」丸善株式会社があるが原書の英語もわかりやすい)
- Ross & Pawlina 著「Histology. A text and atlas」Lippincott William & Wilkins
(翻訳書は内山安男・相磯貞和監訳「Ross組織学」南江堂)
- Kierszenbaum & Tres 著「Histology and Cell Biology. An introduction to Pathology」Elsevier
(翻訳書は内山安男監訳「組織細胞生物学」南江堂)などが役立つ。

(読み物)

- 藤田恒夫・牛木辰男著「細胞紳士録」カラー版岩波新書
- 山科正平著「新・細胞を読む」講談社ブルーバックスなどがある。

<関連リンク>

顕微解剖学講座 ホームページ：<http://www.med.niigata-u.ac.jp/an3/>

<キーワード>

組織学、細胞、顕微鏡

<授業計画>

詳しい予定は、初回の講義時にPDFで配布するが、取り扱う内容は以下のとおり。実習の詳細は随時PDFで配布する。

— 講義 —

- 1 細胞の構造
 - 2 上皮組織
 - 3 結合組織と支持組織
 - 1) 結合組織
 - 2) 軟骨・骨組織
 - 4 筋肉組織
 - 5 神経組織
- 特別講義2回
— 筆記試験 —

— 実習 —

- 1 顕微鏡の使い方
- 2 上皮組織
- 3 結合組織と支持組織
 - 1) 結合組織(2回)
 - 2) 軟骨・骨組織
- 4 筋肉組織
- 5 神経組織

<備考>

<担当教員(メールアドレス)>

- 芝田 晋介 (shibatas@med.niigata-u.ac.jp)
早津 学 (hayatsu@med.niigata-u.ac.jp)

生体内物質と代謝

担当教員 松本 雅記、中津 史、奥田 修二郎、押川 清孝、河寄 麻実、野住 素広、
幡野 敦、小林 大樹、本多 敦子、中谷 航太、ほか非常勤講師若干名
科目英文名 Structure, Function, and Metabolism of Human Biomolecules
聴講指定等 医学部（医学科）

<概要>

生化学関連の講義は、生化学関連の2分野が主体となって第二学年で、「生体内物質と代謝」および「生化学実習」、第三学年で「アドバンス基礎医学」の3科目の教育を行う。学習の便宜上、複数の科目に分かれているがこれらの全体を履修することによって、生体で起こっている現象を分子レベルの相互作用で理解することができるはずである。この理解をもとに、個々の疾患の分子病態学を高学年で学ぶ基盤を作るように学習を進める。

<科目のねらい>

本年度の本科目では、人体の構成物質、特に生体高分子である核酸とタンパク質の構造と機能を軸に、これらの分子がどのような酵素反応によって合成され、細胞機能に活用されていくかを概説する。本科目を受講した後に、遺伝子発現から見た細胞の営みが理解できることを目標とする。

<学習の到達目標>

1. 人体を構成する元素、低分子有機化合物（アミノ酸、脂質、糖および誘導体、ヌクレオチド、ヘム、ビタミンなど）、および生体高分子（核酸、タンパク質、多糖など）の名称、性状、構造、局在等を理解している。
2. 上記物質群の代謝（分解および合成）、その反応を触媒する酵素、酵素反応の調節機構を理解している。
3. 基本的な代謝の異常に関わる病態（先天代謝異常、代謝性疾患など）について、その生化学レベルでの変化を理解している。
4. 遺伝子の複製、転写、翻訳機構を理解できる。
5. 細胞内情報伝達の基本機構を理解できる。
6. 遺伝子工学、発生工学等の先端バイオテクノロジーの基本を理解できる。

<登録のための条件（注意）>

一年次の理系必修科目をすべて理解していること。また同時期に開講される「解剖学総論」「肉眼解剖学」「組織学総論」「神経生理学」の単位取得も、本科目の理解には重要である。

<授業実施形態について>

講義形式

<授業計画>

講義日程、講義題目と担当教員名を含む詳細な講義予定表は1回目の講義で配布する。なお講義回数と内容はおおよその目安であり、講義の流れによって若干の変更がありうる。

0. 生化学序論（2回）：生体内物質の特性、生体構成元素、代謝の役割と原理、ATPの意義
1. タンパク質の構造と機能（8回）：タンパク質の1次構造・高次構造、タンパク質の機能と構造の関連性（ドメイン、モチーフなど）、タンパク質の分析法、構造生物学、膜輸送の分子機構
2. 酵素反応総論（3回）：酵素の役割、酵素の特異性とタンパク質構造の関連性、反応速度論、補酵素・補欠族の種類と役割、活性中心、アロステリック調節、酵素の反応機構、酵素の実例
3. 核酸の構造と機能、遺伝子研究法、核酸塩基代謝（6回）：核酸塩基、ヌクレオチド、核酸の立体構造、DNA塩基配列決定法、バイオインフォマティクス、組換えDNA技術、遺伝子導入法、発生工学、プリンヌクレオチドの合成と分解、プリンヌクレオチド代謝の異常と疾患、ピリミジンヌクレオチド代謝
4. 遺伝情報の複製、発現、翻訳（7回）：DNAの合成（複製）及び修復の分子機構、転写及び調節機構、遺伝情報の翻訳（タンパク質合成）の分子機構、抗生物質の作用機序
5. 糖質の構造と代謝（7回）：糖の構造、複合糖質、糖鎖の意義、解糖系、糖新生、五炭糖リ

- ン酸経路、グリコーゲン代謝、複合糖質代謝、糖代謝の異常と病態、ライソゾーム病
6. 脂質の構造と代謝及び膜輸送（7回）：脂質の構造と多様性、脂肪酸の合成と分解、リン脂質の合成と分解、イノシトールリン脂質代謝と情報伝達、アラキドン酸代謝、ステロイド合成、スフィンゴ脂質代謝、脂質代謝異常、生体膜の機能と膜輸送
 7. アミノ酸代謝（5回）：アミノ酸の分解及び相互転換、尿素回路、生理活性アミンの代謝、ヘム代謝と病態、タンパク質の選択的分解機構
 8. 生体エネルギーの産生機構（2回）：クエン酸回路の諸過程と調節、電子伝達系、酸化的リン酸化、活性酸素の発生と制御機構
 9. 細胞内情報伝達（2回）：受容体、Gタンパク質、セカンドメッセンジャー、タンパク質リン酸化
 10. 代謝のまとめ（5回）：代謝経路の相互関連性、代謝疾患の病態【糖尿病・肥満】、ビタミンと欠乏症、代謝調節、臓器別の代謝特性、臨床検査と生化学

<準備学習の内容>

最初の講義時に配布する予定表に沿って講義するが、記載されている教科書の関連箇所を予習してくるのが望ましい。

教科書は必携のこと。各自が教科書を持参していることを前提に講義は行う。その他に補助教材（講義資料）を使って講義するので、内容を復習すること。

<成績評価の方法と基準>

6月に行う本試験（筆記試験）の成績および不定期で行う小テストやレポート等の結果を総合的に評価する。不合格者には再試験を8月までに、1回に限って行う。講義出席の確認は講義室のカードリーダーで行う。また、出席不良や成績不良者には補講の聴講を義務付ける可能性がある。

<使用テキスト>

「ストライヤー 生化学」（入村・清水・岡山・仲野監訳 第8版；東京化学同人）

<参考文献>

「イラストレイテッド生化学【第7版】」（丸善）；「カラー生化学 第4版」（西村書店）；「日本生化学会編集「細胞機能と代謝マップⅠ 細胞の代謝・物質の動態」（東京化学同人）；「症例ファイル 生化学」（丸善）；「細胞の世界」（西村書店）；「ペインズ・ドミニチャク 生化学第4版」（丸善）；「人体の細胞生物学」（日本医事新報社）；「ハーパー・生化学 原書30版」（丸善）；「医学系のための生化学」（裳華房）；細胞の分子生物学(第6版)（ニュートンプレス）

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

松本 雅記（システム生化学・教授 masakim@med.niigata-u.ac.jp）
中津 史（脂質生化学・教授 nakatsu@med.niigata-u.ac.jp）

講義番号	M1202	科目名	生理学実習
単 位	2	開講期	第1期 定員 140
担当教員	長谷川功、杉山清佳、川寄圭祐、侯旭濱、田中慎吾、内許玉楓、飯島淳彦、山口賢一、井上貴博、笹岡俊邦、学外講師		
科目英文名	Experimental physiology		
聴講指定等	医学部（医学科）		

<科目の概要>

生体の生理機能に関わる8項目の実習を班ごとに(1項目は4班合同で)実施し、そのうち1項目について実習発表をおこなう。科目の内容は「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ(生理学)」の履修内容と密接かつ相補的な関係を有する。本実習は補講の実施が極めて困難であるため出席を重視し、実習とガイダンスの全項目、発表指導、発表会にすべて出席することを義務づける。また動物実験教育訓練 e-learning を期日までに修了しないものは実習参加資格を失う。

<科目のねらい>

生きた人体に介入することは医師にのみ許されている。本実習は、医学生にとって初めてヒトや動物の生きた組織に触れながら機能を計測する、貴重な経験を積む機会である。

<授業実施形態>

原則として対面で実施する。動物実験教育訓練は e-learning 修了を以って完了する。実施形態や授業計画等の変更がある場合は学務情報システムから通知するので注意せよ。

<学習の達成目標>

- ◆ 生体組織の扱いに習熟し、特に手術器具や顕微鏡下での電極の操作等を経験する。
- ◆ 目的に沿った実験アプローチでデータを収集・解析して結論を導く科学の手続きに親しむ。
- ◆ 生体信号計測の手法を体験し、信号に対するノイズの要因を分析・対処する術を学ぶ。
- ◆ 動物実験を通して生命の尊厳を学ぶ。
- ◆ 科学論文に準じたレポートや発表資料の作成を経験する。
- ◆ 学会発表に準じた口頭発表と質疑応答を経験する。
- ◆ ヒトを対象とした実験を通して医師としての倫理感を養う。
- ◆ 生体の働く仕組みについて講義で学んだこと/今後学ぶことの理解を深める。

<授業計画>

- ・生理学実習ガイダンス ※第1講義室で実施。定刻までに試験の席に着くこと。
6/23(火)4限 動物実験教育訓練 → 受講後6/25(木)までに e-learning を修了する(厳守)。
6/23(火)5限 全体ガイダンス(実習手引配布予定)。
6/23(火)6限および6/29(月)1~3限 講義未履修の実習項目の事前講義。
- ・6/30(火)~7/13(月) 交替で8項目の実習を実施。特に指示のない限り9:00に各項目の指定場所に集合。班名簿、日程表、各項目の集合場所等は実習の手引に記載予定。
- ・7/14(火) 班ごとに自己学習による発表資料案作成。小グループ学習室利用可の予定。
- ・7/15(水) 教員による発表指導と自己学習による発表資料作成・発表準備。
- ・7/16(木) 実習発表会 8:30 第1講義室で試験の席に着いて開始する。

実習項目(案)	担当教員(所属)	集合場所
静止電位と活動電位	川寄(神経生理)	第4実習室
反射と筋電図	飯島(工学部)・長谷川(神経生理)	第3実習室B
心理物理	戸田(新潟医療福祉大)・長谷川	第1講義室
腎生理	内許(腎研究センター)	腎分子病態・生化学実験室 (腎研究棟1階)
ラット大脳	田中(神経生理)	第4実習室
糖代謝	侯・杉山(発達生理)	第4実習室
ラットの循環・呼吸	杉山・侯(発達生理)	第4実習室
心電図	山口(元第二生理)・井上(脳研究所)	第4実習室

<注意事項>

※実習1週間前～発表会まで体調管理に細心の注意を払い、全日程に参加すること。

※集合時間厳守。1名の遅刻が実習進行に影響する。やむを得ず遅れる時は、集合時刻までに担当教員に至急連絡するとともに、遅刻事由をEメールで報告すること。

※カードリーダーは不使用。点呼等で随時出席を確認する。教員が出席を確認できない場合は不在とみなす。遅刻・早退・中退により入退室する場合はその場で直ちに教員に伝えること。

- ◆ 熱発や呼吸器症状等がある場合は学務係 025-227-2016 に電話もする。
- ◆ 実習室内は飲食禁止。周囲の廊下も含め、大声を出さないこと。実習進行の妨げとなったり、他の学生や周囲に迷惑をかけたりの言動が認められれば退室させる。
- ◆ 荷物はロッカーに置き、実習で用いる以外のものを実習場所に持ち込まない。貴重品は自己責任で管理する。
- ◆ 感染症の流行状況等によってはマスク着用を義務づけるので、指示を守ること。
- ◆ 実習や発表会等の実施形態/内容/担当者/場所を変更することがある。その場合、本シラバスよりも、学務情報システムや実習手引による最新の通知内容を優先する。

<準備学習の内容>

※動物実験教育訓練の受講後、6/25(木)までに(厳守) e-learning を全問正解するまで受検し、修了バッジを得ること。バッジ未取得者は実習参加資格を失う。できるだけ動物実験教育訓練の受講直後に e-learning を修了できるよう、6/23(火)4~6 限は学内 LAN 等に接続可能な無線端末(PC, ipad, スマートホン等)を持参すること。

※各実習項目に関連する講義で習った関連事項を実習日までにおさらいし、項目ごとに指示が与えられた場合は事前準備をおこない、体調を万全に整えて実習に臨むこと。

- ◆ 動物実験では、白衣と手袋、手術解剖器具一式(ピンセット、ハサミ大・小、メス)を持参する。生体組織に対して繊細な作業ができるように道具の手入れを心掛ける。
- ◆ 予備日には予習復習やデータ整理/解析、レポート作成、実習発表の事前準備等を行う。
- ◆ 各班は指定された実習項目について実習発表を担当する。担当項目の指導教員と緊密に連絡をとり、発表準備の内容やスケジュールを確認する。
- ◆ 単語帳のカード20枚に出席番号、氏名、通し番号を記入したのち、発表会に持参する。

<成績評価の方法と基準>

- ◆ (1)各実習項目の評価(10%程度×8)、(2)実習発表と発表指導日の評価(10%程度)、(3)実習への参加姿勢・貢献度その他に基づく特別加点/減点(0~±10%程度)、を総合して評価する。
- ◆ (1)各項目の評価において、欠席者は無得点、遅刻・早退・中途退室者は大幅減点とする。
- ◆ 発表会の議論を活性化する建設的な質問やコメントを発したと教員が認めた学生から、その場で評価した枚数分のカードを回収してポイント加算する『発言ポイント制』を実施し、評価の一助とする。なお発言時にカード未記入の者はポイント適用外とする。

<使用テキスト>

ガイダンスで実習の手引きを配布する。項目ごとに適宜プリントを追加配布することがある。

<参考文献>

「新生理学実習書」南江堂(日本生理学会編)

<担当教員(分野 メールアドレス)>

長谷川 功 (神経生理学分野 isaohasegawa@med.niigata-u.ac.jp)
杉山 清佳 (発達生理学分野 sugiyama@med.niigata-u.ac.jp)

人体の構造と機能Ⅱ

講義番号 M1203 単位数 10 開講期 第2期 定員 140
コース 神経解剖学、生理学、組織学各論、発生学、生化学実習

科目の概要

医学を修める上で基本となる人体の構造と機能について様々な角度から学ぶ

科目のねらい

正常な人体の構造と機能について、解剖学、生理学、生化学を通して学修を進め、更に相互の関連性について理解を深める

学習の到達目標

人体の構造と機能について様々な角度から説明できる

授業実施形態について

講義及び実習

成績評価の方法と基準

別途配布する各ユニットのシラバスを参照。

ユニットごとに評価を行い、全てのユニットで合格することで本科目を修得する。

神経解剖学

担当教員 白井 紀好、土井 美幸、学内外の講師
科目英文名 Structure and Function of the Human Body II (Neuroanatomy)
聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要>

中枢神経系の局所解剖学的構造および主要な神経回路を体系的に学び、構造と機能の関連を理解する。

<科目のねらい>

高度で複雑な機能を担う中枢神経系の構築と神経連絡を理解し、神経症候と障害部位との関連を説明できる基礎を確立する。将来の臨床医学の学修へ円滑に移行するための知識と視点を養う。

<学習の達成目標>

1. 脳および脊髄の肉眼解剖学的構造、髄膜、脳室系ならびに脳脊髄液循環を説明できる。
2. 運動系の神経経路を説明できる。脊髄反射の機構および大脳皮質運動野、錐体路を中心とする下行路の構成を説明できる。
3. 体性感覚系の分類および伝導経路を説明できる。後索内側毛帯路および脊髄視床路の走行と機能を説明できる。
4. 小脳および大脳基底核の神経回路を説明できる。錐体外路系の概念と運動制御における役割を説明できる。
5. 視床下部および脳幹網様体の神経連絡と機能を説明できる。自律機能および覚醒機構との関連を説明できる。
6. 視覚系の神経連絡を説明できる。視覚伝導路の構成と機能的意義を説明できる。
7. 聴覚系の神経連絡を説明できる。聴覚伝導路の構成と音源定位などの機能的特徴を説明できる。
8. 嗅覚系および大脳辺縁系の神経回路を説明できる。情動、記憶、生殖行動との関連を説明できる。

<登録のための条件（注意）>

医学部医学科では必修科目

<授業実施形態について>

- ・講義は対面形式で実施する。
- ・講義および実習に関する資料の配布ならびに課題提出は、学務情報システムを通じて行う。
- ・やむを得ずオンライン形式で実施する場合は、Zoom等を使用し、事前に学務情報システムを通じて通知する。

<授業計画>

—講義—

1. 神経解剖学概論
2. 発生、変性、再生
3. 脳脊髄液、血管系
4. 脊髄
5. 脳幹（中脳、橋、延髄）
6. 脳神経、自律神経
7. 小脳
8. 大脳基底核
9. 大脳辺縁系（海馬、扁桃体、間脳）
10. 大脳皮質
11. 運動路
12. 感覚路 1
13. 感覚路 2
14. 肉眼解剖学概論

15. 特別講義 1
16. 特別講義 2
17. 筆記試験

—実習—

1. 脳の外観、髄膜、血管、脳神経：§92-95
2. 脳幹、小脳、脳室：§96-98
3. 延髄と橋、脳幹と小脳の断面、大脳の切半：§99-101
4. 大脳皮質、嗅脳、連合繊維、基底核：§102-105
5. 間脳、大脳皮質と間脳の断面：§106, 107
6. まとめと片付け
7. 口頭試問

<準備学習の内容>

- ・講義内容について予習および復習を行い、理解が不十分な事項については積極的に質問するなど主体的に学修に取り組むこと。
- ・ご献体いただいた故人の遺志を尊重し、常に礼節をもって実習に臨むこと。実習は「解剖実習の手びき」に基づいて実施するため、該当箇所を事前に十分予習し、内容を理解したうえで参加すること。

<成績評価の方法と基準>

- ・筆記試験を主たる評価方法とし、総合評価の約75%を占める。口頭試問を約15%、レポート・スケッチ課題、実習態度および出席状況等を約10%として総合的に評価する。
- ・実習の遅刻および欠席は原則として認めない。やむを得ない事情がある場合は、事前に学務係へ連絡すること。実習態度が著しく不適切と判断された場合は、評価に反映し、場合によっては不合格とする。
- ・再試験は筆記試験および口頭試問について、それぞれ1回に限り実施する。

<使用テキスト>

指定教科書は設けないが、神経解剖学に関する標準的教科書を各自準備することが望ましい。講義では主として以下の教科書とアトラスを参照する。必要に応じて参考文献として挙げる教科書とアトラスも併用する。

—講義—

- 「マーティンカラー神経解剖学」野村蟻・金子武嗣 監訳、西村書店
- 「カラー図解神経解剖学講義ノート」寺島俊雄著、金芳堂

—実習—

- 「解剖実習の手びき」寺田春水ら著、南山堂
- 「プラクティカル解剖実習脳」千田隆夫ら著、丸善出版

<参考文献>

—講義—

- 「ハインズ神経解剖学アトラス」佐藤二美訳、MEDSi
- 「プロメテウス解剖アトラス頭頸部/神経解剖」坂井建雄ら監訳、医学書院
- 「構造と機能がつながる神経解剖生理学」坂井建雄ら、医学書院

—実習—

- 「ハインズ神経解剖学アトラス」佐藤二美訳、MEDSi
- 「解剖学カラーアトラス」J. W. Rohenら、医学書院
- 「プロメテウス解剖アトラス頭頸部/神経解剖」坂井建雄ら監訳、医学書院

<キーワード>

神経系の発生、中枢神経系の構造、神経路と伝導路、機能局在、臨床神経解剖

<備考>

- ・実習は解剖実習室において実施する。実習室への携帯電話、スマートフォン、タブレット等の電子機器の持ち込みは認めない。写真および動画の撮影も禁止する。
- ・実習には、解剖道具一式（ピンセット、ハサミ、メス等）、解剖着または白衣、使い捨て手袋、外履きと区別した室内履き、名札（手書き可）、マスクを持参し、実習中は着用すること。ま

た、スケッチに必要な筆記用具を準備すること。「解剖実習の手びき」は各班に1冊貸与するが、可能な限り各自持参することが望ましい。アトラスについても参照するため、班で少なくとも1冊以上準備することが望ましい。

・本科目では、生成AI（ChatGPT、Gemini等）の利用を条件付きで許可する。利用する場合は、以下の点を遵守すること。

1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的（質問のプロンプト等）で、どのAIを利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用（許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など）が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処する。

<担当教員（メールアドレス）>

臼井 紀好（noriyoshi.usui.med@niigata-u.ac.jp）

土井 美幸（miyuki.doi.med@niigata-u.ac.jp）

生理学

担当教員 長谷川功、川寄圭祐、田中慎吾、杉山清佳、山村健介、飯島淳彦、福田七穂、
学外講師

科目英文名 Neurophysiology (Structure and function of the human body II)
聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要>

生理学は、生体が正常にはたらく仕組みを明らかにしようとする学問である。生命の維持に必要な普遍的機能から言語などヒトに固有の高次脳機能まで、生体の動作原理はすべからず他の物理現象と同様に合理的に説明できるはずである。この生理学的なものの考え方は、あらゆる生命科学の根幹をなし、また疾病を健常機能の損なわれた状態と捉える現代の医学・医療にとっても不可欠である。本科目では、運動系と感覚系を含む広義の神経系の機能（動物機能）がどのようにして営まれるかについて理解を深める。生理学講座の教員のみならず関連する幅広い学問領域において豊富な教育研究実績を有する他講座・他学部・学外の専門家の特別講義を設け、将来基礎/臨床に進んだ際に有意義と考えられる様々な話題をご提供いただく。

<科目のねらい>

神経系の機能に関して、基本素子としての細胞（ニューロン）のはたらき、特に『興奮』と呼ばれる電気現象から、細胞間の連結（シナプス）、細胞集団からなる神経回路網や脳システムの動作メカニズム、さらに個体の行動・認知の機序に至るまで、一貫して統合的に理解する。また下記発言ポイント制を用いた双方向性の緊張感溢れる授業により、積極的に発言・質問するつもりで能動的に講義に参加する姿勢を身につける。

<授業実施形態>

原則的に対面の双方向性授業を実施する。本科目ではカードリーダーによる出欠はとらない。講義中に学生から出た発言や質問を講師がその場で認定する『発言ポイント制』により能動的な授業参加を評価する。その場で考え、意見や疑問点があれば聴衆の前で積極的にコメント/質問する習慣を身につけて欲しい。また出欠確認の一助として小テストを随時実施するため、講義中は講義室後部の扉は原則施錠する。前方の入口から出入りすること。

<学習の達成目標>

- (1) 生体膜の機能とイオンの分布・動態について説明できる。
- (2) 神経系の基本素子であるニューロンや、ニューロンを繋ぐシナプスの機能を説明できる。
- (3) 神経回路網の働き、発達、可塑性について説明できる。
- (4) 生体が外界からの刺激を受容する感覚系のしくみを説明できる。
- (5) 生体の行動を司る運動系のはたらきを説明できる。
- (6) 中枢神経系における機能局在と、脳の情報処理の特徴について説明できる。
- (7) 脳・神経系の機能を調べる測定法の原理と手技について説明できる。
- (8) 批判精神と科学的態度、観察力、考察力および洞察力を養う。
- (9) 発言・質問を通して積極的に講義に参加する姿勢を身につける。

<登録のための条件（注意）>

- ・単語帳を購入し、カードに通し番号、出席番号、氏名を記入して持参すること。

<準備学習の内容>

試験では、講義で学んだ知識や考え方を前提に、生体の動作メカニズムや、その『謎』を検証する手法について、知識を再構築して図示しながら論理的な文章で説明する能力を問う。講義各回の重点説明ポイントを図示し、まとめる鍛錬を積むこと。作図/作文について学生同士で相互に批判的コメントを出し合い、改善を図ると良い。生理学や神経科学の一般的な教科書（標準生理学、カandel神経科学など）で出典を確認しながらの予習復習を奨励する。

<使用テキスト>

特に指定しない。オリジナル講義資料を配布することがある。

<人体の構造と機能 II 生理学>				担当教員
9/14	月	4-6 限	ガイダンス・電気生理学入門	長谷川
9/15	火	4, 5 限	静止電位と活動電位	川寄
9/15	火	6 限	興奮と伝導	長谷川
9/17	木	1,2 限	生体とイオン	風間
9/24	木	1-3 限	イオンチャネルと膜電位	中條
9/28	月	4-6 限	シナプス	田中
9/29	火	2,3 限	筋の生理学	戸田
9/29	火	4,5 限	脊髄	飯島
9/29	火	6 限	感覚総論	長谷川
10/1	木	1 限	体性感覚の受容	長谷川
10/1	木	2,3 限	視覚の受容	川寄
10/6	火	1-3 限	中間試験	長谷川・川寄・田中
10/26	月	4 限	中間試験講評 1	長谷川
10/26	月	5,6 限	体性感覚中枢	長谷川
10/28	水	1,2 限	運動の調節	戸田
10/28	水	3 限	中間試験講評 2	田中
11/11	水	1,2 限	聴覚	川寄
11/11	水	3 限	中間試験講評 3	川寄
11/24	火	1 限	睡眠	長谷川
11/24	火	2 限	味覚	山村
11/25	水	1 限	嗅覚	福田
11/25	水	2,3 限	大脳運動野	田中
11/26	木	1 限	サーカディアンリズム	長谷川
11/26	木	2-3 限	大脳 1 次視覚野	杉山・川寄
11/27	金	1,2 限	記憶と可塑性	田中
11/27	金	3 限	生体計測 1	田中
11/30	月	4,5 限	視覚連合野	川寄
11/30	月	6 限	生体計測 2	川寄
12/1	火	4,5 限	脳の高次機能	長谷川
12/1	火	6 限	生体計測 3	長谷川
12/10	木	1-3 限	期末試験	長谷川・川寄・田中

<授業計画> ※日程や内容の変更を学務情報システムから通知する場合がある。

<成績評価の方法と基準>

評価は中間試験（40～45%程度）・期末試験（40～45%程度）と日々の学修状況（発言ポイント、小テスト、作問課題等 10～20%程度）によりおこなう。

<関連リンク>

<http://www.med.niigata-u.ac.jp/ph1/welcome.htm>

<キーワード>

膜電位 イオン ニューロン 興奮 シナプス 自律神経 筋 反射 脊髄 運動
視覚 聴覚 味覚 嗅覚 体性感覚 情動 睡眠 記憶 高次機能

<担当教員（分野 メールアドレス）>

長谷川 功（神経生理学分野 isaohasegawa@med.niigata-u.ac.jp)

川寄 圭祐（神経生理学分野 kkawasaki@med.niigata-u.ac.jp)

田中 慎吾 (神経生理学分野 sngtanaka@med.niigata-u.ac.jp)

組織学各論

担当教員 芝田 晋介、三上 剛和、早津 学、奥山 健太郎、平島 正則、黄地 健仁
科目英文名 Histology -organs- (Structure and Function of the Human Body II)
聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要>

人体の構造と機能に関する知識は、医学を学ぶ上の基本である。ここでは人体の正常な機能を理解するために、人体を構成する器官の構造について、組織学の講義と実習を通して学ぶ。

<科目のねらい>

器官の組織構造を概説し、顕微鏡実習を行うことによって、医学の基礎知識としての人体の構造を理解する。

<学習の達成目標>

1. 器官（組織集団としての器官）の組織学的構造を機能と結びつけて理解し、説明できる。
2. 顕微鏡による組織の観察を通して、科学的な観察力と理解力を身につけ、そこから洞察し機能を説明できる。
3. 顕微鏡実習を通して、観察結果を記録する習慣を身につける。
4. 人体の病的変化を正常構造の変化として指摘できるような考察力を身につける。

<登録のための条件（注意）>

- ・ 医学部医学科では必修科目である。
- ・ 高校生物および組織学総論の前提知識があることが望ましい。

<授業実施形態について>

- ・ 対面型講義と、講義の内容をより深く理解することを目的とする顕微鏡を使った組織切片の観察とスケッチの対面型実習を行う。予備的に Zoom 会議システムを用いたリアルタイム型オンライン講義も用意する。
- ・ 講義開始前に学務情報システムの授業連絡通知を介して実施形態や Zoom アクセス情報を通知する。
- ・ 講義はスライドプレゼンテーションの形式をとり、PDF を講義資料として配布する。
- ・ 実習は実習室 3-A で行う。詳細については初回講義で実施方法を説明する。
- ・ 実習は顕微鏡で観察した内容を自らの手でスケッチして記録することを主眼とする。そのため、B5 サイズのノート（無地）と 12 色程度の色鉛筆が必要。
- ・ 実習は重要で、知識の系統的な蓄積を必要とすることから、遅刻・欠席をしないこと。毎回の講義は実習に関する内容を解説するため、講義に出席することで実習を効率よく進めることができる。知識の定着度を確認するための小テストを講義・実習で実施する場合がある。

<成績評価の方法と基準>

1. 実習を 3 分の 1 以上欠席すると学則に従い本試験の受験資格を喪失する。実習遅刻 2 回で半日分（3 コマ分）の欠席として扱う。
2. 実習試料の情報、スケッチ、観察内容が記述された実習ノートを提出してもらい、正確性、科学的な説明が記載されているかを評価する（10%程度）。
3. 細胞および組織構造と機能を説明できるかを問う筆記試験による評価を実施する（中間試験および本試験の合計 90%程度）。

これら 1～3 を総合評価した結果、合格点に満たない場合は、再試験を一度のみ行う。

<準備学習の内容>

各回前に該当内容をテキストや参考文献で一読しておくこと。

<使用テキスト><参考文献>

教科書は指定しないが、何らかの組織学書を最低 1 冊は通読することを強く薦める。おもな組織学書として以下に示す。

(和書)

- 牛木辰男著「入門組織学(改訂第2版)」南江堂(入門～中級書)
- 阿部和厚・牛木辰男著「組織学(改訂20版)」南山堂(中級の教科書)
- 藤田尚男・藤田恒夫著「標準組織学各論(第6版)」医学書院(きわめて詳しい組織学書)
- R. Krstic 著、牛木辰男・金澤寛明訳「クルスティッチ 立体組織学アトラス」西村書店(組織の立体構造を線画で表現したきわめてユニークな図譜・参考書)

(洋書)

- Junqueira & Carneiro 著「basic histology. Text & atlas」MacGrawHill
(翻訳書は坂井建雄・川上速人監訳「ジュンケイラ組織学(第6版)」丸善があるが、原書の英語もわかりやすい)
- Ross & Pawlina 著「Histology. A text and atlas」Lippincott William & Wilkins
(翻訳書は内山安男・相磯貞和監訳「Ross 組織学」南江堂)
- Kierszenbaum & Tres 著「Histology and Cell Biology. An introduction to Pathology」Elsevier
(翻訳書は内山安男監訳「組織細胞生物学」南江堂)
などが役立つ。

(読み物)

- 藤田恒夫・牛木辰男著「細胞紳士録」カラー版岩波新書
- 山科正平著「新・細胞を読む」講談社ブルーバックス
などがある。

<関連リンク>

顕微解剖学講座 ホームページ：<http://www.med.niigata-u.ac.jp/an3/>

<キーワード>

組織学、細胞、顕微鏡

<授業計画>

詳しい予定は、初回の講義時に PDF で配布するが、取り扱う内容は以下のとおり。実習の詳細は随時 PDF で配布する。

— 講義 —

- 1 皮膚と付属器
- 2 心臓・血管
- 3 血液・骨髄
- 4 リンパ性器官
- 5 歯・舌・唾液腺
- 6 消化管
- 7 肝臓・膵臓
- 8 呼吸器系
- 9 内分泌系
- 10 視覚器・平衡聴覚器
- 11 泌尿器系
- 12 男性生殖器
- 13 女性生殖器

特別講義 2回

— 筆記試験(中間・期末) —

— 実習 —

- 1 皮膚と付属器
- 2 心臓・血管
- 3 血液・骨髄
- 4 リンパ性器官
- 5 歯・舌・唾液腺
- 6 消化管
- 7 肝臓・膵臓
- 8 呼吸器系
- 9 内分泌系
- 10 視覚器・平衡聴覚器
- 11 泌尿器系
- 12 男性生殖器
- 13 女性生殖器

<備考>

<担当教員(メールアドレス)>

芝田 晋介 (shibatasa@med.niigata-u.ac.jp)

早津 学 (hayatsu@med.niigata-u.ac.jp)

発生学

担当教員 白井 紀好、土井 美幸、学内外の講師

科目英文名 Embryology

聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

ヒトの正常発生の時間的および空間的過程を体系的に学び、その理解を基盤として発生異常の成立機構、生殖医療および再生医療の科学的基礎と社会的背景を学ぶ。

<科目のねらい>

ヒトの発生は、受精に始まり形態形成および器官形成を経て進行する生命現象であり、医学の基盤を成す。発生機構の理解は、先天異常の病態把握や周産期医療、生殖医療、再生医療の理解に直結する。また、遺伝子改変技術や幹細胞研究の進展により、発生研究は社会的・倫理的課題とも密接に関わっている。本科目では、臨床医学の学修に必要な発生学の基礎知識を体系的に修得する。

<学習の達成目標>

1. ヒトの受精、着床および初期発生の過程を説明できる。
2. 三胚葉形成から器官形成に至る主要な発生機構を説明できる。
3. 発生異常および先天疾患の成立機序を説明できる。
4. 生殖医療および再生医療の科学的基盤と社会的課題を説明できる。

<登録のための条件（注意）>

医学部医学科では必修科目

<授業実施形態について>

- ・講義は対面形式で実施する。
- ・講義資料の配布および課題提出は、学務情報システムを通じて行う。
- ・やむを得ずオンライン形式で実施する場合は、Zoom等を使用し、事前に学務情報システムを通じて通知する。

<授業計画>

—講義—

1. 初期発生（受精から着床、胎盤）
2. 初期発生（胚盤形成、軸決定）
3. 初期発生（神経誘導、中胚葉分化）
4. 運動器系
5. 心臓・血管、リンパ管
6. 呼吸器系
7. 消化器系
8. 顔面、頭頸部
9. 泌尿、生殖器系
10. 視覚、平衡聴覚器、外皮系
11. 神経系
12. 発生学研究
13. 特別講義 1
14. 特別講義 2
15. 筆記試験

<準備学習の内容>

講義資料および関連教科書を用いて予習・復習を行い、各回の学習内容を整理すること。理解が不十分な事項については、授業中またはオフィスアワー等を活用して確認し、主体的に学修に取り組むこと。

<成績評価の方法と基準>

主たる評価方法を筆記試験とし、総合評価の約 85%を占める。レポート課題および授業への参加状況等を約 15%として総合的に評価する。再試験は 1 回に限り実施する。欠席または遅刻をする場合は、事前に学務係へ連絡すること。

<使用テキスト>

指定教科書は設けないが、発生学に関する標準的教科書を各自準備することが望ましい。講義では主として以下の教科書を参照する。必要に応じて参考文献として挙げる教科書も併用する。
「ラングマン人体発生学」安田峯生ら訳、メディカルサイエンスインターナショナル
「カラー図解 人体発生学講義ノート」塩田浩平、金芳堂

<参考文献>

「ムーア人体発生学」瀬口春道訳、医歯薬出版
「ラーセン最新人体発生学」相川英三ら訳、西村書店

<キーワード>

受精、初期発生、器官形成、発生異常

<関連リンク>

神経解剖学分野ホームページ
<https://www.med.niigata-u.ac.jp/ana2>

<備考>

本科目では、生成 AI (ChatGPT、Gemini 等) の利用を条件付きで許可する。利用する場合は、以下の点を遵守すること。

1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的 (質問のプロンプト等) で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用 (許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など) が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処する。

<担当教員 (メールアドレス)>

臼井 紀好 (noriyoshi.usui.med@niigata-u.ac.jp)
土井 美幸 (miyuki.doi.med@niigata-u.ac.jp)

生化学実習

担当教員 松本 雅記、中津 史、押川 清孝、河寄 麻実、野住 素広、幡野 敦、小林 大樹、
本多 敦子、中谷 航太ほか非常勤講師若干名、学内他教室教員若干名

科目英文名 Biochemistry Experimental Practice

聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

生化学関連の科目は、第二学年で開講される「生体内物質と代謝」、および第三学年での「アドバンス基礎医学」の2科目が中心となる。本実習は、第二学年で習得した生化学の基礎知識をもとに、生化学的実験技術を実践的に学ぶことを目的とする。また、第三学年で「アドバンス基礎医学」において学ぶ基礎医学研究に関連した内容をより深くイメージできるような実験手法を体験させる。これにより、生化学・分子生物学における研究手法を実体験するとともに実験結果を考察する能力を培い、将来的な研究活動や臨床応用への基盤を築くことを目指す。

<科目のねらい>

本科目では、タンパク質の発現・核酸の抽出や操作・生体試料における酵素活性、糖・脂質の分離と分析などの生化学的実験技術を習得し、細胞や分子レベルでの生命現象を理解することを目的とする。

<学習の達成目標>

1) タンパク質の発現解析：PC12細胞を用い、神経成長因子(NGF)制御下の分化過程に関連するタンパク質および形態変化を解析する。MEK-ERK経路およびPI3K-AKT経路の主要なシグナル伝達経路について実験を通じて実践的に理解する。

2) 核酸：培養細胞から核酸成分(DNAとRNA)を抽出し、分光光度計を用いて定量する。また、大腸菌からプラスミドDNAを調製し、PCRや制限酵素などの解析法を実施することで、遺伝子組換え実験における基礎技術を習得する。

3) 酵素活性の測定および生体試料の調製：アクトミオシンの構造と筋収縮メカニズムを理解し、 Ca^{2+} の影響によるATPアーゼ活性の調節を学ぶ。酵素活性測定やポリアクリルアミドゲル電気泳動を通じて、生化学的実験技術を習得し、得られたデータを解析・考察する力を養う。

4) 糖質・脂質：マウスの肝臓と心臓からグリコーゲンを抽出し、酵素法で定量する。また、マウスの肝臓と脳から総脂質を抽出し、薄層クロマトグラフィー(TLC)を用いて各成分を分離し、脂質の構造と機能を理解する。

<登録のための条件(注意)>

1年次の理系必修科目をすべて理解していること。また2年前期の「生体内物質と代謝」の理解を前提として実習を行うため、単位を修得して履修することが望ましい。細胞生物学の原理や生理学の基礎的知識もあるのが望ましいため、前期履修の諸科目の単位取得や、後期で並行して実施される「組織学各論」「発生学」「生理学」の理解・関連付けも重要である。

<授業実施形態について>

小グループに分けてそれぞれのテーマの実習を行う。

<授業計画>

8日間(全日)で、以下の4課題を2日間ずつ実習する。

「タンパク質」「核酸」「酵素」「糖質・脂質」

<準備学習の内容>

実習開始前に配布される実習書をよく読んで原理を理解する必要がある。実習に関連した内容について教科書等を用いて予習してくるのが望ましい。

「核酸」課題は、遺伝子組換え実験に該当するため、事前に遺伝子組換え実験教育

訓練を受講する必要がある。

<成績評価の方法と基準>

実習は8日間行い、出席、実習態度、レポートの3点から総合的に評価する。特に、自己都合による3日以上欠席者に関しては、単位認定は行わないので注意すること。

<使用テキスト>

生化学実習のテキスト（実習書）を配布する。

<参考文献>

「カラー生化学第4版」（西村書店）；日本生化学会編集「細胞機能と代謝マップⅡ 細胞の動的機能」（東京化学同人）；「症例ファイル 生化学」（丸善）；「細胞の世界」（西村書店）；「ペインズ・ドミニチャク 生化学第4版」（丸善）；「人体の細胞生物学」（日本医事新報社）；「ハーパー・生化学 原書30版」（丸善）

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

松本 雅記（システム生化学・教授 masakim@med.niigata-u.ac.jp）

中津 史（脂質生化学・教授 nakatsu@med.niigata-u.ac.jp）

臨床基礎医学 I

講義番号 M1204 単位数 1.5 開講期 第2期 定員 140
コース 病気と遺伝学, 薬理学

科目の概要

病気と遺伝学ユニットでは、メンデル遺伝形式に従う遺伝性疾患から非メンデル遺伝病まで基礎的事項を幅広く学ぶ。薬理学ユニットでは、生体内外の化学物質と生体の相互作用の基本的事項から薬物治療の基盤となる考え方を学ぶ。詳細は各ユニットのシラバスを参照。

科目のねらい

遺伝学と薬理学は病気との接点を多く含むことから、基礎医学が将来の臨床医学に密接につながっている重要性を理解する。遺伝情報は、薬物治療の最適化や副作用リスクの予測などを行う個別化医療やゲノム医療の発展とも密接に結びついており、その取り扱い方や倫理的問題を理解し、新たな医療や創薬の可能性に繋がっていることを理解する。

学習の到達目標

各ユニットのシラバスを参照。

授業実施形態について

講義

成績評価の方法と基準

各ユニットのシラバスを参照。

ユニットごとに評価を行い、全てのユニットで合格することで本科目を修得する。

病気と遺伝学

担当教員 池内 健, 宮下 哲典, 金関 貴幸, 小林 玲, 松下 充, 島田 能史,
奥田 修二郎, 中村 和利, 渡邊 裕美

科目英文名 Medical Genetics

聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要>

遺伝学は生物学の中でも最も古くから発達してきた学問であり、その手法が現在ヒトの遺伝病の解析に効率的に応用されている。本講義はメンデル遺伝形式に従ういわゆる「遺伝性疾患」から、がんや糖尿病のような「ありふれた病気」などの非メンデル遺伝病まで、遺伝学についての基礎的事項を幅広く学ぶ。さらに、遺伝学がどのように臨床に応用されているか、遺伝学の発展に伴う倫理的問題、これからのゲノム医学に必要とされるバイオインフォマティクスについても講義する。

<科目のねらい>

遺伝学の基礎および臨床・予防医学分野における応用を各領域の専門家から学ぶことにより、医学領域における遺伝学の重要性を理解する。また本科目は、病気との接点を多く含むことから、基礎医学が将来の臨床医学に密接につながっていることを理解する。

<学習の達成目標>

1. 遺伝子の基本構造と遺伝子がどのように機能として発現されるかを概説できる。
2. ヒトゲノムの構造について概説できる。
3. 変異や多型と疾患や表現型の関係について概説できる。
4. 遺伝性疾患と遺伝形式について概説できる。
5. 家系図の重要性を理解し、典型的な家系図から遺伝形式を推測できる。
6. 集団の遺伝学における遺伝子頻度の考え方を説明できる。
7. 多因子疾患における遺伝要因と環境要因について説明できる。
8. 先天性疾患の種類や頻度について概説できる。
9. 出生前診断の目的や種類、遺伝カウンセリングについて説明できる
10. 染色値の構造や構成について理解し、染色体異常について概説できる。
11. がんと遺伝子変異、家族性がんと遺伝性がんについて説明できる。
12. バイオインフォマティクスという分野の概要を説明できる。

<登録のための条件 (注意) >

生物学 (遺伝) に関する初歩的な知識を必要とする。

<授業実施形態について>

対面講義形式で行う。

<授業計画>

1. ヒト遺伝学の基礎知識：遺伝子と疾患の関わり (池内)
2. ヒトゲノムの構造と遺伝子発現制御： (宮下)
3. メンデル遺伝学と単一遺伝子疾患 (池内)
4. 非メンデル遺伝と疾患：細胞質遺伝とエピジェネティクス (宮下)
5. 症例から学ぶ臨床遺伝学 (池内)
6. 染色体異常：染色体の構成と変異、異常 (小林)
7. 発がんの分子機構：がん増殖・進展の分子機構：制御遺伝子の異常と遺伝子産物の異常 (金関)
8. 産婦人科領域のゲノム医学：出生前診断、遺伝カウンセリング (松下)
9. 外科領域のゲノム医学：薬理遺伝学 (島田)
10. バイオインフォマティクス：ゲノム変異と疾患の関連解析のための情報科学的手法 (奥田)
11. 集団遺伝学と生活習慣病 (中村)
12. 遺伝-環境の相互作用と予防医学 (中村)

〈準備学習の内容〉

これまでに学んだ生物学、とくに遺伝にかかわる分野の復習をしておく。
授業計画 1-5 において遺伝学の基礎事項を学ぶ。授業計画 6-12 は応用的な内容であるため、基礎事項を復習しておく。

〈成績評価の方法と基準〉

1. 筆記試験の点数によって最終評価を行う。(筆記試験 100%)
2. 欠席が3分の1以上の場合は筆記試験の受験資格を失う。
3. 不合格者には再試験を1回に限って行う。

〈キーワード〉

遺伝学 遺伝子 ゲノム 遺伝性疾患

〈参考テキスト〉

- ・福嶋義光(監修), 日本人類遺伝学会第 55 回大会事務局 (編集)「遺伝医学やさしい系統講義 18 講」メディカルサイエンスインターナショナル 4950 円; 遺伝医学の基本的な内容が平易に系統的に示されている。
- ・福嶋義光 (監修), 櫻井晃洋 (編集), 古庄知己 (編集)「新 遺伝医学やさしい系統講義 19 講」メディカルサイエンスインターナショナル 5060 円; 旧版(18 講)から大きく改訂してあり、最新の内容が記載されている。基本的な内容を系統立てて知るには、旧版(18 講)を一読しておくことを勧める。
- ・Thompson & Thompson Genetics in Medicine (8th ed.). Elsevier 12,152 円; 福嶋義光(監訳)「トンプソン&トンプソン遺伝医学・ゲノム医学 第3版」(8th ed) メディカルサイエンスインターナショナル 12100 円; 代表的な教科書
- ・徳永勝士 編「人類遺伝学ノート」南山堂 3660 円

〈担当教員(分野等 メールアドレス)〉

- 中村 和利(環境予防医学分野 kazun@med.niigata-u.ac.jp)
渡邊 裕美(環境予防医学分野 ywatana@med.niigata-u.ac.jp)

薬理学

担当教員 平島 正則
科目英文名 Basic Clinical Medicine I (Pharmacology)
聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要>

薬理学は生体内外の化学物質と生体の相互作用を、種々の研究方法により個体・臓器・組織・細胞・分子のレベルを貫いて総合的に研究し、さらに創薬・育薬などの薬物の疾病治療への応用を視野に入れ、薬物治療の基盤を確立する科学である。本科目では、薬物が生体に対する作用とその機序を扱う薬力学、ならびに生体内での薬物の吸収、分布、代謝、排泄を扱う薬物動態学を学ぶ。

<科目のねらい>

薬物を用いた治療および基礎研究に必須の知識として、薬物とその作用点である生体の構成成分との相互作用に基づく薬物の作用機序と、吸収・分布・代謝・排泄に代表される薬物の生体内動態を理解することを目的とする。これにより、薬物治療を科学的に考察するための基礎的な思考力を養う。

<学修の達成目標>

1. 薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性及び作動薬・拮抗薬を説明できる。
2. 薬物の用量反応曲線と有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。
3. 薬物の吸収、分布、代謝、排泄に影響する因子を説明できる。
4. 薬物の有害作用、薬物相互作用を説明できる。
5. 薬物の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を説明できる。
6. 薬物の耐性、脱感作を説明できる。
7. 主な薬物の薬理作用と作用機序、生体内動態や相互作用を説明できる。

<授業実施形態>

講義

<成績評価の方法と基準>

筆記試験 100%

<使用テキスト>

NEW 薬理学(改訂第8版) 編集:田中千賀子/加藤隆一/成宮周 (南江堂)

<参考文献>

ラング・デール薬理学 原書8版 著: Rang HP, Ritter JM, Flower RJ, Henderson G, 監訳: 渡邊直樹 (丸善出版)

はじめの一步の薬理学 第2版 著: 石井邦雄/坂本謙司 (羊土社)

Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 14th Edition (McGraw-Hill Education)

Katzung's Basic & Clinical Pharmacology, 16th Edition (McGraw-Hill Education)

<備考>

【生成AIの利用について】

本科目では、生成AI (ChatGPT、Gemini 等) の利用を条件付きで許可します。利用する場合は、以下の点を遵守してください。

1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的 (質問のプロンプト等) で、どのAIを利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用 (許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など) が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

〈授業計画〉

1. 薬理学序論

薬理学の歴史と医学における位置づけ、薬の種類、薬理作用に関連する用語について概説する。

2. 薬の生体内動態・臨床薬理学

薬物の吸収・分布・代謝・排泄、薬物の細胞膜透過に影響を与える因子、薬物相互作用、治療薬物モニタリング、薬物の生体内動態や感受性に影響を与える遺伝子多型や個体差要因について概説する。

3. 薬の作用様式と作用機序

薬物と受容体の相互作用、結合親和性、用量反応曲線と治療係数、作動薬と拮抗薬およびその作用様式、耐性、脱感作について概説する。

4. 生体内情報伝達機構

G蛋白質共役型受容体を中心に受容体の種類、細胞内シグナル伝達と効果器官での作用について概説する。

5. チャネルとトランスポーター

細胞内外の物質輸送に関わるイオンチャネルとトランスポーターの種類と制御機構について、薬物標的となっているものを中心に概説する。

6. 生理活性物質

神経性アミノ酸、生理活性アミン、生理活性ヌクレオチド・ヌクレオシド、生理活性ペプチド、血管内皮弛緩因子、エイコサノイド・リン脂質メディエーター、サイトカイン・ケモカイン、ビタミンの種類、受容体を介した細胞内シグナル伝達と効果器官での作用について、薬物標的となっているものを中心に概説する。

〈授業時間外の学修〉

授業範囲のテキストと事前配布資料に目を通しておき、講義後に復習しておくこと。

〈担当教員（分野等 メールアドレス）〉

平島 正則（薬理学 masanori@med.niigata-u.ac.jp）

社会医学 I

講義番号 M1205 単位数 2 開講期 第2期 定員 140

コース 疫学, 医学情報学 (基礎)

科目の概要：

疫学ユニットでは、予防・臨床医学の主要な方法論である疫学の基礎を学ぶ。医学情報学ユニットでは、医学・医療の現場で必要とされるコンピュータシステムの操作方法、及び統計解析の基礎知識と実践的な手法を学ぶ。詳細は各ユニットのシラバスを参照。

科目のねらい：

エビデンスに基づく疾病の予防・治療の実践のためには、効率的な医学情報収集の方法とそれらの情報の科学的な評価方法の習得は欠かせない。また、医師にとって情報処理技術の素養を習得することは必須であり、科学的素養としての統計学の知識も不可欠である。本科目を通じて、自律的に疫学・統計学の基礎を学び、情報技術を活用できる力を養う。

学習の到達目標：

各ユニットのシラバスを参照。

授業実施形態について：

講義及び演習

成績評価の方法と基準：

各ユニットのシラバスを参照。

ユニットごとに評価を行い、全てのユニットで合格することで本科目を修得する。

疫学

担当教員 中村 和利, 渡邊 裕美, 蒲澤 佳子
科目英文名 Preventive Medicine and Epidemiology
聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要> 予防医学およびその主要な方法論である疫学を学習する。

<科目のねらい> 予防医学およびその主要な方法論である疫学を学習することで疾病予防の重要性を理解し, 諸要因と疾病との因果関係を吟味することで疾病予防に応用する。

<学習の達成目標>

一般目標

社会と健康・疾病との関係を理解し, 幅広い見地から患者を把握することができる。保健統計の意義と現状, 及び疾病予防と健康増進に関する疫学の理論を理解し, 保健行動等の有効性などに関する根拠を吟味する方法を習得する。

行動目標

1. 社会構造 (家族, コミュニティ, 地域社会) と健康・疾病との関係を概説できる。
2. 予防医学 (一, 二, 三次予防) を概説できる。
3. 疾病の定義と分類と国際疾病分類 ICD を説明できる。
4. 人口静態統計と人口動態統計を説明できる。
5. 疾病・有病・障害統計, 年齢調整率と標準化死亡比 SMR を説明できる。
6. 疫学の概念と疫学の諸指標について説明できる。
7. 疫学研究のデザインの種類とその利点・欠点を説明できる。
8. 疫学研究におけるバイアス, 交絡因子について説明できる。
9. 生命関数 (表) (平均余命と平均寿命) を説明できる。

<登録のための条件> 医学および統計学に関する初歩的な知識を必要とする。

<授業実施形態について>

原則として対面講義を行い (授業計画 1-13, 18), 後半に演習を行う (14-17) を行う。SAS 統計演習ではレポート課題を提示するので, 指定した形式で期限内に提出すること。

<授業計画>

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 疫学総論 | 11. 骨粗鬆症の疫学 |
| 2. 疫学指標, 標準化, 人年法 | 12. がんの疫学 |
| 3. 疾病分類, 記述研究 | 13. その他疾患の疫学 |
| 4. 地域相関, 横断研究 | 14. SAS 統計演習 (1) |
| 5. コホート研究, 症例-対照研究 | 15. SAS 統計演習 (2) |
| 6. 因果関係の判定, バイアス, 交絡要因 | 16. 疫学演習 (1) |
| 7. 疫学研究の実際 (1) | 17. 疫学演習 (2) |
| 8. 疫学研究の実際 (2) | 18. まとめ |
| 9. スクリーニング | 19. 試験 |
| 10. 人口統計 | |

<準備学習の内容>

授業計画 1-10 は, 疫学の基本を学ぶ基礎的系統講義である。2-10 の各授業では, 前回の内容を十分理解しておく必要がある。また, 授業計画 11-13 は応用的な講義であり, 授業計画 14-17 は演習であるため, 1-8 の内容をよく復習しておくこと。14. 15 の SAS 統計演習は, Web ベースの SAS ondemand academics を使用するため前もって SAS に登録をしておくこと。

<成績評価の方法と基準>

1. 筆記試験と SAS 統計演習レポートの点数によって最終評価を行う。(筆記試験 90%、SAS

統計演習レポート 10%の予定)

2. SAS 統計演習には必ず出席し演習レポートを提出すること。無断欠席, レポート未提出の場合は筆記試験の受験資格を失う。

3. 欠席が3分の1以上の場合は筆記試験の受験資格を失う。

<キーワード>

疫学 疾病予防 保健統計

<参考文献>

- 「シンプル衛生公衆衛生学 2026」南江堂 例年3月頃発行される。2026年度版は3,300円
- 日本疫学会 (監修)「はじめて学ぶやさしい疫学 (第4版)」南江堂 2,750円
- 厚生統計協会編「国民衛生の動向」例年8月に発行される。2025/2026版は3,740円

<関連リンク>

新潟大学医学部環境予防医学分野 (<http://www.med.niigata-u.ac.jp/hyg/index.html>)

<担当教員 (分野等 メールアドレス) >

中村 和利 (環境予防医学分野 kazun@med.niigata-u.ac.jp)

渡邊 裕美 (環境予防医学分野 ywatana@med.niigata-u.ac.jp)

医学情報学（基礎）

担当教員 石澤 正博（医歯学総合病院）
科目英文名 Introduction to Medical Informatics
聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

医学・医療の現場で必要とされるコンピュータシステムの操作方法、及び統計解析の基礎知識と実践的な手法を習得する。

<科目のねらい>

医療分野でのデジタル技術の活用が進んでいる中、医師にとって情報処理技術の素養を習得することは欠かせない。また Evidence-Based Medicine の実践や医学研究のステップの上では、効率的な情報収集の方法と、科学的素養としての統計学の知識も不可欠である。本科目を通じて、卒前の学修及びプロフェッショナルとしての活動において、自律的に情報技術及び統計学を活用できる力を養う。

<学習の達成目標>

（統計学分野）

1. 解析に資するデータの種類と統計解析手法を説明できる。
2. データ解析を実施し、図表等で適切に報告できる。

（情報学分野）

3. 医学・医療の実践における情報技術の応用について概説できる。
4. 情報セキュリティ及び個人情報保護を実践できる。

<登録のための条件（注意）>

医学部医学科で単位未習得の者は必修。

初回からオフィス系ソフト（Word・Excel・PowerPoint、またはそれらと互換性があるソフト）及び電子メールを利用した課題を課すため、操作が不安な者は予め担当教員に連絡すること。

<授業実施形態について>

対面講義と実習を組み合わせる。

- 講義はスライドを用いた説明により行う。PDF 資料を配布する。
 - 実習は、医歯学図書館のマルチメディアホールのパソコンを使って行う。
- なお、3 時間を 1 コマとし、各コマについて 3 時間以上の自己学習を要する想定である。

<授業計画>

1. 2026/ 9/14(月) 情報講義：序論（医療・情報・社会）、情報セキュリティと個人情報保護
2. 2026/ 9/15(火) 統計講義：統計学の基礎、回帰分析、統計学的推定と検定
3. 2026/10/ 5(月) 情報実習：実習の導入、データ形式と扱い方、EBM、生成 AI
4. 2026/10/19(月) 統計実習：記述統計、分布、回帰分析、検定と検定
5. 2026/10/26(月) 総合実習：実践的な解析、結果の整理・報告
6. 2026/10/27(火) 総合実習：最終課題

<準備学習の内容>

（統計学分野）

過去 3 年分の大学入学共通テスト「数学 I，数学 A」の統計学の問題を復習しておくこと（大学入試センター Web サイトで公表されている）。実習では Excel を使用する。

（情報学分野）

高等学校の情報科、教養教育の情報リテラシーの知識を復習しておくこと。プログラム・アルゴリズムの知識は必須ではない。

<成績評価の方法と基準>

1～5 日目の講義・実習後の小課題（各回 10 点）、最終課題（50 点）により評価する。最終評点 60 点/100 点以上で合格とする。

- 講義・実習中の態度、対面やメール等での質問やコメントの質を、課題の評価に加味する場
合がある（減点もありうる）。
- 不合格者には、1 回に限り最終課題の修正・再提出を許可する。その場合の最終評点は 65 点
を超えない。
- 正当な理由無しに合計 6 時間超の欠席がある場合、小課題 5 回分を評価しない。すなわち、
たとえ最終課題が満点でも、最終評点が 50 点を超えないことに留意する。
- 課題提出までの過程に問題がある場合は、その回の課題を評価しない（具体的には講義内で
伝える）。

<使用テキスト>

指定しない。

<参考文献>

指定しない。

<関連リンク>

特に無し

<キーワード>

医療情報、医療 DX（デジタルトランスフォーメーション）、医療統計

<備考>

3 年生次の統合臨床医学（医療情報学）および 4 年生次の医学情報学（応用）は本科目内容の習
熟を前提とする。

本科目の課題では、生成 AI の利用を全面的に許可する。その条件は講義中に示す。

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

石澤 正博（医療情報部 ishizawam@med.niigata-u.ac.jp）

講義番号	M1206	科目名	研究室配属見学
単 位	1	開講期	第2期 定員 140
担当教員	松本 雅記		
科目英文名	Pre-laboratory Visit		
聴講指定等	医学部（医学科）		

<科目の概要>

2年次の学生を対象に、翌年の医学研究実習（研究室配属）に向けた事前見学の機会を提供する。本科目を履修することで、各研究室の活動内容や研究テーマを理解するとともに、すでに配属されている3年次生と交流し実際の研究室活動に関する情報を得ることで、3年次の研究室選択をより適切に行えるようになる。

<科目のねらい>

本科目では、学生が研究室の雰囲気や研究内容を事前に把握することで、研究への興味を深め、研究室活動のイメージを掴める機会を提供する。また、研究活動の具体的な進め方や手法について学ぶことで、3年次の実習に向けた準備を行う。さらに、研究者や大学院生との交流を通じて、研究の魅力やキャリアについての理解を深めることを目的とする。

<学習の達成目標>

1. 各研究室の研究テーマやその背景について理解し、自身の興味と結びつけることができる。
2. 研究テーマに関連する実験手法やデータ解析の概要を学び、どのように研究が進められるかの大枠を把握する。
3. 研究者や大学院生、および、既に配属されている3年次生との対話を通じて、研究内容について考え、質問や意見を述べることができる。

<授業実施形態について>

各研究室での実習見学内容については別紙概要を参照。配属される研究室のルールを順守し、協調性に富んだ行動をすること。

<成績評価の方法と基準>

見学を行った研究室について3つを選択し、感想や興味を持ったことに関して、レポートを作成し提出する。レポート内容および見学研究室数に基づき成績評価・合否判定を行う。

<授業計画>

1. 10月13日の午前中、講義形式で医学研究実習に関する説明を受ける。その後、10月16日午前中までの間、3つ以上の研究室を訪問する。各研究室が提示する方針に従った形式で見学を行う。研究室での行動は教員の指導に従うこと。また、教員より見学出席の証明をもらうこと。10月16日の午後に講義室にてそれぞれが訪ねた研究室に関する情報交換を行う。
2. 配属先研究室決定：研究室見学を踏まえ、令和9年2月5日（金）4コマ目「倫理観と人間性」に配属先決定の時間を設ける。定員オーバーや不足に関しては、適宜希望者間の協議（くじ引き等も可）の上、決定する。いかなる理由によっても当日欠席した者については、配属教室は事務的に割り付けることとするので留意すること。

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

松本 雅記（システム生化学 masakim@med.niigata-u.ac.jp）

講義番号 M1207 科目名 早期地域医療体験実習（EME）Ⅱ
単 位 1 開講期 第1・2期 定員 140
担当教員 岡崎 史子
科目英文名
聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

早期地域医療体験実習では医療の現場のみならず、介護、福祉、障害に関わる様々な現場で医師になるのに必要な体験を積みます。1年生では医療現場で実習しましたが、2年生では、介護、福祉、障害に関わる現場で実習をします。現場には患者さん、利用者さんがいて、それを支える多職種が連携しています。医学生としてその場に入って、何かしらの貢献をしなければなりません。そのためにはよく場を観察し、できることを探し、コミュニケーションをとって実践することが必要です。専門職の職場で学ぶという医療者としての態度の醸成も目的としています。

<科目のねらい>

1. 様々な医療ニーズに触れる
2. 治らない障害、病気を抱えて生活者として地域で生きるとはどういうことか知る
3. 介護・福祉をどういう職種の方々が支えているのか知る（多職種連携）
4. 連携に必要なコミュニケーションについて考える
5. 医師がどう関わるべきか考える

<授業実施形態>

基礎知識の講義、実習、振り返りのグループワーク、発表、レポート作成
実習は新潟市、燕市、柏崎市、弥彦村、関川村など県内の他、山形県酒田市、群馬県高崎市で実施する。遠方の場合には宿泊を伴い、交通費を一部援助する。
実習施設は就労支援B型施設、障がい者支援施設、デイサービスセンター、特別支援学校、重症心身療育児施設、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設などで、本学の実習の意図をご理解頂き、賛同していただけたご施設である。

<学習の達成目標>

1. 地域にどのような障害、病気を抱えて生活している人がいるのか体感する
2. そのような方々をどんな職種の方々が支えているのか知る（多職種連携）
3. 患者さん、多職種の方と連携に必要なコミュニケーションを実践する
4. 患者さん、ご家族、スタッフの方々の思いを知ろうと努力できる
5. 医師がこの現場にどう関わるべきか言語化できる
6. 現場で、貢献しながら学ぶという医療者としての態度を身につける
7. 自分の学びについて言語化して、他者と共有することができる
8. 生命の尊さをあらためて噛みしめ、今後自分がどのように成長しなければならないかを省察できる。

この実習は、本学のアウトカムのうち、コミュニケーション、倫理観と人間性、保健・医療・福祉への貢献、地域医療、リサーチマインド、自己研鑽・生涯学習と関連している。

<授業計画>

・事前に配属先は科目責任者が決定するが、特別な興味、関心があって、特定の学びを希望する場合には4月30日までに科目責任者までメールで理由を添えて連絡すること。しかし、その通りになることは保証しない。

・7-8月頃：配属先通知。実習先からの注意事項も配布します。一部の学生には実習先のパンフレットなどが用意されている。その受け取りについては配属先通知に記載されているので、指示に従うこと。

・9月7日9:00までに、配属先についてパンフレット、HPなどで調べて、1. 施設の理念、概要、活動についてまとめる。また、2. 自己紹介、実習を受けるにあたっての決意などを記載してもらいます。この1. 2についてはそのまま実習先に送付しますので、そのつもりで記載すること。提出先は学務情報システムとし、このレポートが提出されない場合は実習を許可しない。

・9月28日 9時から16時 大学にてオリエンテーション 無断の遅刻、欠席は認めない。やむを得ず遅刻、欠席する場合には必ず連絡を入れること。オリエンテーションには学外の専門家を招いて、障害、介護、福祉の現場での実習の注意点などをご講義いただきます。きちんとした態度で参加すること。オリエンテーションに欠席した場合には、実習は許可しない。

・10月20日から22日 各施設にて実習。毎日実習記録を記載し、実習先に提出する。実習記録用紙は9月28日に配布する。提出した3日分の実習記録に実習先のサインをもらって、持ち帰り、大学に提出する。

やむを得ず遅刻、欠席となる場合には、実習先と科目責任者に必ず連絡を入れること。無断は絶対に許さない。

・10月23日 9時から16時 大学にて振り返り（グループワーク＋全体発表、レポート作成、アンケートの回答） 無断の遅刻、欠席は認めない

<授業時間外学修>

配属先について調べて学ぶことは必須であるが、その他障害、介護、福祉に関する書籍やブログなどでの学習を推奨する。

<実習上の注意点>

・この実習が、専門職の職場で行われていることをよく考えてください。スタッフは職場の業務を行いながら、皆さんのために実習指導をしていただきます。患者さんやスタッフの好意で実現している実習だということを決して忘れないこと。

・挨拶、自己紹介をしっかり行い、新潟大学の医学生代表として、実習現場で見られていることをよく自覚してください。皆さんの行動、態度が、そのまま新潟大学の医学部の社会からの評価になります。

・見学の場面では、1年生の時御指導したように、「よく見て」ください。ノートになんでも書き留めてください。

・積極的に、「何かできることはありませんか」と声をかけてください。医学部の実習はすべて、患者さんへの貢献でなければなりません。

・わからないことは積極的に質問してください。皆さんが何がわからないか、わからないとスタッフも困ってしまいます。スタッフが皆さんに伝えたいことはたくさんあるのです。

・昼食については、配属先通知に記載されている場合があります。施設でお金を払って注文する場合があります。多くの施設では地理的に、昼食を食べに行く、買いに行くことができません。指定がない場合は昼食は持参してください。可能なら、スタッフの方と一緒に食事してください。交流が深まり、学びも深まると思います。

・実習時間は、スタッフと同じ時間にしてください、とお願いしてあります。8時開始の場合もあるし、18時までということもあると思います。郷に入っては郷に従ってください。たった3日間です。多職種の方々がどういう働き方をしているのか、体感してください。

・車の使用は禁止です。公共交通機関で行ってください。やむを得ずタクシーを使わざるを得ない場合には、学生どうしまとまって行動し、領収書を学務係へ提出してください。

<服装と持ち物>

施設からの指定がある場合には、配属先通知の際に一緒にお知らせしますが、指定がない時には以下のようにしてください。

・特別支援学校に行く場合はスーツで行ってください。

・それ以外の施設の場合は、上はポロシャツ（無地で色は派手でないもの。Tシャツは禁止です）、下は長ズボン（Gパンは禁止です）としてください。

・ピアス、指輪は危険な場合があるので禁止します。高齢者では男性の長髪、茶髪を嫌う方もいます。髭もきちんと整えてください。髪の毛の長い女性は束ねること（感染防御の観点から）。万人から不快に思われない身なりで実習してください。

・名札を必ず着用してください。

・その他、筆記用具などはもちろん必須です。

<成績評価の方法と基準>

以下をすべて満たした学生に単位を認定します。

1. 9月7日9時までに事前レポートを提出すること

2. 9月28日の実習ガイダンスに遅刻せず出席していること
3. 実習期間中、無遅刻、無欠席であること。但し病欠はもちろん認めます。患者さん、利用者さんを危険にさらしてはいけません。医療機関を受診した場合には領収書など受診がわかるものを提出する。
4. 実習上の注意点を守ること。実習先の日常業務を妨げないこと。明らかに業務の妨げになる行為があった場合は実習を中止するよう、依頼しています。学生に指導事項がある場合には科目責任者の判断により学生を大学に呼び戻し、事情を聞き、実習遂行が可能かどうか判断します。実習遂行が困難と判断した場合には単位は認定しない。
5. 毎日、実習記録を実習先に提出すること
6. 事後レポート、事後アンケート、実習ノートの期限を守り、提出すること
7. 実習に積極的に参加し、十分な振り返りをする
8. 科目責任者からのメール等での呼び出し等に、応答、回答すること
9. 10月23日の振り返りの会に遅刻せず出席していること

<提出物一覧>

9月7日9時 事前レポート

10月20日から22日 毎日実習先に、実習記録を提出し、サインをもらう

10月23日 サインをもらった実習記録を大学に提出する(3日分)

11月6日 実習後レポート、実習後アンケート、実習ノート

<補実習について>

やむを得ない事情で実習が実施できなかった場合に限り、補実習を実施する。やむを得ない事情かどうかは科目責任者が判断する。補実習は12月または2月の実施となる。

<主要な知識内容のキーワード>

障害、介護、福祉、多職種連携、コミュニケーション、社会保障、生涯学習、総合的に患者・生活者を見る姿勢

<担当教員(内線、メールアドレス)>

医学教育センター 岡崎史子(内線 0425) fokazaki@med.niigata-u.ac.jp

講義番号 M1208 科目名 倫理観と人間性 I
 単 位 0.5 開講期 第 1・2 期 定員 140
 担当教員 岡崎 史子、Razvina Olga、青木 亜美、学内外の講師の先生
 科目英文名 Ethics and humanity I
 聴講指定等 医学部（医学科）

＜科目の概要＞

基礎医学、社会医学の授業などで修得が十分でない「倫理観と人間性」に焦点を当てて、医療者として必要な資質・能力を考え、学び、身につける。

＜科目のねらい＞

医学教育モデル・コア・カリキュラムでは6年間で身につけるべき資質・能力として「プロフェッショナリズム」「総合的に患者・生活者をみる姿勢」「生涯にわたって共に学ぶ姿勢」「コミュニケーション能力」「多職種連携能力」などが挙げられている。本学の卒業時アウトカムとしても「コミュニケーション」「倫理観と人間性」「自己研鑽・生涯学習」を挙げており、これらは通常の科目の授業のみでは修得が十分ではない。そのため、本科目において、これらの資質・能力を獲得し、また本学のアウトカムを目指して努力できる素地を形成することが、この科目のねらいである。

＜授業実施形態＞

対面で実施する。講義、演習、実習、グループワーク、ロールプレイ、発表など様々なアクティブラーニングの形態を活用しながら授業を実施する。

＜学習の達成目標＞

1. 今後の学習計画を立てることができる
2. 今後のキャリアパスについて検討することができる
3. ご献体いただいた思いに敬意を払い、感謝の気持ちをもつ
4. 患者さんの話を聞き、思いに共感する努力ができる
5. ACP、SDHについて説明できる
6. 医療人類学の視点から臨床の現場について、検討することができる
7. 「やさしい日本語」を使って、在日外国人とのコミュニケーションを実践する
8. 人の行動の成り立ちを考え、人の行動を変容させる方法を検討できる

＜授業計画＞

月日	時限	講義形式 /場所	講義内容	担当
4月1日(水)	1, 2	対面 第一講義室	学年ガイダンス キャリアパス説明会	川島寛之、岡崎史子
5月8日(金)	1～3	対面	解剖体慰霊祭	佐藤昇
6月26日(金)	4～6	対面 大講義室	医療人類学の視点で現場を考える	宮地純一郎(名古屋大学)、荒隆紀
7月17日(金)	4～6	対面 大講義室	「やさしい日本語」を実践する	武田裕子(順天堂大学)
11月18日(水)	1～3	対面 医療人育成センター 4階ホール	患者さんの話を聞いて、考える	患者スピーカーバンク
1月15日(金)	1～3	対面 医療人育成センター 2階セミナー室1・2	人の行動の成り立ちを考える	橘輝(末広橋病院)、福井直樹(松浜病院)
1月18日(月)	1～3	対面 第一講義室	・人生会議(ACP)とは ・健康の社会的決定要因とは(SDH)	岡崎史子

2月5日(金)	4	対面 第一講義室	EME3のオリエンテーシ ョン	岡崎史子
---------	---	-------------	--------------------	------

<授業時間外学修>

授業後に関連教材やインターネット上での積極的な学習を求める

<使用テキスト>

授業で必ずしも使用しないが、学習を補完する書籍として以下が挙げられる。

丸善出版 「日本人の日本語」を考える
 南山堂 医療現場の外国人対応「やさしい日本語」
 日本看護協会出版会 格差時代の医療と社会的処方

<成績評価の方法と基準>

この科目は演習科目であり、実習に準じて100%の出席を原則とする

- ・無断の遅刻、欠席は許さない。必ず岡崎に理由と共に連絡を入れること。
- ・10分以上の遅刻は欠席とみなす
- ・解剖慰霊祭の欠席は絶対に認めない。特段の事情がある場合には佐藤昇教授<nsato@med.niigata-u.ac.jp>にあらかじめ連絡をとること。事情によって、補講（篤志家団体の会合への参加、慰霊碑清掃・盂蘭盆への参列など）が実施される場合がある。
- ・事後にリアクションペーパーを提出する。リアクションペーパーは1週間後の午前9時までに提出する。遅れた場合は受け取らない。
- ・リアクションペーパーは10点満点で採点され、平均で6割を超えない場合は単位を認定しない。

<主要な知識内容のキーワード>

健康の社会的決定要因、人生会議、医療人類学、やさしい日本語、行動科学、プロフェッショナルリズム、倫理観

<担当教員（所属等、メールアドレス）>

岡崎 史子 医学教育センター fokazaki@med.niigata-u.ac.jp

講義番号 M1209 科目名 基礎臨床統合
 単 位 0.5 開講期 第1・2期 定員 140
 担当教員 岡崎 史子、Razvina Olga、青木 亜美、学内外の先生方
 科目英文名 Integrated Basic and Clinical Medicine
 聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

2年生で学ぶ基礎医学は、その後学ぶ臨床医学の基礎となる重要な学問です。しかし、基礎医学のみ学んでいると、それが臨床医学にどのようにつながっていくのかを理解することが難しいかもしれません。この科目では、今、学んでいる基礎医学が臨床医学にどのようにつながるのかを学びます。

<科目のねらい>

今、学んでいる基礎医学が、臨床医学とどうつながっているのか、いくつかのトピックを通して考える。

<授業実施形態>

対面授業、実習

<学習の達成目標>

- ・ 基礎医学が臨床医学の基礎となっていることを学び、基礎医学を学ぶ重要性について再認識できる。
- ・ 臨床医学とのつながりに興味関心を寄せることができる。

<授業計画>

日時	時限	講義形式	講義内容	担当
6月17日（水）	3	対面	身体運動機能に関わる外科解剖学	川島寛之（整形外科）
7月1日（水）	3	対面	心臓はここまで治せる：カテーテルが塗り替える循環器治療の最前線	徳田道史（東京慈恵会医科大学）、岡崎史子
7月16日（木）	4～6	対面・実習	解剖学と救急救命（BLS実習）	岡崎史子、ラズビナ・オリガ、青木 亜美、災害医療教育センタースタッフ
9月17日（木）	3	対面	体の内部環境を守る：血液透析の礎と未来	風間順一郎（福島県立医大）、長谷川功
10月8日（木）	3	対面	ミトコンドリアと病気～ミトコンドリア病診療の最前線～	小貫孝則（小児科）
11月5日（木）	3	対面	iPS細胞を用いたパーキンソン病治療	高橋良輔（京都大学）
11月10日（火）	6	対面	てんかんを手術で治す	大石誠（脳神経外科）、國井尚人（自治医大）
11月24日（火）	3	対面	安らかな眠り：生理と臨床のクロストーク	大嶋康義（呼吸器内科）、長谷川功（生理学）
11月24日（火）	6	対面	画像からみた頭頸部、胸腹部	堀井陽祐（放射線科）
1月15日（金）	6	対面	生化学からみた糖尿病	松本雅記（生化学）、松本道宏（国立国際医療センター）

〈授業時間外学修〉

授業後の復習を授業時間と同時間程度求める

〈使用テキスト〉

適宜ご紹介いたします

〈成績評価の方法と基準〉

出席については厳密に管理した上で、毎回の授業後レポートの内容を10点満点で評価し、その総計が60点以上の場合に単位を認定する。レポートの提出期限は授業1週間後の午前9時とし、遅れた場合には評価対象としない。

〈担当教員（所属等、メールアドレス）〉

岡崎史子 医学教育センター fokazaki@med.niigata-u.ac.jp

講義番号 M1210 科目名 医学英語 I
 単 位 0.5 開講期 第1・2期 定員 140
 担当教員 Razvina Olga (医学教育センター)、岡崎史子 (医学教育センター)、齋藤昭彦 (小児科学)
 科目英文名 Medical English I
 聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要>

医学の領域において英語は国際共通語である。本学の医学英語科目は、医師、研究者として、国際的に活躍する人材を育成するために設置されている。卒業時までには修得することをアウトカムは下記である。

1. 英語で教科書・論文を読み、理解できる
2. 学会等において英語で発表討論できる
3. 患者に英語で面接し、診察できる

本科目「医学英語 (I)」では、国際教養人にふさわしい英語運用能力の基礎力を修得すること、次学年の基礎となる医学英語の基礎力を修得することを目標とする。

本科目は医学英語教育の経験のある教員、北米医師免許を持つ教員、北米留学経験のある教員等が、それを活かして医学教育 (I) の授業を行う。

<科目のねらい>

3年次「医学研究実習」、4年次～6年次「臨床実習」を英語で運用するための基礎力を修得する。

<授業実施形態>

対面授業。グループワークを含む。毎回出席を原則とし、やむを得ず欠席する場合は事前に欠席事由を届け出ること。

(変更の可能性はある)

<学習の達成目標>

本科目「医学英語 (I)」では以下の英語運用能力を修得する。

1. Vocabulary: 基礎医学領域の基礎・応用 (解剖学、生理学、生化学、免疫学、疫学等)、臨床医学領域の基礎 [モデルコア・カリキュラムに掲載されている症状、徴候、検査、診療行為、診療器具、疾患] に関する専門用語を理解し、使うことができる。
2. Reading: 英語論文の文献検索を行うことができる。医学英語論文を読むことができる。
3. Writing: 英文抄録を自分で書くことができる。
4. Communication: 英語で良好な関係を築くことができる。「医療全般」「将来の夢」等をテーマとした課題に、英語で発表し、討論できる。

<授業計画>

※日程・題目・講師は変更する場合がある。

<医学英語 I > 対面授業				講師
4/23	木	6限	Communication 基礎	Razvina Olga、岡崎史子、齋藤昭彦
6/15	月	2.3限	Communication 基礎	Razvina Olga、岡崎史子、齋藤昭彦、Alistair Gillett、Paul Riley
6/22	月	1.2.3限	Communication 基礎、発表	Razvina Olga、岡崎史子、齋藤昭彦、Alistair Gillett、Paul Riley
11/5	木	1.2限	Vocabulary 基礎	Razvina Olga、岡崎史子、齋藤昭彦
11/10	火	4.5限	Writing 基礎	Razvina Olga、岡崎史子、齋藤昭彦、Kelly Tokita
1/15	金	4.5限	Reading 基礎	Razvina Olga、岡崎史子、齋藤昭彦、Paul Riley

<授業時間外学修><使用テキスト>

講義に参加して学んだ内容を重視し、指定教科書は特に設けない。

授業時間外の学習：授業の予習・復習を行う。授業中および授業外でグループ学習を行い、スライ

ドを完成させる。

〈成績評価の方法と基準〉

課題の成績 20 点×3 回、発表会でのパフォーマンス 20 点、ピア評価 20 点。2/3 の出席は前提である。その他、単語テストは 70 点以上をもって合格とする。

〈主要な知識内容のキーワード〉

★医学英語 国際教養 英語を使用した医療面接 英語論文 対面型授業

〈担当教員（内線、メールアドレス）〉

医学教育センター

Razvina Olga	2063	razvinao@med.niigata-u.ac.jp
岡崎 史子	0425	fokazaki@med.niigata-u.ac.jp

小児科学

齋藤昭彦	2222	asaitoh@med.niigata-u.ac.jp
------	------	-----------------------------

令和8年度

医学部医学科講義概要

(3年次生)

新潟大学医学部医学科

2
年
次
生

3
年
次
生

4
年
次
生

講義番号 M1301 科目名 薬物による生体調節
単 位 2 開講期 第1期 定員 140
担当教員 平島 正則、吉松 康裕、椎谷 友博、福田 七穂
科目英文名 Pharmacological regulation of biological functions
聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

薬理学は生体内外の化学物質と生体の相互作用を、種々の研究方法により個体・臓器・組織・細胞・分子のレベルを貫いて総合的に研究し、さらに創薬・育薬などの薬物の疾病治療への応用を視野に入れ、薬物治療の基盤を確立する科学である。本科目では、薬物が生体に対する作用とその機序を扱う薬力学と、ならびに生体内での薬物の吸収、分布、代謝、排泄を扱う薬物動態学を学ぶ。

<科目のねらい>

薬物の作用機序および生体内動態に関する基本概念をふまえて、各種薬物について、作用点である生体の構成成分との相互作用、生体調節、治療効果、副作用および臨床的意義を体系的に理解することを目的とする。これにより、実臨床における合理的な薬剤選択と安全な薬物治療に必要な知識の基盤を形成する。

<学修の達成目標>

1. 薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性及び作動薬・拮抗薬を説明できる。
2. 薬物の用量反応曲線と有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。
3. 薬物の吸収、分布、代謝、排泄に影響する因子を説明できる。
4. 薬物の蓄積、耐性、脱感作、依存を説明できる。
5. 主な薬物の薬理作用と作用機序、生体内動態や相互作用、適応を説明できる。
6. 動物実験の実施に関する基本事項を説明できる。

<授業実施形態>

講義、実習。

実習（全6回）は半数に分かれて、実習（3回、対面型、小グループ）と事前・事後学修（3回、自習）を交互に行う。

<成績評価の方法と基準>

筆記試験80%、課題（実習、特別講義）20%で評価する。

<使用テキスト>

NEW 薬理学(改訂第8版) 編集:田中千賀子/加藤隆一/成宮周 (南江堂)

<参考文献>

ラング・デール薬理学 原書8版 著:Rang HP, Ritter JM, Flower RJ, Henderson G, 監訳:渡邊直樹 (丸善出版)

はじめの一步の薬理学 第2版 著:石井邦雄/坂本謙司 (羊土社)

Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 14th Edition (McGraw-Hill Education)

Katzung's Basic & Clinical Pharmacology, 16th Edition (McGraw-Hill Education)

「環境省 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準の解説」
(/www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h2911.html)

<備考>

【生成 AI の利用について】

本科目では、生成 AI (ChatGPT、Gemini 等) の利用を条件付きで許可します。利用する場合は、以下の点を遵守してください。

1. レポート等で利用した場合は、どの部分で、どのような目的 (質問のプロンプト等) で、どの AI を利用したかを必ず明記すること。
2. 生成された内容をそのまま使用せず、情報の正確性や適切性を必ず自身で検証・修正すること。
3. 最終的な成果物の責任は、学生自身が負うこと。
4. 不適切な利用 (許可されていない範囲での利用や他者の著作権侵害など) が確認された場合は、学則に基づき厳格に対処します。

<授業計画>

1. 薬理学総論

薬の作用様式と作用機序、薬の生体内動態および臨床薬理学の基礎知識、受容体と生体内情報伝達機構、チャネルとトランスポーター、生理活性物質について種類、作用、薬物との関連を中心に概説する。

2. 実験動物学

実験動物を用いた薬理学研究について概説する。実験動物を用いて研究を行う際に必要な概念や管理体制、および麻酔法や安楽死の方法などについて、最近の国内外の状況を踏まえて概説する。

3. 薬理学実習

腸管平滑筋実習では、自律神経作用薬に対する腸管収縮反応を定性的に観察して、腸管収縮の自律神経支配について理解する。アセチルコリン濃度と腸管収縮反応の相関の定量的観察に基づいて容量反応曲線を作成して、薬物濃度と受容体反応について理解する。競合的拮抗薬または非競合的拮抗薬の存在が容量反応曲線に及ぼす影響を観察して、受容体反応の競合的拮抗作用と非競合的拮抗作用について理解する。循環器実習では、血管の透過性を亢進させる物質の薬理作用を観察して、さらにはその受容体シグナルの下流を抑制する薬物が血管の透過性亢進を抑制することを観察・評価して、それらの役割を理解する。薬理学実習ガイダンス前に、学務情報システムの授業連絡通知およびレポート・授業アンケートで、薬理学実習実施要領と課題レポート用紙をそれぞれ配布する。

4. 自律神経薬理

自律神経を構成する交感神経と副交感神経について、それぞれの解剖学的な特徴と生理機能について概説する。自律神経で使用されている伝達物質 (ノルアドレナリン、アセチルコリン等) とこれらの伝達物質に対する受容体サブタイプの分布をふまえて、アドレナリン作用薬、コリン作用薬について概説する。種々の疾患に対する治療薬の作用機序、特徴、副作用について概説する。

5. 麻酔薬

全身麻酔薬、局所麻酔薬、鎮痛薬について概説する。

6. 循環器薬理

循環器系の構成と生理機能について概説する。循環器系の疾患、特に狭心症、心不全、不整脈、高血圧の病態形成機構を中心に概説し、これらの疾患に対する治療薬の作用機序、特徴、副作用について概説する。

7. 利尿薬

腎臓の構成と尿生成に関する生理機能について概説する。利尿薬の臨床応用について概説し、作用機序、特徴、副作用について概説する。

8. 免疫・アレルギー・炎症薬理

免疫抑制薬、免疫刺激薬、抗アレルギー薬の作用機序、特徴、副作用について概説する。炎症の病態と非ステロイド抗炎症薬の作用機序、特徴、副作用、臨床応用について概説する。

9. 生物学的製剤と核酸医薬品

生物が産生する蛋白質などを医薬品として利用する生物学的製剤とオリゴ核酸からなる医薬品の作用機序、特徴、副作用について概説する。

10. 中枢神経薬理

中枢神経の構造と生理機能について概説する。中枢神経における神経伝達物質（グルタミン酸、GABA、モノアミン等）をふまえて統合失調症、うつ病、双極性障害、パーキンソン病、認知症、不安障害、睡眠障害、てんかんについて概説し、それぞれの疾患に対する治療薬の作用機序、特徴、副作用について概説する。

11. 薬物の耐性と依存性、アンチ・ドーピング

薬物の連用による中毒や依存、アンチ・ドーピングについて概説する。

12. ホルモン・内分泌系治療薬

視床下部－下垂体系の構造と機能および末梢臓器でのホルモン分泌調節機構について概説する。内分泌腺の構造と機能および生体内でのホルモン特に甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン、副腎皮質ホルモンの働きを中心に概説する。これらのホルモンが関与する病態について概説し、治療薬の作用機序、特徴、副作用について概説する。

<授業時間外の学修>

臨床基礎医学Ⅰ（薬理学）の講義内容を復習しておくこと。講義は、授業範囲のテキストと事前配布資料に目を通しておき、講義後に復習しておくこと。実習は、配布される薬理学実習実施要領に目を通した上で、薬理学実習ガイダンスで説明された実習手順および動物実験実施の基本事項を理解しておくこと。特別講義と実習の後に課題レポートを作成すること。

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

平島 正則（薬理学 masanori@med.niigata-u.ac.jp）
吉松 康裕（薬理学 yyoshi85@med.niigata-u.ac.jp）
椎谷 友博（薬理学 shiyya@med.niigata-u.ac.jp）

令和8年度 薬物による生体調節

月日	曜	時間	講義内容 (NEW薬理学 改訂第8版)	所属	氏名	講義室等
4/6	月	13:00-14:00	動物実験実施の基本事項	脳研究所 動物資源開発研究分野	福田 七穂	大講義室
4/6	月	14:10-15:10	臨床基礎医学 I (薬理学) の復習	薬理学	平島 正則	大講義室
4/6	月	15:20-16:20	薬理学実習ガイダンス	薬理学	平島 正則	大講義室
4/13	月	13:00-16:20	薬理学実習1	薬理学	薬理学一同	第4実習室
4/14	火	13:00-16:20	薬理学実習2	薬理学	薬理学一同	第4実習室
4/20	月	13:00-16:20	薬理学実習3	薬理学	薬理学一同	第4実習室
4/21	火	13:00-16:20	薬理学実習4	薬理学	薬理学一同	第4実習室
4/27	月	13:00-16:20	薬理学実習5	薬理学	薬理学一同	第4実習室
4/28	火	13:00-16:20	薬理学実習6	薬理学	薬理学一同	第4実習室
5/11	月	13:00-14:00	実習のまとめ	薬理学	平島 正則	大講義室
5/11	月	14:10-15:10	末梢神経薬理 (p234-241)	薬理学	椎谷 友博	大講義室
5/11	月	15:20-16:20	コリン作用薬・筋弛緩薬 (p242-259)	薬理学	椎谷 友博	大講義室
6/1	月	13:00-14:00	アドレナリン作用薬 (p260-277)	薬理学	椎谷 友博	大講義室
6/1	月	14:10-15:10	全身麻酔薬 (p356-363)	薬理学	椎谷 友博	大講義室
6/1	月	15:20-16:20	局所麻酔薬・鎮痛薬 (p364-379)	薬理学	椎谷 友博	大講義室
6/3	水	13:00-14:00	循環器薬理1 (p389-432)	薬理学	吉松 康裕	大講義室
6/3	水	14:10-15:10	(特別講義) ペプチドホルモンのトランスレシヨナルリサーチ	横浜市立大学医学部 薬理学	徳留 健	大講義室
6/3	水	15:20-16:20	(特別講義) ペプチドホルモンのトランスレシヨナルリサーチ	横浜市立大学医学部 薬理学	徳留 健	大講義室
6/15	月	13:00-14:00	循環器薬理2 (p389-432)	薬理学	吉松 康裕	大講義室
6/15	月	14:10-15:10	循環器薬理3 (p389-432)	薬理学	吉松 康裕	大講義室
6/15	月	15:20-16:20	利尿薬 (p433-445)	薬理学	吉松 康裕	大講義室
6/16	火	13:00-14:00	炎症・免疫・アレルギー薬理1 (p451-479)	薬理学	平島 正則	大講義室
6/16	火	14:10-15:10	炎症・免疫・アレルギー薬理2 (p451-479)	薬理学	平島 正則	大講義室
6/16	火	15:20-16:20	生物医薬1 (p37-44)	薬理学	平島 正則	大講義室
6/22	月	13:00-14:00	生物医薬2 (p37-44)	薬理学	平島 正則	大講義室
6/22	月	14:10-15:10	(特別講義) 生物学的製剤による難治性血管病への新規治療法の開発	国立循環器病 研究センター研究所	中岡 良和	大講義室
6/22	月	15:20-16:20	(特別講義) 生物学的製剤による難治性血管病への新規治療法の開発	国立循環器病 研究センター研究所	中岡 良和	大講義室
6/23	火	13:00-14:00	中枢神経薬理1 (p278-355)	薬理学	椎谷 友博	大講義室
6/23	火	14:10-15:10	中枢神経薬理2 (p278-355)	薬理学	椎谷 友博	大講義室
6/23	火	15:20-16:20	薬物の耐性と依存性、アンチ・ドーピング (p380-388)	薬理学	平島 正則	大講義室
6/29	月	8:30-9:30	ホルモン・内分泌・代謝性疾患治療薬1 (p511-553)	薬理学	椎谷 友博	大講義室
6/29	月	9:40-10:40	ホルモン・内分泌・代謝性疾患治療薬2 (p511-553)	薬理学	椎谷 友博	大講義室
6/29	月	10:50-11:50	ホルモン・内分泌・代謝性疾患治療薬3 (p511-553)	薬理学	平島 正則	大講義室
7/7	火	8:30-9:30	復習と補足1	薬理学	平島 正則	大講義室
7/7	火	9:40-10:40	復習と補足2	薬理学	平島 正則	大講義室
7/7	火	10:50-11:50	復習と補足3	薬理学	平島 正則	大講義室
7/17	金	9:00-10:30	本試験	薬理学	薬理学一同	大講義室

講義番号 M1302 科目名 アドバンス基礎医学
単 位 1.5 開講期 第1期 定員 140
担当教員 松本 雅記、中津 史、押川 清孝、河寄 麻美、野住 素広、幡野 敦、
小林 大樹、本多 敦子、中谷 航太ほか非常勤講師若干名
科目英文名 Advanced Basic Medical Science
聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

本講義「アドバンス基礎医学」は生化学関連の2講座が主体となって、第三学年を対象に行う。同2講座が第二学年を対象として実施する「生体内物質と代謝」で修得した生体分子の構造・機能および代謝に関する基礎知識を土台として、「アドバンス基礎医学」では、細胞・組織レベルでの分子機能の理解を深め、疾患発症の基盤となる分子メカニズムを体系的に学習する。これにより、個々の疾患の分子病態学を学ぶための確かな基盤形成を目指す。なお、いくつかの講義内容については、学外の非常勤講師も交えて講義を実施し、より広範かつ専門的な基礎医学の素養を培うことを。

<科目のねらい>

本科目では、分子間の相互作用によって細胞が刺激に応答して特定の機能を発揮する機序、またその異常で病態を引き起こす原理と機構を理解する。また、最先端医学の内容に触れることを目標の1つにおく。当該科目では、研究的な内容の一端も講義する。

<学習の達成目標>

1. 前期の「生体内物質と代謝」を基盤とする現代の分子生物学、分子医学の基礎原理を理解できる。
2. 受容体、タンパク質リン酸化、GTP結合タンパク質を基盤とする細胞内情報伝達経路を理解できる。
3. 感覚系、神経系、筋肉、免疫系などの機能を支える分子原理を理解できる。
4. オミクス、ゲノム解析、ゲノム編集、構造生物学、バイオイメージング、創薬などの、現代医学の診断・治療戦略の基礎となる分子知見を説明できる。

<授業実施形態について>

講義形式で行う。学外実習の学生は追って配信される動画視聴を必須とする。

<成績評価の方法と基準>

当該講義は講義後に実施されるレポートや小テスト等に基づき評価を行う。また、本講義は医学研究実習中に開講されるため、学外実習者に関しては動画講義を受講しレポートを提出のこと。

<使用テキスト>

「ストライヤー 生化学」（第8版；東京化学同人；第2学年「生体内物質と代謝」テキスト）、その他講義で配布される資料等。

<参考文献>

「カラー生化学第4版」(西村書店) ; 日本生化学会編集「細胞機能と代謝マップⅡ 細胞の動的機能」(東京化学同人) ; 「症例ファイル 生化学」(丸善) ; 「細胞の世界」(西村書店) ; 「ペインズ・ドミニチャク生化学第4版」(丸善) ; 「人体の細胞生物学」(日本医事新報社) ; 「ハーパー・生化学 原書30版」(丸善)

<授業計画>

講義日程、講義題目と担当教員名を含む詳細な講義予定表は1回目の講義で配布する。以下の内容を含み、これらに関連する最先端の医学的トピックスに配慮した講義を行う(全18回)。

転写因子の作用機序、細胞内小胞輸送、抗体の多様性の発現機構・免疫生化学、アポトーシス、核内受容体と転写調節、シグナル伝達機構、発生工学の応用、タンパク質の品質管理と病態、オルガネラの特性と生化学機構、オルガネラ間の相互作用、分子生物学の新技术と医学、神経生化学、細胞増殖のシグナリングと発癌機構、細胞周期の調節機構、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、細胞骨格・分子モーター、感覚系の情報伝達機構、創薬、幹細胞・再生医学、RNAiとRNA生物学、分子イメージングの原理、オートファジー、神経変性疾患の分子原理、プロテインキナーゼの活性化機構とタンパク質リン酸化の調節、細胞外基質と細胞間接着の生化学、脂質メディエーターの生化学的役割

<準備学習>

最初の講義時に配布する予定表に沿って講義する。第2学年の「生体内物質と代謝」の講義内容を復習することで本講義の理解が大いに促される。最先端の内容を含むため、一部プリント等補助教材を使った講義があるので、それらも復習すること。

<担当教員(分野等 メールアドレス)>

松本 雅記(システム生化学 masakim@med.niigata-u.ac.jp)

講義番号 M1303 科目名 早期地域医療体験実習 (EME) III
単 位 1 開講期 第1期 定員 140
担当教員 岡崎 史子
科目英文名 Early community medical experience III
聴講指定等 医学部 (医学科)

〈ユニットの位置付け〉

早期地域医療体験実習は、保健・医療・福祉の施設での体験実習を通して人間理解を深め、チーム活動における協調性を養い、患者、高齢者、子ども、障害者とその家族とのコミュニケーション技法を学びます。また地域保健・地域医療、福祉における医師の役割の重要性を認識し、患者中心の医療を行うための基本的知識、技能、態度を培うことを目的としています。3年生のEMEIII-訪問看護ステーション実習-では特に、地域の中核病院および開業医との連携を持つ訪問看護ステーションで訪問看護師とともに行動することで在宅医療の実際を体験し、1. 医療の時間軸の体感、2. 家族・地域社会の多様性の体感、3. 医療の「場」についての体感、4. 訪問看護を含む多職種への体感、5. チームワーキングの素養の獲得に焦点をあてています。前後して病院看護実習を行い、病院での医療、チーム医療の違いについての考察も行います。

〈到達目標〉

1. 医療の時間軸を体感する:疾患を持った患者は、ある時期は病院で医療を受け(病院医療)、そして地域社会に戻る。慢性疾患、難治性疾患では病院医療後の地域社会での医療(病院後医療)が患者・家族を支えることになる。このように、医療には、病院前医療(予防医学・健康増進)、病院医療、そして病院後医療という時間軸がある。在宅医療は地域医療の大きな柱の一つであり、介護保険導入により、ますますその重要性が増す分野でもある。訪問看護ステーションは高齢者医療ばかりでなく、難病の長期支援、慢性疾患のフォロー(例えば、在宅リハビリなど)、末期癌患者の在宅ケアなども行っている。精神疾患や小児医療も含まれている。病院後医療の一つである在宅ケアを知ることにより、医療における時間軸を体感する。

2. 家族・地域社会の多様性を体感する:在宅ケアでの患者支援の主役は家族であることが多いがそのあり方は多様である。近年では独居の患者も増加している。患者を支える家族、そして家庭の存在を考え、また地域社会と患者・家族の生活支援との関連を考える。

3. 医療の「場」について体感する:在宅医療は医療の場が家である。病院医療では病室である。医療が行われる「場」の違いについて考える。在宅では家族のサポートも大きなウェイトを占める。同じ疾患であっても患者さん一人ひとりが受ける家族のサポートが異なっている。現在ではかなり高度な医療を在宅で行えるようになってきている。同じ医療を病院で行う場合と家で行う場合の相違について体感し、考える。

4. 訪問看護を含む多職種の役割を体感する:医療を支える医師以外の職種は多岐にわたる。チーム医療の素養を身に付けるためには、医師以外の職種の理解が必要である。本実習では、その一つとしての特に訪問看護という仕事について理解を深め、見聞きできたその他の職種の役割も体感する。

5. チームワーキングに必要な素養を獲得する:将来、医療人として多職種の人たちとチームを組んで、患者中心の医療が実践できる素養を養う。人から学ぶ、そして職場で学ぶ態度を獲得する。

学修上の注意

訪問看護ステーション実習に関して、以下の授業が組み込まれていますので、必ず出席してください。

2月6日(金):倫理観と人間性 EMEIII実習ガイダンス その1

4月2日(木) 統合臨床医学(介護保険法)

5月12日(火):EMEIII実習ガイダンス 大講義室

5月12日(火) 統合臨床医学(精神福祉保健法)

5月18日(月) 統合臨床医学(医療面接実習)

5月29日(金):EMEIII・看護実習振り返り 大講義室

〈学修上の注意事項〉

1. 実習受け入れ訪問看護ステーションでは日常業務の上に、皆さんのために実習指導をしていただくことを忘れないでください。学生が遅刻したり、集合場所を間違えたりすれば、訪問看護師さんたちの業務を妨害することになります。学生が、患者さんが受ける医療を邪魔したことになります。明らかにステーションの日常業務を妨げた場合、その学生の実習は中止します（この判断は、ステーションの管理者にお願いしてあります）。ステーションの皆さんは、医学生が在宅医療の現場を知ること賛同し、実習を受け入れてくださっています。また、ステーション側は事前に患者さんとそのご家族に医学生の実習の了解を取ってくださっています。学生は、この実習が患者さん・ご家族とステーション側の好意で実現していることを、決して忘れないでください。そして、最も大事なことは患者安全であることを理解してください。

2. 患者さん宅に上がり、患者さんとその家族に接することになります。服装、挨拶、自己紹介「新潟大学医学部医学科3年生の〇〇です。よろしくお願いします」、立ち居振舞いなどの基本的マナー（玄関でぬいだ靴をそろえる）、そして医学生としてのモラルを守ってください。患者さん宅での居眠りは決してしないでください。自分の家に他人が学習目的で入ってくるということがその家の人にとってどのように感じるか、想像してみてください。身分証明書としてのネームプレートを必ず着用してください。医師になる者として、患者さんにご家族のプライバシーは必ず守ってください。

3. 学生が自ら積極的に実習に参加しないと得るものはありません。自ら学ぶ態度が患者さん、ご家族、そしてステーションのスタッフに伝わります。自分の行動、態度に責任を持ってください。

4. 患者さんの自宅に上がり、患者さんとそのご家族に接する実習です。5月12日（火）にはEMEIIIガイダンスで実習上の重要注意事項の伝達を行います。この授業に事前の連絡なく欠席した場合は、訪問看護ステーション実習への参加を許可しません。

5. 提出されたレポート等は個人情報保護した条件で、学会発表、論文等に利用します。

〈実習の時期〉

学生をA、Bの2グループに分け、Aグループは5月19日（火）～22日（金）の4日間、Bグループは5月25日（月）～28日（木）の4日間実習を行います。ステーションのお休みの関係で一部、午後がお休みになる場合があります。

〈実習受け入れステーション〉

新潟県内の42のステーションに実習を受け入れていただいています。

〈実習開始までのスケジュール〉

1. 事前（3月下旬メド）に配属先をお知らせします。配属先を調べて、4月中旬までに「実習を受けるにあたって」のレポートを書いてもらいます。自己紹介も含めてください。文章はそのまま実習先に送付します。

2. 4月2日、5月12日の統合臨床医学で関連する法令について授業をします

3. 5月12日（火）の統合臨床医学で、実習についてのガイダンスを行います。

4. 実習のことで連絡が必要な場合には、学生にメール（niigata-u.ac.jp）または学務情報システムで連絡します。

〈実習の内容〉

実習初日に多くの訪問看護ステーションではオリエンテーションが行われると思います。（集合時間・場所については事前に通知します）。その後は訪問看護師さん一人に学生一人が同行し、患者さん宅を訪問します。学生は訪問看護師さんの指示に従ってその仕事の手伝いをします。患者さんによっては、学生が家の中に入ってくることを拒否することがあります。その時は患者さん宅の前や車の中で待つこととなります。看護行為の種類によっては患者さんのプライバシーのために、学生にその場から離れるように、との指示が出ることもあります。特に異性の患者さんへの配慮を忘れないでください。

実習指導者には、学生が介護の知識・技術のトレーニングをしていないことを伝えてあります。学生ができることは何でもさせてくださるようにもお願いしてあります。実習形態はクラークシップ、

即ち丁稚奉公形式です。学生から「何かお手伝いすることはありませんか?」と積極的に聞いてください。実習が患者さんの家で行われていることを忘れないでください。医療は人間の営みすべてに関わることです。入浴介助、体位変換ばかりでなく、排泄に関係することも学生は手伝うこととなります。実習で見たこと、感じたことなど疑問点は実習指導者に積極的に質問してください。学生とのディスカッションを大事にしてくださいようお願いしています。学生が自分の意見をステーションのスタッフと議論することは、重要なことです。積極的な関わりを持つようにしてください(スタッフと異なる意見を言うことは決して日常業務妨害にはなりません)。

ステーションでは患者さんのカルテを見ることとなります。カルテには患者さん本人のことばかりでなく、ご家族のことも記載されています。医学生として守秘義務を守る必要があります。

実習はそのステーションの就業時間に合わせます、とお伝えしてあります。また、業務の都合で時間が変わる場合があります。現場の業務に支障のないようにしてくださいとお願いしてあるので、これらの変更があることは承知しててください。

学生はあくまでも医学生として行動してください。一般の学生(医学部以外)にはこの実習のように他人の家に入り、患者さんやご家族のプライバシーに接することはありえません。医師になるものとしての期待があるから、患者さんやご家族が、学生が家に入るのを許してくれているのです。学生は実習中、患者さん、ご家族そして訪問看護ステーションスタッフから医学生として期待を込めて見られているということを決して忘れないでください。

実習指導者の指示で訪問以外に病院、診療所、保健所、行政機関等に出向くこともあります。患者さん支援のためのボランティアを行うこともあります。日々、実習記録を記載してもらいます(5月12日(火)配布)。実習記録はボールペン書きとし、毎日訪問看護ステーションの指導者に見せてください。この記録は5月29日(金)実習反省会の時に持参し、必ず提出してください。

学外で移動をともなう実習なので、交通事故などに細心の注意をしてください。

〈実習時の服装、持参する物〉

1. ネームプレート(これは身分証明書となります。ネームプレート不携帯者は実習に参加できません)

2. 服装は上はポロシャツ(無地で色は派手でないもの。寒い場合は下に長袖のTシャツなど着用)、下は長ズボン(Gパンは禁止します)、ソックスを着用。運動靴を着用。ハンドタオル3枚、替えのソックス3足、着替え一式、筆記用具を持参してください。服装の色、形については、下記の6を参照。着替えを忘れ、ステーションで借用することがないようにしてください。

3. 秒針付腕時計を着用してください。(バイタルサインをとるために必須です。秒針のある時計を身につけるのは医師の常識です。)

4. 実習時間中は禁煙です。休み時間の喫煙もステーションによっては認められていません。実習指導者によく確認してください。

5. ピアス、指輪は外してください(キケンです)。高齢者の方の中には男性の茶髪、長髪を不快に思う人がいますので、髪は整えてください(アルビノの傾向がある学生は前もってユニット責任者に申し出てください)。長い髪の場合は、束ねてください(感染防御の基本です)。

6. 服装については、医学部学生が実習のために患者さん宅にあらせてもらうのに患者さんとそのご家族が不快に思わないようなものにしてください。患者さん宅では、学生は正座することが多いのできつめの長ズボンはつらいと思います(正座も練習しておいてください)。あまり原色の強い服装では高齢の患者さんが嫌がります。清潔感を与え、なおかつ患者さんを介助し易い服装を心掛けてください。

7. 実習時間中は私用で携帯電話は使わないでください(緊急時は除く)。

8. 事前に配布する配属先ステーションからの注意事項を必ず守ってください。(服装等について追加事項が書かれている場合があります)。

〈実習期間中の昼食について〉

昼食は各自で用意してください。ステーションから特別な指示がある場合には、事前に連絡します。近くにお店がない場合も多いので、基本は持参してください。昼食時間も、可能であれば、スタッフの人たちとの交流を深めることをお勧めします。

〈レポートについて〉

6月5日(金)までにレポートを提出してください。レポートはワープロ打ちとし、A4版の紙に上

下左右 2.5cm 以上のマージンをとり、10~12 ポイント、1 行文字数 40 字程度、行数 35~40 字程度で作成してください。枚数制限はありません。そのまま印刷原稿とします。レポートの最初のページに学生番号、氏名、そして実習先の名称を入れ、その下に本文を続けてください（表紙は不要です）。提出されたレポートは冊子にし、実習先の訪問看護ステーションに郵送します。また、次年度の 3 年生にも配布します。レポートに患者の個人情報が入らないよう細心の注意をしてください。本実習は 1 単位ユニットですので、実習時間 35 時間以外に事前学習とレポート作成に最低 10 時間の学習を求めます。その学習成果がレポートの内容に反映されていることが求められます。

〈実習期間中の連絡先〉

健康に注意し、体調を整えて実習に臨んでください。万一、体調に異常が生じ、実習ができなくなった場合は、すみやかにステーションの担当者に連絡し、指示を受けるとともに大学（学務係 025-227-2016）に連絡をしてください。体調不良以外での遅刻・欠席の場合もステーションと大学に必ず連絡してください。無断で遅刻・欠席してはいけません。大学への連絡は 8:30~18:00 の間にお願いします。

〈教員の連絡先（オフィスアワー）〉

実習内容等で質問や相談がある場合には、実習責任者にメール（fokazaki@med.niigata-u.ac.jp）で連絡してください。面談が必要な場合はメールで日程調整してください。

〈評価方法〉

単位認定の要件

以下の条件を全て満たした学生に単位を認定します。なお、本単位は進級要件です。

1. 実習ガイダンスに出席していること。
2. 実習期間中、無遅刻、無欠席であること。（但し病欠は認めます。風邪をひいた学生が患者さんにうつしてはいけません。）
3. 学習上の注意事項を守ること。訪問看護ステーションの日常業務を妨げないこと。明らかにステーションの日常業務を妨げた場合は、ステーション管理者の判断で、当該学生の実習を中止するよう、依頼してあります（患者安全が第一です）。ステーションから学生に対するクレームがきた場合は、ユニット責任者の判断により学生を大学に呼び戻し、事情を聴き、実習遂行が可能かどうか判断する。実習遂行が困難と判断した場合、当該学生の単位は認定できない。
4. 毎日、訪問看護ステーションに実習記録を提出すること。
5. 患者さん宅での立ち居振る舞いに問題がないこと。
6. レポートの期限を守り提出すること。
7. レポートの内容が学年相当の内容を含んでいること（ユニット責任者が責任ある主観で判定する）。実習に積極的に参加し、十分な振り返りができたものを合格と認める。
8. ユニット責任者からの質疑（メールまたは掲示での呼び出し）に応答・回答すること。

〈実習後の聞き取り調査について〉

実習終了後、実習中の学生の態度、行動などについて、個別にその評価を学生にフィードバックします。フィードバックの内容についての疑義は実習責任者（fokazaki@med.niigata-u.ac.jp）に直接、文書（メール）で行ってください。

〈グループ学生数とローテーションの仕方〉

学生は下記の実習期間のうち、どちらかの週で実習を行います。配属先と実習時期は 3 月下旬の決定を予定しています。残りの週は病院看護実習となります。

〈期間および所要時間〉

A グループ: 5 月 19 日（火）~22 日（金）。

B グループ: 5 月 25 日（月）~28 日（木）。

実習時間は実習先の勤務時間に準じます。多くは 8 時半開始、17 時半までですが、事前に各自にお知らせします。

〈担当教員（内線、メールアドレス）〉

医学教育センター 岡崎史子（内線 0425） fokazaki@med.niigata-u.ac.jp

講義番号 M1304 科目名 病理総論
単 位 3 開講期 第1期 定員 140
担当教員 金関貴幸、時田芹奈（分子病理）、柿田明美、清水宏、他田真理、齋藤理恵（脳研
病理）、中津川宗秀（非常勤講師）
科目英文名 General Pathology
聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

病理学は疾患の原因や成り立ちを明らかにし医療に還元する学問である。病理学総論では、臓器横断的に、なぜ疾患が発生し（病因）どのように進展していくのか（病態形成）を論理的に学ぶ。疾患における形態学的な変化に加え、その背景にある分子レベルの変化を学ぶ。病因と病態形成メカニズムの理解は、臨床医学における疾患の診断、治療、予防の理解につながる。医師として必要な基礎医学知識を習得し、疾患に立ち向かうための思考力を養う。現代医療を形成する科学的基盤を学ぶ。

<科目のねらい>

病因と病態形成を学び、疾患の理解を深め、優れた考察力を持つ医師を育てる。

<学習の達成目標>

- ・細胞傷害と細胞死の分子メカニズムと組織レベルの形態変化を説明できる
- ・血液循環障害と血栓塞栓症の病態形成を説明できる
- ・急性炎症と慢性炎症による生体防御機構を説明できる
- ・遺伝子変異について説明できる
- ・病理診断におけるがんの特徴を説明できる
- ・がんの生物学的特性（hallmarks of cancer）を説明できる
- ・免疫システムによる病態形成および治療への関わりを説明できる
- ・病因と病態形成に基づいて医療を考えることができる
- ・神経系疾患の病態病理を説明できる

<授業実施形態について>

スライドの提示による解説と配布資料を用いて講義を行う。

<授業計画>

- 第1回：病理学入門、細胞傷害と細胞死、血液循環障害
- 第2回：急性炎症と慢性炎症
- 第3回：遺伝子異常と腫瘍
- 第4回：病理学とAI
- 第5回：免疫と疾患、がん免疫学
- 第6回：神経病理1：正常脳・発生・血管障害
- 第7回：神経病理2：脳腫瘍・脳炎
- 第8回：神経病理3：脱髄・中毒・代謝
- 第9回：神経病理4：加齢・神経変性疾患
- 第10回：試験

<成績評価の方法と基準>

筆記試験（100%）で評価する。

<使用テキスト>

Robbins&Kumar Basic Pathology (11th)
Robbins, Cotran&Kumar Pathologic Basis of Disease (11th)
Janeway's Immunobiology (10th)
組織病理アトラス（第6版）

<推薦図書>

Manual of Basic Neuropathology, Escourolle, 6th Eds.

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

金関貴幸（分子病理学：takayuki.kanaseki.med@niigata-u.ac.jp）
柿田明美（脳研究所病理学：kakita@bri.niigata-u.ac.jp）

令和8年度 授 業 予 定 表

[科目名 病理総論]

月 日	曜	時 間	講 義 内 容	担 当 教 員	
				所 属	氏 名
4月6日	月	8:30-9:30 9:40~10:40 10:50-11:50	病理学入門、細胞傷害と細胞死、血液循環障害	分子病理	金関貴幸
9日	木	〃	急性炎症と慢性炎症	分子病理	金関貴幸
23日	〃	〃	遺伝子異常と腫瘍	分子病理	金関貴幸
30日	〃	〃	病理学とAI	分子病理	中津川宗秀
5月7日	〃	〃	免疫と疾患、がん免疫学	分子病理	金関貴幸
14日	〃	〃	神経病理1：正常脳・発生・血管障害	脳研病理	柿田明美・齋藤理恵
15日	金	〃	神経病理2：脳腫瘍・脳炎	脳研病理	清水宏・他田真理
6月4日	木	〃	神経病理3：脱髄・中毒・代謝	脳研病理	他田真理・齋藤理恵
11日	〃	〃	神経病理4：加齢・神経変性疾患	脳研病理	清水宏・他田真理
25日	〃	8:30-9:30 9:40~10:40	試 験	分子病理・脳研病理	金関貴幸・時田芹奈

3
年
次
生

講義番号 M1305 科目名 生体防御と感染(細菌学)
 単 位 3 開講期 第1期 定員 140
 担当教員 松本 壮吉(細菌学)、西山 晃史(細菌学)、Shaban Amina Kaboso(細菌学)、
 竹石 惇樹(細菌学)、阿戸 学(国立感染症研究所)、掛屋 弘(大阪公立大学)
 立石 善隆(福島県立医科大学)、知花 博治(千葉大学真菌医学研究センター)、

講義実習補助 小林 和夫(昭和大学、国立感染症研究所)

科目英文名 Bacteriology

聴講指定等

<科目の概要>

感染症は古来より人類に多大な健康被害をもたらしてきたが、感染症学、特に細菌学が学問として体系化されるようになったのは、ロベルト・コッホ(1843-1910)が病原細菌を同定してからのことである。現在、世界の年間総死亡は約5,500万人、その内訳として、循環器疾患:約1,600万人、感染症:約1,500万人、悪性新生物:約700万人であり、感染症は現在でも全世界の総死亡の約1/4-5を占めている。さらに、従来、非感染性疾患として認識されていた悪性新生物や多くの循環器疾患における基本的病態である動脈硬化に病原体感染が関与し、現代においても感染症は広範で甚大な健康被害を惹起している。

本科目では、理論的に細菌・真菌感染症の予防、治療、制圧を実践できる医師の養成を目指し、まず細菌の生命起源、学問体系、基本的性状や病原性、宿主応答との関わりなどの基礎知識を習得する。さらにテロリズムを含む感染症の脅威、新興・再興感染症、動物由来感染症、行政対応、国際化、施設内感染や治療・予防医学など、感染症学が包含する今日的課題や対策について包括的に学び、国内外で感染症対策に貢献できる人材の育成に寄与する。

<科目のねらい>

細菌・真菌感染症の既知事項の習得と、未知を含む感染症の発生に対して対策を探求・考案・実践できる医師の養成。

<学習の達成目標>

(総論)

- ・ 細菌学の歴史を概説できる。
- ・ 細菌・真菌細胞の構造と機能を説明できる。
- ・ 細菌・真菌の病原因子を列挙しその機能を説明できる。
- ・ 感染経路と疾病を引き起こす機序を説明できる。
- ・ 滅菌と消毒について説明できる。
- ・ 抗菌薬とその使用方法を理解でき、また薬剤耐性菌の耐性機序を説明できる。
- ・ 感染と宿主応答の関わりを理解できる。
- ・ ワクチンと予防接種法が説明できる。
- ・ 将来、新しい病原体が出現する理由を説明できる。

(各論)

- ・ グラム陽性菌の特徴と引き起こす疾患を列挙できる、また疾患の成り立ちを理解できる。
- ・ グラム陰性菌の特徴と引き起こす疾患を列挙できる、また疾患の成り立ちを理解できる。
- ・ 抗酸菌(結核菌と非結核性抗酸菌)の特徴と引き起こす疾患を列挙できる、また疾患の成り立ちを理解できる。
- ・ スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの特徴と引き起こす疾患を列挙できる、また疾患の成り立ちを理解できる。
- ・ 真菌の特徴と引き起こす疾患を列挙できる、また疾患の成り立ちを理解できる。

(実習)

- ・ 消毒と滅菌を実践できる。
- ・ グラム染色と抗酸性染色の操作ができ、細菌の形態や染色性を識別できる。
- ・ 病原菌の培養と薬剤感受性検査ができる。
- ・ 観察所見から、治療の方向性を決定できる。

<登録のための条件(注意)>

- ・ 特になし。

<授業実施形態について>

・講義・実習など。

<授業計画>

No.	月日	時間	場所	講師	内 容
1	4月7日 (火)	13:00- 14:00	大講義室	松本 壮吉	微生物と感染症の脅威
2		14:10- 15:10		松本 壮吉	細菌学の歴史、細菌の構造と形態
3		15:20- 16:20		松本 壮吉	細菌の病原性因子 1; 細胞壁、きょう膜
4	4月8日 (水)	8:30- 9:30	大講義室	松本 壮吉	細菌の病原性因子 2; 線毛、鞭毛
5		9:40- 10:40		松本 壮吉	細菌の病原性因子 3; 分泌装置、細胞内寄生
6		10:50- 11:50		松本 壮吉	細菌の病原性因子 4; 外毒素と内毒素
7	4月15日 (水)	8:30- 9:30	大講義室	松本 壮吉	細菌の病原性因子 5; 病原性の発現機構と疾患
8		9:40- 10:40		松本 壮吉	細菌・真菌に対する宿主応答と病原体の生存戦略
9		10:50- 11:50		松本 壮吉	芽胞形成、薬剤耐性・消毒と滅菌
10	4月17日 (金)	13:00- 14:00	大講義室	竹石 惇樹	抗微生物化学療法(1)
11		14:10- 15:10		竹石 惇樹	抗微生物化学療法(2)
12		15:20- 16:20		西山 晃史	グラム陰性桿菌の細菌学的特徴と疾患(1)
13	4月22日 (水)	8:30- 9:30	大講義室	西山 晃史	グラム陰性桿菌の細菌学的特徴と疾患(2)
14		9:40- 10:40		西山 晃史	グラム陰性桿菌の細菌学的特徴と疾患(3)
15		10:50- 11:50		西山 晃史	グラム陰性桿菌の細菌学的特徴と疾患(4)
16	4月24日 (金)	13:00- 14:00	大講義室	松本 壮吉	総論試験
17		14:10- 15:10		西山 晃史	グラム陽性球菌感染症(1)
18		15:20- 16:20		西山 晃史	グラム陽性球菌感染症(2)
19	5月1日 (金)	13:00- 14:00	大講義室	阿戸 学	グラム陽性球菌感染症(3)
20		14:10- 15:10		西山 晃史	非結核性抗酸菌症
21		15:20- 16:20		立石 善隆	真菌症と病院感染制御学(1)
22	5月13日 (水)	8:30- 9:30	大講義室	掛屋 弘	真菌症と病院感染制御学(2)
23		9:40- 10:40		掛屋 弘	真菌の基礎と疾患
24		10:50- 11:50		知花 博治	

25	5月15日 (金)	13:00- 14:00	大講義室	SHABAN AMINA KABOSO	グラム陽性桿菌の細菌学的特徴と疾患
26		14:10- 15:10		竹石 惇樹	グラム陰性球菌の細菌学的特徴と疾患
27		15:20- 16:20		松本 壮吉	感染症に関わる法律、感染症ワクチンの研究 開発における産・官・学連携と規制科学
28	6月11日 (木)	13:00- 14:00	大講義室	松本 壮吉	ハンセン病
29		14:10- 15:10		松本 壮吉	結核(1)
30		15:20- 16:20		松本 壮吉	結核(2)
31	6月12日 (金)	13:00- 14:00	大講義室	SHABAN AMINA KABOSO	食中毒・アフリカの健康問題と感染症
32		14:10- 15:10		竹石 惇樹	スピロヘータ細菌と生物有機化学
33		15:20- 16:20		SHABAN AMINA KABOSO	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア
34	6月17日 (水)	13:00- 16:20	第2実習室	西山, SHABAN 竹石, 松本	細菌学実習
35	6月18日 (木)	13:00- 16:20	第2実習室	西山, SHABAN 竹石, 松本	
36	6月19日 (金)	13:00- 16:20	第2実習室	西山, SHABAN 竹石, 松本	
37	6月24日 (水)	13:00- 16:20	第2実習室	西山, SHABAN 竹石, 松本	細菌学実習
38	6月25日 (木)	13:00- 16:20	第2実習室	西山, SHABAN 竹石, 松本	
39	6月26日 (金)	13:00- 16:20	第2実習室	西山, SHABAN 竹石, 松本	
40	7月1日 (水)	13:00- 16:20	第2実習室	西山, SHABAN 竹石, 松本	細菌学実習
41	7月2日 (木)	13:00- 16:20	第2実習室	西山, SHABAN 竹石, 松本	
42	7月3日 (金)	13:00- 16:20	第2実習室	西山, SHABAN 竹石, 松本	
43	7月9日 (木)	8:30- 10:40	大講義室	松本 壮吉	細菌・真菌学各論・実習 試験

<準備学習の内容>

- ・ 関連分野の教科書を講義の事前に通読しておく

<学習への準備>

- ・ Zoomにアクセスできる情報機器端末およびインターネット接続環境の準備が必要。

<授業実施形態について>

- ・ 講義は対面を基本とするが、状況や教員の判断で、Zoomも使用する。
- ・ 数回のレポート作成を課す

<成績評価の方法と基準>

総論試験(40%)、実習試験(20%)、各論試験(40%)で評価

総論試験、各論試験とも対面を予定

<使用テキスト>

- ・ 参考文献を使用

<参考文献>

- ・ 標準微生物学 第15版、2024、錫谷 達夫、松本 哲哉 編。医学書院、ISBN-13: 978-4-260-05344-0
- ・ シンプル微生物学 改訂第6版、2018、小熊惠二/堀田博/若宮伸隆、南江堂、ISBN-13: 978-4524254835
- ・ Molecular Biology of the Cell, 7th edition. Bruce Alberts, Alexander Johnson, et al. 2022, New York, Garland Science, ISBN 978-0-393-88485-2.
- ・ Cellular & Molecular Immunology, 11th ed. Abul K. Abbas, MBBS, Andrew H. Lichtman, Shiv Pillai, and Sarah Henrickson, 2025, Elsevier, ISBN 9780443283581.

<関連リンク>

国立健康危機管理研究機構

トップページ (<https://www.niid.jih.s.go.jp>)

感染症情報センター

(<https://id-info.jih.s.go.jp>)

厚生労働省

トップページ (<http://www.mhlw.go.jp/>)

感染症情報ページ

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekku-aku-kansenshou/index.html)

世界保健機関 (World Health Organization, WHO)

トップページ (<http://www.who.int/en/>)

World Health Statistics Report

(<https://www.who.int/data/gho/publications/world-health-statistics>)

米国疾病対策センター (Centers for Disease Control and Prevention, CDC)

トップページ (<https://www.cdc.gov/index.html>)

Diseases & Conditions

(<https://www.cdc.gov/nchs/fastats/diseases-and-conditions.htm>)

<担当教員 (細菌学分野等 メールアドレス) >

松本 壮吉 (細菌学分野 sohkichi@med.niigata-u.ac.jp)

講義番号 M1306 科目名 生体防御と感染(免疫学)
単 位 2.5 開講期 第1期 定員 140
担当教員 片貝智哉、小澤まどか、小谷唯
竹内新(東京医科大学)、澤新一郎(九州大学)
科目英文名 Immunology (Immune Defence and Infection)
聴講指定等 医学部(医学科)

<科目の概要>

免疫系は自己と非自己を識別して病原体などの外来異物を排除するとともに、体内の異常を検知して生体恒常性を保つ役割を担う高度なシステムである。複雑で動的なネットワークにより成り立つ免疫系の巧妙なメカニズム、多くの疾患との関連を分子・細胞レベルで理解する。

<科目のねらい>

免疫系を担う多様な細胞と分子の特徴や機能を学び、それらがどのように関わり合っ
て免疫応答が成立しているのかについて全体像を把握する。また、免疫系が関与する
さまざまな事象や疾患病態を相互に関連付けて学ぶことにより、その動作原理と異常
についての理解を深める。

<学修の達成目標>

- ・ 免疫細胞・関連分子の働きを理解し、免疫応答の機序や免疫記憶の成立機構を説明できる。
- ・ 多様な免疫関連事象や病態(炎症・感染症・ワクチン・アレルギー・自己免疫疾患・臓器移植・がん免疫など)における免疫系の関与を具体的に説明できる。

<登録のための条件>

- ・ 細胞や分子など、生命科学に関連する基本的な知識を身に付けていることが望ましい。

<授業実施形態について>

- ・ 講義、実習(グループ学習等)
- ・ 基本資料としてプリントを配布
- ・ 数回のレポート作成を課す

※ 学務情報システムを用いた資料配布、課題提示、質疑応答等

<授業計画>

(1)免疫学総論(免疫学の概要、免疫応答の概略他)

(2)基礎免疫学

1. 人類と免疫
2. 免疫細胞・免疫記憶
3. 免疫器官
4. 抗原と受容体
5. 抗体
6. サイトカイン・細胞間情報伝達
7. 自然免疫
8. 獲得免疫
9. MHC・抗原提示
10. 細胞性免疫
11. 液性免疫
12. 免疫細胞の循環・移動
13. 皮膚免疫・粘膜免疫
14. 自然リンパ球
15. 免疫寛容
16. 免疫研究・検査

(3)臨床免疫学

1. 炎症
2. 感染免疫
3. ワクチン

4. 過敏反応・アレルギー
5. 自己免疫疾患
6. 免疫不全
7. 移植免疫
8. 腫瘍免疫

(4)実習

<準備学習の内容>

下記推薦教科書のうち少なくとも1冊を通読し、各授業項目の概要を事前に把握、理解できていない事項や疑問点などを明確にしておく。

<成績評価の方法と基準>

1. 出席状況（無断欠席、不適切な理由による欠席に対しての減点）
2. 筆記試験（対面） 70%
3. 課題レポート、実習レポート、小テスト（授業中に行うことがある） 30%

<推薦教科書>

1. アバス・リックマン・ピレ「基礎免疫学」（原著第7版）
中尾篤人監訳 エルゼビア・ジャパン 定価 6,800 円（税別）
2. リッピンコットシリーズ「イラストレイテッド免疫学」（原書3版）
矢田純一／高橋秀実監訳 丸善出版 定価 6,800 円（税別）
3. エッセンシャル免疫学（第4版）
笹月健彦監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 定価 6,500 円（税別）
4. 基礎から学ぶ免疫学
山下政克編 羊土社 定価 4,000 円（税別）

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

- | | | |
|--------|------------|--------------------------------|
| 片貝 智哉 | （免疫・医動物学分野 | katakai.med@niigata-u.ac.jp) |
| 小澤 まどか | （免疫・医動物学分野 | ozawa-mad.med@niigata-u.ac.jp) |
| 小谷 唯 | （免疫・医動物学分野 | y.kotani.med@niigata-u.ac.jp) |

令和8年度 授 業 予 定 表

[科目名：免疫学]

3
年
次
生

月 日	曜	時 間	講 義 内 容	担 当 教 員		講 義 室 等
				所 属	氏 名	
4月1日	水	10:50 - 11:50	免疫学総論	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
4月2日	木	13:00 - 14:00	人類と免疫	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		14:10 - 15:10	免疫細胞・免疫記憶	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		15:20 - 16:20	免疫器官	免疫・医動物	小澤まどか	大講義室
4月9日	木	13:00 - 14:00	抗原と受容体	東京医科大学	竹内新	大講義室
		14:10 - 15:10	抗体	東京医科大学	竹内新	大講義室
		15:20 - 16:20	サイトカイン・細胞間情報伝達	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
4月14日	火	8:30 - 9:30	自然免疫	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		9:40 - 10:40	獲得免疫	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		10:50 - 11:50	MHC・抗原提示	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
4月16日	木	13:00 - 14:00	細胞性免疫	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		14:10 - 15:10	液性免疫	免疫・医動物	小谷唯	大講義室
		15:20 - 16:20	免疫細胞の循環・移動	免疫・医動物	小澤まどか	大講義室
4月21日	火	8:30 - 9:30	炎症	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		9:40 - 10:40	感染免疫	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		10:50 - 11:50	ワクチン	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
4月23日	木	13:00 - 14:00	過敏反応・アレルギー	免疫・医動物	小谷唯	大講義室
		14:10 - 15:10	皮膚免疫・粘膜免疫	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		15:20 - 16:20	自然リンパ球（特別講義）	九州大学	澤新一郎	大講義室
4月28日	火	8:30 - 9:30	免疫寛容	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
5月12日	火	8:30 - 9:30	自己免疫疾患	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		9:40 - 10:40	免疫不全	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		10:50 - 11:50	移植免疫	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
5月14日	木	13:00 - 14:00	腫瘍免疫	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		14:10 - 15:10	免疫研究・検査法	免疫・医動物	小澤まどか	大講義室
		15:20 - 16:20	実習ガイダンス	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
6月2日	火	13:00 - 14:00	実習	免疫・医動物	片貝・小澤・小谷	第2実習室
		14:10 - 15:10	実習	免疫・医動物	片貝・小澤・小谷	第2実習室
		15:20 - 16:20	実習	免疫・医動物	片貝・小澤・小谷	第2実習室
6月4日	木	13:00 - 14:00	実習	免疫・医動物	片貝・小澤・小谷	第2実習室
		14:10 - 15:10	実習	免疫・医動物	片貝・小澤・小谷	第2実習室
		15:20 - 16:20	実習	免疫・医動物	片貝・小澤・小谷	第2実習室
6月8日	月	8:30 - 9:30	試験	免疫・医動物	片貝・小澤・小谷	大講義室
		9:40 - 10:40	試験	免疫・医動物	片貝・小澤・小谷	大講義室

講義番号 M1307 科目名 生体防御と感染(ウイルス学)
単 位 2 開講期 第1期 定員 140
担当教員 阿部隆之、高橋雅彦、垣花太一、湊菜未

科目英文名 Immune Defense and Infection (Virology)
聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要>

ウイルス感染症は現代でも重要な医学研究領域である。近年の新興・再興感染症の世界的な流行が、私達の社会に与えたインパクトからもその重要性が理解できる。ウイルスは偏性細胞寄生性の微生物であり、その感染生活環や病原性発症の理解ならびに感染制御には、宿主とウイルスの相互作用に基づいた科学的な知識が必要となる。本科目では、ヒトに病気を引き起こすウイルス感染症を各論的に学び、感染宿主との相互作用の観点から生体防御機構についての理解を深める。また、ウイルスの負の側面だけではなく、ウイルスによって発見された分子生物学の様々なエポックメイキングや医療における有用なツールとしての役割についても触れる。

<科目のねらい>

1. ヒトに疾患を引き起こすウイルス感染症に対する正確な知識を持ち、次世代の医学及び医療に貢献できるリサーチマインドを持った医師の養成。
2. 実習を通じて、ウイルス薬剤耐性検査の方法を実践し、理解する。

<学習の達成目標>

1. ウイルスの感染生活環（吸着、侵入、複製、再集合、出芽）を詳細に説明できる。
2. ヒトに疾患を引き起こすウイルス感染症について、その特性について詳細に説明できる。
3. 新興・再興感染症の発生メカニズムについて説明できる。
4. 人獣共通ウイルス感染症について説明できる。
5. ウイルス性疾患の検査法・診断法について説明できる。
6. ウイルス性疾患の治療（抗ウイルス薬など）及び予防法（ワクチンなど）の作用機構について説明できる。
7. ウイルス変異に基づく抗ウイルス薬耐性の分子機構について説明できる。
8. ウイルス感染に対する生体防御機構（自然免疫）及びウイルスによる回避機構について説明できる。

<登録のための条件（注意）>

対面講義であるが、Zoomにアクセスできる通信機器及びインターネット接続環境も準備しておくこと。

<授業実施形態について>

1. 講義ではスライドプレゼンテーションを使った解説を行う。小テストを授業中に行うことがある（加点対象となる）。
2. 授業開始前に学務情報システムの授業連絡通知で資料を配布する。
3. ウイルス学実習ではグループに分かれて作業を行う。実習終了後、指定された期限内でレポートを作成し、提出する。

<授業計画および必要とされる授業時間外の学修内容>

授業計画（別表記載）

1. ウイルス学各論講義（21時間の授業計画）＋ウイルス学本試験
授業時間外に、参考文献や関連リンクを参考にして予習し、疑問点を明確にしておく。各ウイルスの生活環（宿主細胞への感染から新しいウイルスの放出までの仕組み）、感染様式、治療法、予防法などについて復習する。
2. ウイルス学実習（9時間の授業計画、実習6時間、発表3時間）
事前学習によりエイズウイルス感染症の薬剤耐性検査の流れを予め理解し、実習後に検査結果の考察を行ってレポートを作成する（1班6～8名で構成され、グループディスカッション形式にて行う）。

<成績評価の方法と基準>

筆記試験（対面）、実習レポート、出席（病欠などの適切な理由のない欠席や無断欠席等は減点対象となる）、小テストによる加点措置により総合評価を行う。筆記試験については、原則教材や講義資料の持ち込みを許可しない。

<使用テキスト>

特に指定しない。講義スライドを主な教材とする。

<関連リンク>

1. 国立健康危機管理研究機構のホームページ ; <https://www.jihs.go.jp>
2. 米国国立衛生研究所のホームページ ; <https://www.niaid.nih.gov/>

<参考文献>

標準微生物学 第15版 医学書院
シンプル微生物学 改訂第6版 南江堂
Fields VIROLOGY Fifth Edition 第5版

<キーワード>★

ウイルス、ウイルスレセプター、亜型（サブタイプ）、抗ウイルス薬、ワクチン、薬剤耐性変異、人獣共通感染症、新興・再興感染症、中和抗体、ウイルスベクター、自然免疫。

なお本科目は、基礎ウイルス学の研究と教育に経験を有する教員が、それぞれの専門性に触れながら講義を行います。

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

阿部 隆之（ウイルス学分野 atakayu@med.niigata-u.ac.jp)
高橋 雅彦（ウイルス学分野 masahiko@med.niigata-u.ac.jp)
垣花 太一（ウイルス学分野 kakihana@med.niigata-u.ac.jp)
湊 菜未（植物病理学分野 n.minato@agr.niigata-u.ac.jp)

令和8年度 授業予定表

[科目名：ウイルス学]

月 日	曜	時 間	講 義 内 容	担 当 教 員		講義室等
				所 属	氏 名	
4月1日	水	13:00 - 14:00	ウイルス学総論	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
		14:10 - 15:10	C型肝炎ウイルス	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
		15:20 - 16:20	その他の肝炎ウイルス	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
4月7日	火	8:30 - 9:30	ポリオウイルス	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
		9:40 - 10:40	フラビウイルス (脳炎ウイルス)	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
		10:50 - 11:50	コロナウイルス	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
4月8日	水	13:00 - 14:00	インフルエンザウイルス(1)	ウイルス学	高橋雅彦	大講義室
		14:10 - 15:10	インフルエンザウイルス(2)	ウイルス学	高橋雅彦	大講義室
		15:20 - 16:20	ラブドウイルス	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
4月15日	水	13:00 - 14:00	レトロウイルス(1)	ウイルス学	高橋雅彦	大講義室
		14:10 - 15:10	レトロウイルス(2)	ウイルス学	高橋雅彦	大講義室
		15:20 - 16:20	レトロウイルス(3)	ウイルス学	高橋雅彦	大講義室
4月17日	金	8:30 - 9:30	下痢症ウイルス	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
		9:40 - 10:40	アデノウイルス・ポックスウイルス	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
		10:50 - 11:50	植物ウイルス学	植物病理学	湊菜未	大講義室
4月22日	水	13:00 - 14:00	ヘルペスウイルス(1)	ウイルス学	垣花太一	大講義室
		14:10 - 15:10	ヘルペスウイルス(2)	ウイルス学	垣花太一	大講義室
		15:20 - 16:20	パピローマウイルス・ウイルス発癌	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
4月24日	金	8:30 - 9:30	ウイルス感染と自然免疫	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
		9:40 - 10:40	抗ウイルス剤とワクチン	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
		10:50 - 11:50	プリオン	ウイルス学	阿部隆之	大講義室
5月1日	金	8:30 - 9:30	ウイルス学実習(1)	ウイルス学	阿部・高橋・垣花	第2実習室
		9:40 - 10:40	ウイルス学実習(2)	ウイルス学	阿部・高橋・垣花	第2実習室
		10:50 - 11:50	ウイルス学実習(3)	ウイルス学	阿部・高橋・垣花	第2実習室
5月8日	金	8:30 - 9:30	ウイルス学実習(4)	ウイルス学	阿部・高橋・垣花	第2実習室
		9:40 - 10:40	ウイルス学実習(5)	ウイルス学	阿部・高橋・垣花	第2実習室
		10:50 - 11:50	ウイルス学実習(6)	ウイルス学	阿部・高橋・垣花	第2実習室
5月13日	水	13:00 - 14:00	ウイルス学実習(7)プレゼンテーション	ウイルス学	阿部・高橋・垣花	第2実習室
		14:10 - 15:10	ウイルス学実習(8)プレゼンテーション	ウイルス学	阿部・高橋・垣花	第2実習室
		15:20 - 16:20	ウイルス学実習(9)プレゼンテーション	ウイルス学	阿部・高橋・垣花	第2実習室
5月18日	月	8:30 - 9:30	ウイルス学試験	ウイルス学	阿部・高橋・垣花	大講義室
		9:40 - 10:40	ウイルス学試験	ウイルス学	阿部・高橋・垣花	大講義室

3
年
次
生

講義番号 M1308 科目名 生体防御と感染(医動物学)
単 位 1 開講期 第1期 定員 140
担当教員 片貝智哉、小澤まどか、小谷唯
科目英文名 Medical Zoology (Immune Defence and Infection)
聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要>

近年、わが国の寄生虫感染症は激減したが、世界的には未だに蔓延している地域も多い。グローバル化に伴う輸入感染症やグルメブーム、ペットブームとの関連、AIDSを含む免疫不全症とのつながりなど、これまでとは異なる形で寄生虫感染症に対する理解への重要性が高まっている。主な寄生虫感染症について、病原寄生虫の特徴や病態、臨床症状、診断、治療法などを理解する。

<科目のねらい>

寄生虫感染に対する理解を深め、臨床の現場において寄生虫感染症に遭遇した際に対処が可能な素地を築く。

<学修の達成目標>

- ・ 原虫類・蠕虫類の分類および形態的特徴を説明できる。
- ・ 寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を説明できる。
- ・ 寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を説明できる。
- ・ 日和見寄生虫症と寄生虫症の重症化を説明できる。
- ・ 各臓器・器官の主な寄生虫感染症を説明できる。
- ・ 人畜共通寄生虫症を説明できる。
- ・ 寄生虫症の診断、治療と予防の概要を説明できる。
- ・ 衛生動物の種類と生態とその対策を説明できる。

<登録のための条件>

- ・ 細胞や分子など、生命科学に関連する基本的な知識を身に付けていることが望ましい。

<授業実施形態について>

- ・ 講義
- ・ 基本資料としてプリントを配布

※ 学務情報システムを用いた資料配布、課題提示、質疑応答等

<授業計画>

(1)総論

(寄生虫の分類と寄生虫感染宿主との関係概説)

(2)各論

(寄生虫の生活史、感染経路、形態)

1. 原虫類
2. 線虫類
3. 吸虫類
4. 条虫類
5. 衛生動物

<準備学習の内容>

下記参考書籍や他の教科書などを参考にして、授業項目の概要を事前に把握する。理解できていない事項や疑問点などを明確にしておく。

<成績評価の方法と基準>

1. 出席状況 (無断欠席、不適切な理由の欠席に対する減点)
2. 筆記試験 (対面) 80%
3. レポート、小テスト (授業中に行うことがある) 20%

<参考書籍>

- ・「図説人体寄生虫学」（改訂10版） 吉田幸雄著 南山堂 定価 9,000 円（税別）
- ・「寄生虫学テキスト」（第4版） 上田清ら著 文光堂 定価 5,200 円（税別）

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

片貝 智哉	（免疫・医動物学分野）	katakai@med.niigata-u.ac.jp)
小澤 まどか	（免疫・医動物学分野）	ozawa-mad.med@niigata-u.ac.jp)
小谷 唯	（免疫・医動物学分野）	y.kotani.med@niigata-u.ac.jp)

令和8年度 授 業 予 定 表

[科目名：医動物学]

月 日	曜	時 間	講 義 内 容	担 当 教 員		講義室等
				所 属	氏 名	
4月28日	火	9:40 - 10:40	医動物学総論(1)	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		10:50 - 11:50	医動物学総論(2)	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
4月30日	木	13:00 - 14:00	原虫 1	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		14:10 - 15:10	原虫 2	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		15:20 - 16:20	線虫	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
5月7日	木	13:00 - 14:00	吸虫	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		14:10 - 15:10	条虫	免疫・医動物	片貝智哉	大講義室
		15:20 - 16:20	衛生動物	免疫・医動物	小澤まどか	大講義室
6月8日	月	8:30 - 9:30	試験	免疫・医動物	片貝・小澤・小谷	大講義室
		9:40 - 10:40	試験	免疫・医動物	片貝・小澤・小谷	大講義室

3
年
次
生

講義番号 M1309 科目名 生体防御と感染（総合）

単 位 1.5 開講期 第1期 定員 140

担当教員 阿部隆之（ウイルス学）、高橋雅彦（ウイルス学）、垣花太一（ウイルス学）、松本
荘吉（細菌学）、竹石惇樹（細菌学）、Amina Shaban Kaboso（細菌学）、齋藤孔良（国際保健
学）、柿田明美（脳研病理）、齋藤理恵（脳研病理）、中原亜紗（脳研病理）、濱崎英臣（脳
研病理）、井上穰（脳研病理）、大橋瑠子（臨床病理学）、谷優佑（臨床病理学）、近藤修平
（魚沼地域医療教育センター）、中村真衣（病院病理部/臨床病理学）、緒方亜摘（医学教育セ
ンター）、金関貴幸（分子病理学）

聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

感染症学の多くは基礎医学系の免疫・医動物学、ウイルス学、細菌学、真菌学、脳神経を含む
病理学の講義・実習で系統的に学習することとなっている。本科目では、感染性病原体と疾患
の病態生理、病理組織、さらに関連する生体防御反応について多講座教員による統合的な講義
を編成し、それぞれの専門分野からの情報を一連の流れで提供する。また、疾患導入部となる
全体講義とチュートリアル形式での自主学習について、多分野融合型授業を企画し、重要かつ
多様な感染性疾患について自主学習の契機を利用して能動的学習習慣を身に付ける。また、視
覚的な観点から、病原体と疾患解析に関する医学研究の基本的方策（病態整理の理解、ならび
に診断と治療法の選択など）を会得する。

<科目のねらい>

病理学、微生物学（ウイルス、細菌、真菌、寄生虫など）、公衆衛生学などの多角的な視野・
多彩な専門領域から、病原体を介した重要感染症の病態生理を総合的・自主的に理解すること
を目的とする。さらに臨床系講義へと移行する準備段階としての感染症に対する有機的な理解、
具体的には微生物学で学んだ個別の病原体及び病理像を臨床的な症候と結びつける、或いは適
切な検査法や治療方針の理解を深めることを本授業の目標とする。

<学習の達成目標>

1. 感染症の起因となる病原体についてその生物学的特徴を説明できる。
2. 感染症の惹起する病理病態学的特徴を説明できる。
3. 感染症の診断法・検査法について説明できる。
4. 感染症の予防や治療について一定の知識を得る。

<登録のための条件（注意）>

講義で学んだ、基礎的な感染症学の知識を身につけていること。

<授業実施形態について>

令和8年度は、7/21（火）から7/27（月）までの平日5日間は本科目の時間割に該当する。7/21
（火）のオリエンテーション時にグループ分け（1班10人前後）、成績評価方法、学習方式及
び各学習疾患についての基本的な解説・学習ポイントを配布資料と共に担当教員から説明する。
7/22（火）から7/24（金）の3日間に、グループ単位でのバーチャルスライドや実標本を用い
た観察実習を行い、さらに自学自習により本科目の達成目標の理解を深める。7/27（月）の最終
日に学習成果を班毎でまとめ、パワーポイント形式によるプレゼンテーションを班単位にて行
う（成績評価の対象となる）。

<授業計画>

1. ウイルス感染症の代表的疾患（パピローマウイルス、水痘ウイルス、HIV日和見感染症）
2. 細菌感染症の代表的疾患（劇症型溶連菌感染症及び結核）
3. 神経系における代表的感染性疾患（プリオン、クリプトコッカス）

各班は、1-3 の項目を班ごとの課題としてそれぞれ学習する。項目の疾患について実標本又は
バーチャルスライドを使用した観察を行う。担当班でなくとも希望者には、他の疾患の標本観
察を行う時間を設ける。

<準備学習の内容>

感染症についての学習資料（病理学（神経疾患を含む）・細菌学・ウイルス学・免疫・寄生虫学
等関連テキスト）を準備しておく。発表はパワーポイントファイルによるプレゼンテーション

のため、ファイルを作成可能なパソコンを用意する。パワーポイントファイル作成要領を習得しておくこと。

<成績評価の方法と基準>

班毎のプレゼンテーションと筆記試験により総合評価する。プレゼンテーションの出席は必須とし、欠席の場合はプレゼンテーションの配点はなされない。他の班の発表に対する質問は加対象となるため、学生同士の活発な質疑応答を期待する。筆記試験の教材等の持ち込みは不可とする。実習後に、本科目のアンケートを実施する。

<使用テキスト>

ウイルス学、免疫学・寄生虫学、細菌学、(神経系その他臓器) 病理学で用いた教科書

<参考文献>

堤 寛 著 感染症病理アトラス 文光堂 (復刻オンライン版)

<https://pathos223.com/atlas/index.htm>

https://pathos223.com/atlas2017/book/index.html#target/page_no=5

<担当教員 (メールアドレス) >

阿部隆之 : atakayu@med.niigata-u.ac.jp

高橋雅彦 : masahiko@med.niigata-u.ac.jp

垣花太一 : kakihana@med.niigata-u.ac.jp

松本荘吉 : sohkich@med.niigata-u.ac.jp

竹石惇樹 : atsuki.takeisih.kuim@niigata-u.ac.jp

Shaban Amina Kaboso : samina@med.niigata-u.ac.jp

柿田明美 : kakita@bri.niigata-u.ac.jp

齋藤孔良 : anayoshi@med.niigata-u.ac.jp

齋藤理恵 : riesaito@bri.niigata-u.ac.jp

中原亜紗 : nastnk11@bri.niigata-u.ac.jp

濱崎英臣 : hamasaki.hideomi@bri.niigata-u.ac.jp

井上穰 : starrysky.joe@gmail.com

大橋瑠子 : riuko@med.niigata-u.ac.jp

谷優佑 : tani@med.niigata-u.ac.jp

近藤修平 : skondo@med.niigata-u.ac.jp

中村真衣 : n-mai@med.niigata-u.ac.jp

金関貴幸 : takayuki.kanesaki@med.niigata-u.ac.jp

講義番号 M1310 科目名 環境医学
単 位 1.5 開講期 第1期 定員 140

担当教員 中村 和利, 渡邊 裕美
科目英文名 Environmental and Occupational Medicine
聴講指定等 医学部 (医学科)

<科目の概要>

個体を取り巻く環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について学ぶ。具体的には環境医学(狭義)と産業医学を学ぶ。

環境は、内部環境と外部環境に分けられる。この授業では、主に個体を取り巻く環境、すなわち外部環境を取り上げる。外部環境は古くからヒトの健康と社会生活に密接に関与してきた。遺伝子異常による疾病の Etiology が解明されるに従い、環境要因の重要性も明らかになってきている。また近年、自然環境、生活環境、職場環境に共通する新たな環境問題が発生しており、それらの将来にわたる影響が問題となっている。従来の中毒学等の有害物質に対する概念の枠では解決できないヒトへの影響も懸念されており、新たな視点から環境医学を学ぶ。

産業医学では、労働者の安全衛生のため、産業医の専門性が改めて見直され、その重要性が増している。産業職場における労働災害の減少と生活習慣病の増加により、職場環境を一般社会の縮図として捉え、二次予防から一次予防へと産業医学の焦点が変わりつつある。現代の職場環境がどのような問題を抱え、それに対する解決方法は何か、現場で活躍する産業医を招いて、共に考える。

<科目のねらい>

高校までに学んだ環境問題と違い、環境と健康・疾病との関わりについて学ぶ。個体を取り巻く環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について学ぶ。具体的には環境医学(狭義)と産業医学を学ぶ。

<学習の達成目標>

最終的な授業の目標は、以下のとおりである。

1. 環境と健康・疾病との関係、特に環境と適応、主体-環境系について概説できる。
2. 環境基準と環境影響評価について説明できる。
3. 公害と環境保全を概説できる。
4. 有害物質、環境発癌物質、内分泌攪乱物質による生態系の変化が健康と生活に与える影響を説明できる。
5. 地球環境の変化、生態循環、生態濃縮と健康を説明できる。
6. 産業医学の3管理の観点から、産業医の職務を説明できる。

<登録のための条件>

環境および環境問題に関する一般的知識と医学の基礎的な知識(人体の構造と仕組み)が必要。

<授業実施形態について>

第1回から第7回の環境医学実習はグループワークにより行う。その他は講義形式で行う。いずれも対面を基本とする。第8回から第15回は各回の前半で実習の発表を行い、後半で各論講義を行う。学務情報システム、学務情報システムアカウントと連携した GoogleClassroom を適宜利用する。

<成績評価の方法と基準>

1. 筆記試験の点数、グループワークの評価によって最終評価を行う。(グループワーク 10% 筆記試験 90%)
2. グループワークには必ず出席し、議事録を提出すること。グループワークに無断欠席の場合は筆記試験の受験資格を失う。
3. 欠席が3分の1以上の場合は筆記試験の受験資格を失う。

<授業計画>

1. 環境医学総論 実習説明
2. 環境医学実習 (グループワーク)
3. 環境医学実習 (グループワーク)
4. 環境医学実習 (グループワーク)
5. 環境医学実習 (グループワーク)
6. 環境医学実習 (グループワーク)
7. 環境医学実習 (グループワーク)
8. 環境医学実習 (グループワーク)
9. 環境医学実習 (グループワーク)
10. 環境と健康・疾病：地球環境の変化、食物連鎖、生物濃縮
11. 環境と健康・疾病：温熱環境、騒音、振動
12. 環境と健康・疾病：放射線
13. 環境と健康・疾病：有害化学物質 (重金属、粉じん、など)
14. 環境と健康・疾病：有機溶剤、揮発性有機化合物 VOC
15. 産業医学：産業医の職務
16. 産業医学：3管理、健康診断
17. 産業医学：発がん物質
18. 大気汚染、水質、アスベスト
19. 内分泌かく乱物質
20. 産業医学概論
21. 環境・産業医学 まとめ
22. 試験

<準備学習の内容>

身近で起こっている環境問題について新聞、文献、インターネット等で広く情報収集し、問題意識をもって講義に臨むこと。

<キーワード>

環境と健康 環境基準 公害 有害物質 産業医 職場環境と健康

<参考文献>

- ・ シーア・コルボーンら著「奪われし未来」増補改訂版 翔泳社 1,540円、デボラ・キャドバリー著「メス化する自然」集英社、レイチェル・カーソン著「沈黙の春」新潮社 737円、有吉佐和子「複合汚染」新潮社 924円
- ・ 木村-黒田純子「地球を脅かす化学物質：発達障害やアレルギー急増の原因」海鳴社 1,650円、日本環境化学会 (著)「地球をめぐる不都合な物質 拡散する化学物質がもたらすもの」(ブルーバックス) 講談社 1,100円
- ・ 政野 淳子「四大公害病」中公新書 968円
- ・ 村上 道夫 等著 「基準値のからくり」(ブルーバックス) 講談社 1,100円。
- ・ 厚生統計協会編「国民衛生の動向」 例年8月に発行される。2025/2026版は 3,740円

<備考>

トピックは多岐にわたる。従って、自分で幅広く情報を収集することが大切である。図書館に関連書籍があることもあるので利用を奨める。

<関連リンク>

厚生労働省のページ(<http://www.mhlw.go.jp/>)

環境省のページ(<http://www.env.go.jp/>)

EPAのページ(<http://www.epa.gov/>)

WHOのページ(<http://www.who.int/home-page/>)

<担当教員（分野等 メールアドレス）>
中村 和利（分野 kazun@med.niigata-u.ac.jp）
渡邊 裕美（分野 ywatana@med.niigata-u.ac.jp）

講義番号 M1313 科目名 医学研究実習
単 位 7 開講期 第2期 定員 140
担当教員 平島 正則
科目英文名 Medical Research Practice
聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

9月、10月の2ヶ月間、選択した医学科及び脳研究所の研究室に配属され、研究活動を行い、医学・生命科学研究の手技、データ解析、研究成果の発表方法などを学ぶ。あるいは、テーマに関する文献を多数読んで、既知となるまでの研究過程を学び、現時点での課題について問いを立て、それを検証するための研究の立案と解決方法、発表方法などを学ぶ。これらを通じて、配属先研究室が携わる医学・生命科学研究に対する関心を高める機会とする。また、配属先研究室の紹介に基づいて、海外を含む学外研究機関での実習も認めている。

<科目のねらい>

医学・生命科学研究への参加や考察を通じて、研究の意義や重要性について理解し、基本的な研究の進め方を学ぶ。研究を通じて建設的・創造的な思考を育み、他者と科学的議論をする態度を身につける。英語論文の読解やプレゼンテーション能力を身につける機会とする。遺伝子組換え実験、動物実験、研究倫理など各種研究におけるルールを理解し遵守する。

<学習の達成目標>

1. 研究テーマの意義・目的を理解し説明することができる。
2. 研究テーマの解決に向けた実験を実施あるいは立案することができる。
3. 実験結果を考察し、他者と議論することができる。
4. 研究成果をまとめて発表することができる。

<授業実施形態について>

各研究室での実習内容については別紙概要を参照。配属される研究室のルールを順守し、協調性に富んだ行動をすること。

<成績評価の方法と基準>

5段階評価。以下のことが求められ評価される。自ら未知、未解決な問題を発見し、論理的思考により研究を推進し問題解決できること。研究についてプレゼンテーションできること。研究に対しての積極的な参加態度。

<授業計画>

1. 8週間の研究実習または論文演習
配属先研究室の教員の指導に従うこと。
2. 実習発表会
配属先研究室の教員の指導のもとでポスター発表または口頭発表の準備を行い、決められた日程で発表する。

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

平島 正則 （薬理学 masanori@med.niigata-u.ac.jp）

令和8年度

医学部医学科講義概要

(4年次生)

2
年
次
生

3
年
次
生

4
年
次
生

新潟大学医学部医学科

講義番号 M1401 科目名 法医学
単 位 2 開講期 第1期 定員 140
担当教員 高塚 尚和、高橋 直也（保健学科）、舟山 一寿、小山 哲秀、葛城梨江香、田中 幸弘（法学部）、櫻井 香子（法学部）、岩瀬博太郎（千葉大学）、奈良 貴史（新潟医療福祉大学）、浅野 水辺（愛媛大学）、内ヶ崎西作（東京医科大学）、藤田 一（けいなん総合病院）、鷺見 博和（新潟県警科学捜査研究所）、秋山 政人（新潟県臓器移植推進財団）

科目英文名 Forensic Medicine
聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

医師に求められる法医学の知識を学習する。

なお、本科目は、法医鑑定業務（解剖鑑定、画像鑑定、歯科鑑定、物体鑑定等）、子供の虐待診断業務、弁護士業務に従事している、あるいは検察官、臓器移植コーディネーターとしての業務経験を有する常勤教員あるいは非常勤教員が、それを活かして実務経験に基づき、実際の医療現場で応用できるようになることを目的として授業を実施する。

<科目のねらい>

人の死、脳死や死の定義、死因としての損傷・窒息・中毒、身元確認のための個人識別など、医師として必要な知識を身につけ、実際の医療現場に出た際、適切な対応ができるようになることを目標とする。

<学習の達成目標>

1. 植物状態、脳死、心臓死及び脳死判定について理解している。
2. 異状死・異状死体の取扱いと死体検案について理解している。
3. 死亡診断書と死体検案書を作成できる。
4. 個人識別の方法を理解している。
5. 病理解剖、法理解剖（司法解剖、行政解剖、死因・身元調査法解剖、承諾解剖）について理解している。
6. 突然死の定義を説明でき、突然死を来しうる疾患（乳幼児突然死症候群〈SIDS〉を含む）を列挙できる。
7. 死因究明制度を理解している。
8. 死後画像診断（Ai）の意義等について理解している。
9. 医療・死因究明に関わる法律（医師法、刑法、刑事訴訟法、民法、民事訴訟法、警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律）について理解している。

<登録のための条件（注意）>

基礎医学を履修し、臨床医学についてもある程度の専門知識を有していること。

<授業実施形態について>

オムニバス形式で講義を実施し、授業前の予習、授業、授業後のレポート（復習）をもって講義が終了したになる。なお、グループ学習やワークショップ等のアクティブ・ラーニングは実施しない。

受講に際し、配慮が必要な学生には詳細な講義資料を事前に配布する等により対応する。

<授業計画>

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. ガイダンス，法医学入門（2回） | 高塚尚和（法医学教室） |
| 2. 人の死・死体現象（2回） | 高塚尚和（法医学教室） |
| 3. 死体検案の実際（1回） | 舟山一寿（法医学教室） |
| 4. 損傷（1回） | 高塚尚和（法医学教室） |
| 5. 窒息（1回） | 高塚尚和（法医学教室） |
| 6. 頭部外傷（1回） | 舟山一寿（法医学教室） |
| 7. 交通事故（1回） | 高塚尚和（法医学教室） |

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 8. 法中毒学 (2回) | 浅野水辺 (愛媛大学) |
| 9. 焼死と異常体温 (1回) | 高塚尚和 (法医学教室) |
| 10. 臓器移植と法医学 (1回) | 秋山政人 (新潟県臓器移植推進財団) |
| 11. 死後画像診断 (2回) | 高橋直也 (保健学科) |
| 12. 法人類学と白骨死体 (2回) | 奈良貴史 (新潟医療福祉大学) |
| 13. 歯科法医学 (2回) | 藤田一 (けいなん総合病院) |
| 14. 民法と医療 (2回) | 田中幸弘 (法学部) |
| 15. 刑法と医療 (1回) | 櫻井香子 (法学部) |
| 16. 臨床法医学 (子ども虐待) (1回) | 高塚尚和 (法医学教室) |
| 17. 死因究明制度 (1回) | 岩瀬博太郎 (千葉大学) |
| 18. 監察医制度 (1回) | 内ヶ崎西作 (東京医科大学) |
| 19. DNA鑑定 (1回) | 鷺見博和 (新潟県警科学捜査研究所) |
| 20. 法医生化学診断 (1回) | 小山哲秀 (法医学教室) |
| 21. 死亡診断書・死体検案書 (2回) | 舟山一寿 (法医学教室) |

高塚、舟山、小山、葛城、櫻井、岩瀬、浅野、内ヶ崎、奈良、藤田、鷺見及び秋山は実務経験を有する教員であり、これらの教員が担当する講義はすべて実務経験を活かした授業である。

なお、4月の講義開始時に講義予定表を配布する。

<準備学習の内容>

講義内容については事前に教科書を読み、予習してから講義に臨んで下さい。

<成績評価の方法と基準>

筆記試験 (90%) の結果及び各講義終了時に実施する小テストやコメント (10%) で評価する。なお、筆記試験の受験には3分の2以上の出席が必要であるが、出席点としての加点は行わない。

<使用テキスト>

1. 高取健彦 監修、長尾正崇編、NEW エssenシャル法医学第6版、医歯薬出版社、ISBN 978-4-263-73189-5、9,680円
2. 田中良弘、宮森征司、高塚尚和 編著、テキストブック 法律と死因究明 [第2版]、信山社、ISBN 978-4-7972-8175-0、1,980円

<関連リンク>

なし

<参考文献>

1. 佐藤喜宣 編著、臨床法医学テキスト第2版、中外医学社、ISBN 978-4-498-00701-7、7,700円
2. 池田則昭、木下博之 編、標準法医学 第8版、医学書院、ISBN 978-4-260-04766-1、6,050円
3. 相馬一玄 監修、上條吉人 著、臨床中毒学第2版、医学書院、ISBN 978-4-260-05220-7、14,300円
4. ・高津光洋 原著、近藤俊和 改訂、検視ハンドブック改訂4版、南山堂、ISBN 978-4525190040、9,680円
5. 日本医学放射線学会 厚生労働科学研究班 編、死後画像読影ガイドライン 2020年版 第2版、金原出版、ISBN 978-4-307-07114-7、4,950円
6. Pollak S、Saukka P、Knight B 編、Knight's Forensic Pathology Fifth Edition、CRC Press、Kindle版、41,828円
7. Michael J et al、Brogdon's Forensic Radiology 2nd edition、CRC Press、ISBN 978-1032917931、16,851円

<キーワード>

★、死、死因究明等

<備考>

実際の事例に基づいて授業をします。

<担当教員（分野等 メールアドレス）>
高塚 尚和（法医学分野 koug-i-fm@med.niigata-u.ac.jp）

講義番号 M1402 科目名 医学情報学（応用）
単 位 0.5 開講期 第1期 定員 140
担当教員 石澤 正博（医歯学総合病院）
科目英文名 Advanced Medical Informatics
聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

医療機関に蓄積される診療情報の扱いを習得する。また、医療 DX（デジタルトランスフォーメーション）時代の医学生・医師にとって必要な情報技術について学ぶ。

<科目のねらい>

臨床実習に出る直前の医学生として、診療録の法的扱いと具体的な記載法を学ぶ。また、様々なシステムが複雑に連携し、診療録含め診療情報の多くがデジタル化されている現代において、その情報を適切に取り扱う（保護する、活用する）スキルは必須である。本科目を通じて、診療情報の「流れ」を理解する。

<学習の達成目標>

1. 病院情報システムの概要を説明できる。
2. 診療録の法的扱い、記載のルールを説明できる。
3. 診療情報のセキュリティを正しく認識する。

<登録のための条件>

医学部医学科で単位未習得の者は必修。

初回からオフィス系ソフト（Word・Excel・PowerPoint、またはそれらと互換性があるソフト）及び電子メールを利用した課題を課すため、操作が不安な者は予め担当教員に連絡すること。

<授業実施形態について>

対面講義でスライドを用いた説明により行う。PDF 資料を配布する。

なお、3 時間を 1 コマとし、各コマについて 3 時間以上の自己学習を要する想定である。

<授業計画>

1. 2026/ 6/16(火) 講義：診療情報のルール、保険診療と自由診療と公費医療
2. 2026/ 6/23(火) 講義＋演習：診療録の記載
(紙カルテ記載を演習するため、黒ボールペンを要する)
3. 2026/ 6/30(火) 講義：病院情報システム、診療情報の電子化、医療 DX
4. 2025/ 7/14(火) 講義：「医学情報学（基礎）」を含めた全体の総括と補足、最終課題

<準備学習の内容>

2 年次の医療情報学（基礎）の内容を概観しておくこと。

<成績評価の方法と基準>

各回の課題（それぞれ 20、30、20、30 点）により評価する。最終評点 60 点/100 点以上で単位を認定する。

- 講義・実習中の態度、対面やメール等での質問やコメントの質を、課題の評価に加味する場合がある（減点もありうる）。
- 不合格者には、それぞれ教員が指定した課題を 1 回に限り修正・再提出を許可する。その場合の最終評点は 65 点を超えない。
- 正当な理由無しに合計 4 時間超の欠席がある場合、1・2 日目の課題を評価しない。すなわち、たとえ 3・4 日目の課題が満点でも、最終評点が 50 点を超えないことに留意する。
- 課題提出までの過程に問題がある場合は、その回の課題を評価しない（具体的には講義内で伝える）。

<使用テキスト>

指定しない。

<参考文献>

厚生労働省 Web サイト <https://www.mhlw.go.jp/index.html>

(医療 DX、医療保険、オンライン診療など)

<関連リンク>

特に無し

<キーワード>

医療分野の情報化、DPC、医療経済

<備考>

本科目は令和9年度以降に内容を変更する予定である。令和6年度以前の「医学情報学(基礎)」を履修した学生の扱い(特に課題)を変える可能性があるため留意すること。

本科目の課題では、生成AIの利用を全面的に許可する。その条件は講義中に示す。

<担当教員(分野等 メールアドレス)>

石澤 正博(医療情報部 ishizawam@med.niigata-u.ac.jp)

講義番号 M1403 科目名 公衆衛生学
単 位 2 開講期 第1期 定員 140
担当教員 齋藤 玲子、我妻 奎太
科目英文名 Public Health
聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

多様化する現代社会で医療・医学、行政、社会を結びつける公衆衛生学について学習する。

<科目のねらい>

社会医学における公衆衛生の位置づけと役割について理解し、その実践について学ぶ。

<学習の達成目標>

1. 地域保健医療の機能と体制を概説できる。
2. 地域保健と地域における医師の役割を概説できる。
3. 医療行政について説明できる。
4. 新興・再興感染症について概説できる。
5. 感染症の予防と対策について説明できる。
6. 人口動態統計について概説できる。
7. 生活習慣病の概念、種類、病態とその予防について説明できる。
8. 国際保健について説明できる。
9. 高齢者保健福祉の特徴と介護保険について説明できる。
10. 悪性腫瘍と心血管・脳血管疾患の疫学について説明できる。
11. 学校保健を説明できる。
12. 母子保健を説明できる。
13. 精神保健を説明できる。
14. 健康増進について概説できる。
15. 保健医療経済を概説できる。
16. 疫学統計を理解できる。
17. 漢方医学の基礎を理解できる。
18. KJ法を使ったグループディスカッションが実施できる（実習あり）。

<登録のための条件（注意）>

疫学統計の知識があること（2年次履修）。一般的な、内科・小児科疾患への知識があること。

<授業実施形態について>

- 講義は、原則的に対面で実施するため、履修学生は講義室で聴講すること。出席状況も期末評価に盛り込むため、毎回講義室で出席を取る。期末試験を受験するためには、講義回数の6割以上の出席が必要である。
- オムニバス形式で最新の情報を外部講師が講義する。
- 講師によっては、遠方などの理由でズームでの講義になるが、その場合も学生は講義室で聴講すること。ズーム中継や動画配信は基本的に行わない。
- KJ法実習の実施方法については、講義の前に聴講生に、あらためて周知する。KJ法実習を欠席すると、期末試験を受験できないため注意すること。
- 期末試験は対面で実施する（2026年7月13日予定）。

<授業計画> 講義表は変更の可能性があるので、4月講義開始時に改めて配布と説明

1. 公衆衛生学、予防医学概論
2. 保健行政（保健所、県、国の各レベル）
3. 国際保健（国際疾病比較、ミャンマー、アフリカ地域の保健医療）
4. 感染症（新型コロナウイルス、感染症法、熱帯感染症、新興再興感染症、ワクチンなど）

5. 小児保健・母子保健・児童虐待予防
6. 学校保健
7. 生活習慣病（脳血管障害、循環器疾患）
8. 悪性腫瘍
9. 高齢者保健福祉と介護保険
10. 精神保健
11. 健康増進
12. 健康日本 21
13. 保健医療経済
14. 地域医療
15. 人口動態統計と疫学
16. 漢方医学
17. KJ法（実習）

<準備学習の内容>

事前学習が必要な場合は、講義中に指示する。

<成績評価の方法と基準>

成績評価は、出席状況（講義と実習）と、対面の期末試験によって行う。各項目の比重は、出席状況が10%、期末試験が90%である。ただし、KJ法実習を欠席したものは、自動的に不合格とするため、実習には必ず参加すること。

<使用テキスト>

- 特に指定はしない。オムニバス形式で最新の情報を講師が講義し、教科書に載っていないことを中心に講義を実施するため。

<参考文献>

- 国試 119-第 119 回医師国家試験問題解説書 2025 年 医師国家試験問題解説書編集委員会
- 公衆衛生がみえる 2026-2027 医療情報科学研究所, 2026
- 国民衛生の動向, 厚生労働統計協会編, 2025/2026 年版
- 国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会編, 2025/2026 年版
- 基本がわかる 漢方医学講義, 日本漢方医学教育協議会編, 2020

<関連リンク>

国際保健学教室 HP (<http://www.med.niigata-u.ac.jp/pub/>)

<備考>

- 講義の連絡や資料の配付については、履修学生のメールアドレスを全て登録した一斉連絡用のメーリングリストを通じて行う (lecturepublichealth@med.niigata-u.ac.jp)。
- 保健所実習は実施しない。自治体の保健行政担当者の講義によって代替する。

<担当教員（分野等 メールアドレス）>

齋藤 玲子、我妻 奎太（国際保健学分野：kokusai@med.niigata-u.ac.jp）

2026年度 公衆衛生学講義 日程表

コマ	月日	曜	時限	時間	講義内容	担当教員		講義室等
						所属	講師	
1	4月6日	月	3限	13:00~14:30	公衆衛生概論	国際保健	齋藤 玲子	第三講義室
2	4月6日	月	4限	14:50~16:20	熱帯感染症	ミャンマー研究拠点	渡部 久美	第三講義室
3	4月13日	月	3限	13:00~14:30	保健所と公衆衛生・医療 ～地域を見て、地域の健康を衛る～	十日町地域振興局健康福祉部医官 十日町保健所長	山崎 理	第三講義室
4	4月13日	月	4限	14:50~16:20	感染症関連話題	国際保健	田村 務	第三講義室
5	4月20日	月	3限	13:00~14:30	運動の疫学～じっとしていないで動きなさい～	新潟大学 教育学部	篠田 邦彦	第三講義室
6	4月20日	月	4限	14:50~16:20	感染症法	国際保健	齋藤 玲子	第三講義室
7	4月27日	月	3限	13:00~14:30	健康日本21	国際保健	菖蒲川 由郷	第三講義室
8	4月27日	月	4限	14:50~16:20	国際保健 1	国際保健	齋藤 玲子	第三講義室
9	5月11日	月	3限	13:00~14:30	がんの疫学	国際保健	菖蒲川 由郷	第三講義室
10	5月11日	月	4限	14:50~16:20	感度特異度・統計解析	国際保健	我妻 奎太	第三講義室
11	5月18日	月	3限	13:00~14:30	心血管疾患の疫学	新潟県立大学	田邊 直仁	第三講義室
12	5月18日	月	4限	14:50~16:20	公衆衛生と医師キャリア	新潟県 福祉保健部	中村 洋心	第三講義室
13	5月25日	月	3限	13:00~14:30	児童虐待	新潟青陵大学	関谷 昭吉	第三講義室
14	5月25日	月	4限	14:50~16:20	災害医学	国際保健	伊藤 宏保	第三講義室
15	6月1日	月	3限	13:00~14:30	漢方医学	いぬかい耳鼻科クリニック	犬飼 賢也	第三講義室
16	6月1日	月	4限	14:50~16:20	精神保健	高橋クリニック	高橋 邦明	第三講義室
17	6月8日	月	3限	13:00~14:30	学校保健	新潟医療福祉大学	杉崎 弘周	第三講義室
18	6月8日	月	4限	14:50~16:20	母子保健～母子を取り巻く環境づくり	新潟県立大学	太田亜 里美	第三講義室
19	6月15日	月	3限	13:00~14:30	保健所における感染症対策	新潟市保健衛生部	山崎 哲	第三講義室
20	6月15日	月	4限	14:50~16:20	介護保険 1	国際保健	齋藤 玲子	第三講義室
21	6月22日	月	3限	13:00~14:30	実習:KJ法	国際保健	齋藤玲子、我妻奎太、 渡部久美、田村務、 松野成美	第5講義室・多目的ホール
22	6月22日	月	4限	14:50~16:20	実習:KJ法	国際保健	齋藤玲子、我妻奎太、 渡部久美、田村務、 松野成美	第5講義室・多目的ホール
23	6月29日	月	3限	13:00~14:30	衛生行政と医療提供体制	三条地域振興局健康福祉環境部 三条保健所	鈴木 幸雄	第三講義室
24	6月29日	月	4限	14:50~16:20	KJ法発表	KJ法発表	齋藤玲子、我妻奎太、 渡部久美、田村務、 松野成美	第三講義室
25	7月6日	月	3限	13:00~14:30	国際保健 2	国際保健	齋藤 玲子	第三講義室
26	7月6日	月	4限	14:50~16:20	介護保険 2	国際保健	齋藤 玲子	第三講義室
27	7月13日	月	1限	8:30~10:00	公衆衛生トピックス	国際保健	齋藤 玲子	第三講義室
28	7月13日	月	2限	10:20~11:50	公衆衛生トピックス	国際保健	齋藤 玲子	第三講義室
29	7月13日	月	3限	13:00~14:30	試験	国際保健	全教員	大講義室
30	7月13日	月	4限	14:50~16:20	試験	国際保健	全教員	大講義室

授業番号 M1409 科目名 医学英語Ⅱ
 単 位 0.5 開講期 第2期 定員 140名
 担当者：Olga Razvina（医学教育センター）、岡崎史子（医学教育センター）
 科目英文目 Medical English II
 聴講指定等 医学部（医学科）

<科目の概要>

グローバル化が進む中、医療従事者にとって外国人患者を診ることは非常に重要な課題である。本科目は日本語で患者と接するために必要なスキルを身につけた学生が、それを英語で練習し、強化することを目的とする。

医学英語Ⅰで基本的な医学英語について学んでいるが、それを診療現場に生かすのは難しい。そこで、臨床実習前OSCEを受験し終わった時点で、OSCEでの医療面接、身体診察を英語で再度学習し、臨床実習において英語圏の患者さんが来院したときでも臆することなく英語での基本的な医療面接、身体診察が実施できる準備を行う。

<科目のねらい>

1年次より蓄積した医療英語の知識を結集させ、臨床実習における診療現場での英語コミュニケーションの準備を行う。

<授業実施形態>

対面授業。講義、ロールプレイ、OSCE

<学習の達成目標>

英語で基本的な医療面接が実施できる。患者への挨拶、自己紹介と自分の役割の説明、導入的な質問、話題の方向づけができる。患者の訴えの正確な履歴を収集し、既往歴や家族歴を知り、患者の面談内容をまとめることができる。

英語で基本的な身体診察が実施できる。患者が診察に備え、落ち着いて検査を受けられるよう検査手順を患者に説明し、配慮ある効果的な指示を英語で出すことが出来る。

<授業計画>

<医学英語Ⅱ>				場所
12/14	月	1限	自己紹介、医療面接導入に必要な英語	第3講義室
		2限	詳細に医療面接を行うための英語	
		3限	身体診察を行うための英語	
12/15	火	1, 2,	学生同士で英語で医療面接を行う（ロールプレイ）	第5講義室、 多目的スペース
		3限	学生同士で身体診察を英語で行う（ロールプレイ）	
12/18	金	1, 2, 3限	模擬患者に対して英語で医療面接を行う（OSCE）	総合研究棟 3階

12月14日 上記の内容の講義を行う。

12月15日 前日に習った英語表現を用いて、学生同士で医療面接、および身体診察を行う。

12月18日 9時開始を予定。全員が、1対1で英語模擬患者との医療面接を行う。

※日程・講師は変更する場合がある。

<授業時間外学修> <使用テキスト>

講義に参加して学んだ内容を重視し、指定教科書は特に設けないが、共用試験実施評価機構から発行されている診療参加型臨床実習に必要なとされる技能・態度についての学修・評価項目<https://www.cato.or.jp/pdf/hyouka_1.1.pdf>日本語を英語で表現するにはどう

したらよいかについてを含め、事前、事後の学修が求められる。

〈成績評価の方法と基準〉

出席は厳密に管理した上で、全 9 コマ中 6 コマ以下欠席の場合は単位を認定しない。英語 OSCE に不参加の場合は、単位を認定しない。講義中のワークシート内容及び提出状況を評点とする。

〈主要な知識内容のキーワード〉

★医学英語 国際教養 英語版 OSCE 対面型授業

〈担当教員（内線、メールアドレス）〉

医学教育センター Olga Razvina 2063 razvinao@med.niigata-u.ac.jp

医学教育センター 岡崎 史子 0425 fokazaki@med.niigata-u.ac.jp

講義番号 M1410 科目名 多職種連携
単 位 0.5 開講期 第1学期 定員 医学科 140名 保健学科約120名
担当教員 岡崎 史子、Razvina Olga、青木 亜美

科目英文名 Interprofessional Education

聴講指定等 医学部（医学科）4年次学生および医学部（保健学科）3年次学生

多職種連携医学科・保健学科合同

<科目概要>

医療の世界ではチーム医療の重要性が重視されている。医師と医療スタッフの役割について医学科学生と保健学科看護学専攻・放射線技術科学専攻学生が協働で事例検討を通し、多職種連携とは何かを学ぶ。

「コミュニケーション」「倫理性と人間性」「医学の専門的な知識」「保健・医療・福祉への貢献」「地域医療・国際性」「リサーチマインド」「自己研鑽・生涯学習」を理解し、その知識、態度、スキルを示せる（基礎レベル）。「診療の実際」を理解し、その知識を示せる（基礎レベル）。

<学習の達成目標>

1. 他学科の学生と協働しながら学習を進めることができる
2. 課題の解決に必要な医学的資料を収集することができる
3. 自分の考えを論理的に整理してわかりやすくプレゼンテーションすることができる
4. 診療チームにおける医師と看護師の連携の重要性を説明できる
5. チーム医療に関する課題・問題点を自ら発見することができる

<授業実施形態について>

講義、ロールプレイ、グループ学習・討論を行う。

<授業計画>

- ・5月26日（火）1,2限 ろう者の世界を考える
- ・6月2日（火）1,2限 医療事故のご遺族の話から、医療安全を考える
- ・授業時間外の学習：事例検討について予習を行う。

<成績評価の方法と基準>

演習科目であり、実習に準じて100%の出席を求める。無断の遅刻は1分でも欠席とみなす。体調不良などの場合には診断書を添えて欠席届を学務係に提出すること。正当な理由による欠席の場合は補講を実施する。評価は、

- ・自己評価 20%
- ・事後のレポート評価40%×2 で実施する。

<参考テキスト>

ヘルス出版 臨床倫理入門 日本臨床倫理学会監修

<担当教員（分野別、メールアドレス）>

岡崎 史子（医学教育センター fokazaki@med.niigata-u.ac.jp）
Razvina Olga（医学教育センター razvinao@med.niigata-u.ac.jp）
青木 亜美（医学教育センター aoki-a@med.niigata-u.ac.jp）